

7 昆虫類

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

1. 昆虫類相概観

昆虫は地球上で最も種類数が多い生物で、種類数では地球上の生物の4分の3は昆虫であるともいわれている。日本からは約32,000種の昆虫が記録されているが、実際には10万種以上が分布していると推定されている。

昆虫調査の進んでいる県では約1万種が記録されており、三重県でも、三重県の昆虫相の解明を目的として、1957年に創立された三重昆虫談話会の会誌「ひらくら」や、国立公園、国定公園の自然環境調査、市町村史編纂に伴う調査、博物館が行った調査、開発に伴う環境調査などで、多数の報告書が発刊されている。これらの文献に記録されている昆虫の記録は、膨大であるが、残念ながら三重県の昆虫に関してまとめられたものはないため、三重県で記録されている昆虫の種類数は、把握されていないのが現状である。

2. 調査内容

今回「三重県レッドデータブック2015」の編纂にあたっては、「三重県レッドデータブック2005（動物編）」に掲載された種を基に、その後、三重県内で新たに記録された種、2012年に公表された環境省の第4次レッドリストに掲載された種の中で、三重県で記録されている種、新たに昆虫部会で検討を要するとした種を対象として、現地調査、文献調査、博物館や個人が所蔵している標本調査を行い、データの収集を行ってランク付けや掲載の有無を検討した。

3. 絶滅危惧種の概要

今回、絶滅と判断された種は14種で、前回からベッコウトンボ、マルコガタノゲンゴロウ、ヒメヒカゲ、キマダラモドキの4種が追加され、前回絶滅とされたチュウブホソガムシは、新たな生息地が確認されたため、絶滅危惧ⅠA類に変更された。

絶滅のおそれのある種として掲載された種は230種で、内訳は絶滅危惧ⅠA類が前回から36種増えて57種、絶滅危惧ⅠB類が前回から25種増えて74種、絶滅危惧Ⅱ類が前回から13種増えて99種であった。目別では、最も多いのがコウチュウ目の156種、次にトンボ目とチョウ目の20種であった。

また、前回絶滅のおそれのある種とされた種の中で、12種は低懸念とされ、1種は除外とされた。

今回ランクアップした種や、新たに追加された種は、河川や池、湿地、海岸など水辺環境に生息している種が大部分である。これは、水辺環境の改変や、農業形態の変化、ブラックバスやアメリカザリガニの影響によるところが多い。

また、森林性の種も、以前は自然林の伐採、スギ、ヒノキの植林の拡大による影響が大きかったが、近年はニホンジカの食害による森林内の下草の激減や、樹木の立枯化、森林地の崩壊による影響が懸念されている。

文 献

日本の昆虫 The Insects of Japan. 日本昆虫学会ホームページ (<http://www.entosoc.jp/>) (2014年9月10日アクセス)

大谷 剛. 1998. 「大きくなれない」昆虫. 日本動物大百科, 10 昆虫III, pp. 173-174. 平凡社, 東京.
(生川展行)

除外種

「三重県レッドデータブック2005 動物」掲載種のうち、今回の改訂により低懸念 (LC) と判定された種、及び評価対象から除外した種とその理由は以下のとおりである。

(表7-1) 改訂により低懸念 (LC) となった種

No.	目名	科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
1	カマキリ	カマキリ	ヒナカマキリ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
2	バッタ	キリギリス	ヒサゴクサキリ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
3	バッタ	ツコムシ	エノツコムシ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
4	ナナフシ	ナナフシ	シラキトビナナフシ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
5	カメムシ	カタピロアメンボ	ケシウミアメンボ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。

哺乳類	6	コウチュウ	コガネムシ	シラホシハナムグリ	VU	生息地が増えているが、国内移入種の侵入の可能性があるため
	7	コウチュウ	コメツキムシ	イチハシチビサビキコリ	NT	新たな生息地が増え、今後も調査が進めば生息地が増える可能性が高いため。
鳥類	8	コウチュウ	ベニボタル	コガタカクムネベニボタル	EN	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
爬虫類	9	コウチュウ	カッコウムシ	クロフアシナガッコウムシ	EN	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	10	コウチュウ	ジョウカイモドキ	キムネヒメジョウカイモドキ	VU	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
両生類	11	コウチュウ	ジョウカイモドキ	クロキオビジョウカイモドキ	VU	新たな生息地が増え、個体数も多いことが確認されたため。
	12	コウチュウ	オオキノコムシ	キリシマチビオオキノコ	EN	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
汽水・淡水魚類	13	コウチュウ	オオキノコムシ	ヒゴノムネビロオオキノコ	NT	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	14	コウチュウ	オオキノコムシ	ミイロムネビロオオキノコ	NT	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
昆虫類	15	コウチュウ	オオキノコムシ	カタモンナガチビオオキノコ	VU	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	16	コウチュウ	オオキノコムシ	ツブコメツキモドキ	VU	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
クモ類	17	コウチュウ	キシイムシ	ガマクスイ	VU	新たな生息地が増え、個体数も多いことが確認されたため。
	18	コウチュウ	ツツヒラタムシ	ツツヒラタムシ	VU	新たな生息地が増え、個体数も多いことが確認されたため。
貝類	19	コウチュウ	テントウムシダマシ	キドマルテントウダマシ	NT	新たな生息地が増え、個体数も多いことが確認されたため。
	20	コウチュウ	キノコムシダマシ	ルリキノコムシダマシ	VU	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
甲殻類	21	コウチュウ	キノコムシダマシ	ミヤマヒメナガクチキ	VU	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	22	コウチュウ	ナガクチキムシ	ホソノミナガクチキ	NT	新たな生息地が増え、今後も調査が進めば生息地が増える可能性が高いため。
その他動物	23	コウチュウ	ナガクチキムシ	ハネナシナガクチキ	NT	新たな生息地が増え、今後も調査が進めば生息地が増える可能性が高いため。
	24	コウチュウ	カミキリモドキ	ホソカミキリモドキ	NT	新たな生息地が増え、今後も調査が進めば生息地が増える可能性が高いため。
EW	25	コウチュウ	ヒゲナガゾウムシ	クロオビヒゲナガゾウムシ	NT	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
EW	26	コウチュウ	ゾウムシ	タカハシトゲゾウムシ	NT	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	27	コウチュウ	ゾウムシ	シロカレキゾウムシ	VU	複合種の可能性があり、分類上、問題があるため、絶滅するおそれがあるかどうかは評価できない。
CR	28	ハエ	ガガンボ	ミカドガガンボ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	29	ハエ	シギアブ	キアシキンシギアブ	DD	新たな生息地が増え、今後も調査が進めば生息地が増える可能性が高いため。
EN	30	ハエ	ツリアブ	クロバネツリアブ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	31	ハエ	ムシヒキアブ	アオメアブ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
VU	32	ハエ	ミギワバエ	ケシミギワバエ	DD	記録は少ないが、既知の生息地が消滅する恐れは少ないため。
	33	チョウ	シジミチョウ	ミドリシジミ	NT	2005年以降10年間の減少率が低下し、生息地が安定したため絶滅リスクは低懸念となった
NT	34	ハチ	ベッコウバチ	ツマアカコブベッコウ	NT	記録は少ないが、今後も調査が進めば生息地が増える可能性が高いため。

(表7-2) 改訂において評価の対象から除外した種

No.	目名	科名	和名	改訂前 県ランク	除外理由
1	トンボ	カワトンボ	オオカワトンボ (淡橙色翅型)	NT	オオカワトンボの型(forma)であり、亜種以上のタクサを評価対象としたため
2	コウチュウ	コガネムシ	ネグロマグノコガネ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
3	コウチュウ	コガネムシ科	ニッコウコエンマコガネ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
4	コウチュウ	コメツキムシ	ナルカワクシコメツキ	DD	現時点では、絶滅の可能性があると判断できる確実な資料がないため。
5	コウチュウ	ベニボタル	チビジュウジベニボタル	DD	現時点では、絶滅の可能性があると判断できる確実な資料がないため。
6	コウチュウ	ジョウカイボン	ジョウカイボン科の種	DD	現時点では、絶滅の可能性があると判断できる確実な資料がないため。
7	コウチュウ	ツツシンクイムシ	オオメツツシンクイ	DD	現時点では、絶滅の可能性があると判断できる確実な資料がないため。
8	コウチュウ	ジョウカイモドキ	ベニオビジョウカイモドキ	EN	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
9	コウチュウ	ムクゲキシイムシ	クロムクゲキシイ	DD	現時点では、絶滅の可能性があると判断できる確実な資料がないため。
10	コウチュウ	オオキノコムシ	ムモンシリグロオオキノコ	DD	現時点では、絶滅の可能性があると判断できる確実な資料がないため。

11	コウチュウ	オオキノコムシ	タカクラチビオオキノコ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
12	コウチュウ	ネスイムシ	オオバケデオネスイ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
13	コウチュウ	ネスイムシ	ムクゲネスイ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
14	コウチュウ	チビヒラタムシ	ホソチビヒラタムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
15	コウチュウ	チビヒラタムシ	ムナクボホソチビヒラタムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
16	コウチュウ	ケシクスイムシ	シリグロオオケシクスイ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
17	コウチュウ	テントウムシダマシ	キイロアシボソテントウダマシ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
18	コウチュウ	テントウムシダマシ	オオダナエテントウダマシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
19	コウチュウ	テントウムシダマシ	クロスジムクゲテントウダマシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
20	コウチュウ	テントウムシダマシ	ベニモンマルガタテントウダマシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
21	コウチュウ	テントウムシダマシ	ナルカワマルテントウダマシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
22	コウチュウ	テントウムシ	フタスジヒメテントウ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
23	コウチュウ	テントウムシ	クロジュウニホシテントウ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
24	コウチュウ	ナガクチキムシ	オオノミナガクチキ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
25	コウチュウ	ナガクチキムシ	ヤマトホソノミナガクチキ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
26	コウチュウ	ナガクチキムシ	ホソアシナガクチキ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
27	コウチュウ	ナガクチキムシ	ムネアカナガクチキ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
28	コウチュウ	ナガクチキムシ	ミスジナガクチキ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
29	コウチュウ	コブゴミムシダマシ	ルイスホソカタムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
30	コウチュウ	コブゴミムシダマシ	ベニモンヒメヒラタホソカタムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
31	コウチュウ	ゴミムシダマシ	ムナビロクチキムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
32	コウチュウ	ゴミムシダマシ	キムラチビコブツノゴミムシダマシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
33	コウチュウ	ゴミムシダマシ	コチビツノゴミムシダマシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
34	コウチュウ	ゴミムシダマシ	ヒラツノゴミムシダマシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
35	コウチュウ	クビボソムシ	ヒラテナガクチキ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
36	コウチュウ	アカハネムシ	クスジヘリハネムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
37	コウチュウ	チビキカワムシ	オオアカチビキカワムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
38	コウチュウ	チビキカワムシ	モリモトチビキカワムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
39	コウチュウ	チビキカワムシ	クチナガチビキカワムシ	DD	現時点では、絶滅の可能性があるとは判断できる確実な資料がないため。
40	コウチュウ	カミキリムシ	アカジマトラカミキリ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
41	コウチュウ	カミキリムシ	トゲムネホソヒゲカミキリ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
42	コウチュウ	カミキリムシ	ソボリンゴカミキリ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
43	コウチュウ	ヒゲナガゾウムシ	ツシマオノヒゲナガゾウムシ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
44	コウチュウ	ゾウムシ	クチナガアシブトゾウムシ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類	45	コウチュウ	ゾウムシ	カンノウカレキゾウムシ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
鳥類	46	コウチュウ	ゾウムシ	キンケツツヒメゾウムシ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
爬虫類	47	コウチュウ	ゾウムシ	オオシマヒサゴクチカクシゾウムシ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
両生類	48	ハエ	ムシヒキアブ	オオイシアブ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
汽水・淡水魚類	49	ハエ	ツリアブ	トラツリアブ	DD	三重県の文献記録は不確実であるので、評価対象外とした。
昆虫類	50	ハエ	ハナアブ	キガオナガハナアブ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
クモ類	51	ハエ	ハナアブ	クロハラナガハナアブ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
貝類	52	ハエ	ニセミギワバエ	シラゲニセミギワバエ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
甲殻類	53	ハエ	ミギワバエ	モズリミギワバエ	DD	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。
その他動物	54	ハエ	ミギワバエ	ミギワバエの1種	VU	記録は少ないが、生育状況が定かではないため、該当する評価区分なしとした。

昆虫類レッドリスト

絶滅 (EX)

	目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
	トンボ	トンボ	ベッコウトンボ	<i>Libellula angelina</i>	CR	132
EW	コウチュウ	オサムシ	キベリマルクビゴミムシ	<i>Nebria livida angulata</i>	EN	132
	コウチュウ	ゲンゴロウ	シマケシゲンゴロウ	<i>Coelambus chinensis</i>		133
CR	コウチュウ	ゲンゴロウ	マルコガタノゲンゴロウ	<i>Cybister lewisianus</i>	CR	133
	コウチュウ	ゲンゴロウ	スジゲンゴロウ	<i>Hydaticus satoi</i>	EX	133
EN	コウチュウ	コガネムシ	ヒメキイロマグソコガネ	<i>Aphodius (Subrinus) sturmi</i>	NT	134
	コウチュウ	コガネムシ	クロモンマグソコガネ	<i>Aphodius (Aphodaulacus) variabilis</i>	NT	134
VU	コウチュウ	カミキリムシ	ヒメピロウドカミキリ	<i>Acalolepta degener</i>	NT	134
	コウチュウ	カミキリムシ	アサカミキリ	<i>Thyestilla gebleri</i>	VU	135
NT	コウチュウ	ハムシ	オオルリハムシ	<i>Chrysolina virgata</i>	NT	135
	コウチュウ	ゾウムシ	ハマベゾウムシ	<i>Isonycholipes gotoi</i>		135
	チョウ	タテハチョウ	オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>	CR	136
	チョウ	タテハチョウ	キマダラモドキ	<i>Kirinia fentoni</i>	NT	136
DD	チョウ	タテハチョウ	ヒメヒカゲ	<i>Coenonympha oedippus arothius</i>	EN	136

絶滅危惧IA類 (CR)

	目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
	トンボ	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ	<i>Lestes japonicus</i>	EN	137
	トンボ	トンボ	ナニワトンボ	<i>Sympetrum gracile</i>	VU	137
	トンボ	トンボ	マダラナニワトンボ	<i>Sympetrum maculatum</i>	EN	138
	トンボ	トンボ	オオキトンボ	<i>Sympetrum uniforme</i>	EN	138
	トンボ	エゾトンボ	ハネピロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i>	VU	139
	トンボ	サナエトンボ	オオサカサナエ	<i>Stylurus annulatus</i>	VU	139
	バッタ	コオロギ	オオオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus magnatus</i>		140
	カメムシ	タイコウチ	ヒメタイコウチ	<i>Nepa hoffmanni</i>		140
	カメムシ	ナベブタムシ	トゲナベブタムシ	<i>Aphelocheirus nawai</i>	VU	140
	カメムシ	コバンムシ	コバンムシ	<i>Ilycoris cimicoides exclamationis</i>	EN	141
	アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ	オオウスバカゲロウ	<i>Heoclisis japonica</i>		141
	コウチュウ	オサムシ	カワラハンミョウ	<i>Cincindela laetescripta</i>	EN	141
	コウチュウ	オサムシ	ミハマオサムシ	<i>Carabus arrowianus kirimurai</i>	CR	142
	コウチュウ	オサムシ	ウガタオサムシ	<i>Carabus maiyasanus ohkawai</i>	VU	142
	コウチュウ	オサムシ	シャクダイジンメクラチビゴミムシ	<i>Kurasawatrechus katoii</i>		143
	コウチュウ	オサムシ	アオヘリアオゴミムシ	<i>Chlaenius praefectus</i>	CR	143
	コウチュウ	オサムシ	エチゴトックリゴミムシ	<i>Oodes echigonus</i>	NT	143
	コウチュウ	コツブゲンゴロウ	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	<i>Canthydrus politus</i>	VU	144
	コウチュウ	コツブゲンゴロウ	キボシチビコツブゲンゴロウ	<i>Neohydrocoptus bivittis</i>	EN	144
	コウチュウ	コツブゲンゴロウ	ムモンチビコツブゲンゴロウ	<i>Neohydrocoptus sp.</i>	VU	144
	コウチュウ	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	VU	145
	コウチュウ	ゲンゴロウ	コガタノゲンゴロウ	<i>Cybister tripunctatus orientalis</i>	VU	145

コウチュウ	ゲンゴロウ	マダラシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus thermonectoides</i>	CR	145
コウチュウ	ゲンゴロウ	ヤギマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus yagii</i>	NT	146
コウチュウ	ゲンゴロウ	シャープツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus sharpi</i>	NT	146
コウチュウ	ガムシ	チュウブホソガムシ	<i>Hydrochus chubu</i>	VU	146
コウチュウ	ガムシ	セスジマルドロムシ	<i>Georissus (Nipponogeorissus) granulatus</i>	VU	147
コウチュウ	クワガタムシ	オオクワガタ	<i>Dorcus hopei binodulosus</i>	VU	147
コウチュウ	クワガタムシ	マグソクワガタ	<i>Nicagus japonicus</i>		147
コウチュウ	コガネムシ	ヒメコエンマコガネ	<i>Caccobius brevis</i>		148
コウチュウ	コガネムシ	ヤマトエンマコガネ	<i>Onthophagus japonicus</i>	NT	148
コウチュウ	コガネムシ	マルエンマコガネ	<i>Onthophagus (Gibbonthophagus) viduus</i>		148
コウチュウ	コガネムシ	ニセセマルケシマグソコガネ	<i>Psammodius maruyamai</i>		149
コウチュウ	コガネムシ	トラハナムグリ	<i>Trichius japonicus</i>		149
コウチュウ	タマムシ	キンモンナガタマムシ	<i>Agrilus auropictus</i>		149
コウチュウ	ホタル	コクロオバホタル	<i>Lucidina okadai</i>	EN	150
コウチュウ	ジョウカイボン	カタキンイロジョウカイ	<i>Themus ohkawai</i>		150
コウチュウ	ゴミムシダマシ	ニセマグソコガネダマシ	<i>Trachyscelis sabuleti</i>		150
コウチュウ	カミキリムシ	フタスジカタビロハナカミキリ	<i>Brachyta bifasciata japonica</i>		151
コウチュウ	カミキリムシ	ムナミゾハナカミキリ	<i>Munamizoa maculata</i>		151
コウチュウ	カミキリムシ	オオミネヒメハナカミキリ	<i>Pidonia (Pidonia) ohminesana</i>		151
コウチュウ	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ	<i>Stenygrium quadrinotatum</i>	EN	152
コウチュウ	カミキリムシ	モモグロハナカミキリ	<i>Toxotinus reinii</i>		152
コウチュウ	カミキリムシ	ムナコブハナカミキリ	<i>Xenophyrama purpureum</i>		152
コウチュウ	ハムシ	セラネクイハムシ	<i>Donacia akiyamai</i>	DD	153
コウチュウ	ハムシ	キンイロネクイハムシ	<i>Donacia japana</i>	NT	153
コウチュウ	ハムシ	カツラネクイハムシ	<i>Donacia katsurai</i>		153
コウチュウ	ハムシ	イネネクイハムシ	<i>Donacia provostii</i>		154
コウチュウ	ゾウムシ	ババズゲヒメゾウムシ	<i>Limnobaris babai</i>		154
ハエ	ハナアブ	ヤマトヒメナガヒラタハナアブ	<i>Chamaesyphus japonicus</i>		154
チョウ	シロチョウ	ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta betheseba</i>	EN	155
チョウ	シロチョウ	スジボソヤマキチョウ	<i>Gonepteryx aspasia nipponica</i>		155
チョウ	シジミチョウ	キマダラルリツバメ	<i>Spindasis takanonis</i>	NT	156
チョウ	シジミチョウ	シルビアシジミ	<i>Zizinaotis emelina</i>	EN	156
トビケラ	シンテイトビケラ	シンテイトビケラ	<i>Dipseudopsis collaris</i>		156
トビケラ	エグリトビケラ	スジトビケラ	<i>Nemotaulius brevilinea</i>		157
ハチ	コンボウハバチ	ナシアシブトハバチ	<i>Palaeocimbex carinulata</i>		157

絶滅危惧IB類 (EN)

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
トンボ	イトトンボ	ヒヌマイトトンボ	<i>Mortonagrion Hirosei</i>	EN	157
トンボ	サナエトンボ	コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i>		158
トンボ	ヤンマ	ルリボシヤンマ	<i>Aeschana juncea</i>		158
トンボ	ヤンマ	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	NT	158
トンボ	トンボ	キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>		159
トンボ	トンボ	タイリクアカネ	<i>Sympetrum striolatum imitoides</i>		159
バッタ	ヒバリモドキ	ハマスズ	<i>Dianemobius csikii</i>		159
バッタ	バッタ	ダイリフキバッタ	<i>Callopodisma dairisama</i>		160
カメムシ	イトアメンボ	イトアメンボ	<i>Hydrometra albolineata</i>	VU	160
コウチュウ	ミズスマシ	オオミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	NT	160
コウチュウ	ミズスマシ	ヒメミズスマシ	<i>Gyrinus gestroi</i>	EN	161
コウチュウ	ミズスマシ	ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i>	VU	161
コウチュウ	オサムシ	シロヘリハンミョウ	<i>Callytron yuasai yuasai</i>	NT	161
コウチュウ	オサムシ	ホソハンミョウ	<i>Cicindela gracilis</i>	VU	162
コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ	<i>Hemicarabus tuberculatus</i>	NT	162
コウチュウ	オサムシ	ムロウオサムシ	<i>Carabus iwawakianus muro</i>		162
コウチュウ	オサムシ	タキハラオサムシ	<i>Carabus maiyasanus takiharensis</i>		163
コウチュウ	オサムシ	カワラゴミムシ	<i>Omophron aequalis</i>		163
コウチュウ	オサムシ	スズカヌレチゴミムシ	<i>Apatrobus narukawai</i>		163
コウチュウ	オサムシ	ダイミョウアトキリゴミムシ	<i>Cymindis daimio</i>		164
コウチュウ	オサムシ	アリスアトキリゴミムシ	<i>Lachnoderma asperum</i>	DD	164
コウチュウ	コガシラミズムシ	キイロコガシラミズムシ	<i>Haliplus eximius</i>	VU	164
コウチュウ	コガシラミズムシ	クロホシコガシラミズムシ	<i>Haliplus basinotatus latiusculus</i>	VU	165
コウチュウ	ゲンゴロウ	マルガタゲンゴロウ	<i>Graphoderus adamsii</i>	VU	165
コウチュウ	ゲンゴロウ	オオマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus bonvouloiri</i>	NT	165
コウチュウ	ゲンゴロウ	マルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus subtilis</i>	NT	166

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類	コウチュウ	ゲンゴロウ	ケシゲンゴロウ	<i>Hyphydrus japonicus</i>	NT	166
	コウチュウ	ゲンゴロウ	ヒメケシゲンゴロウ	<i>Hyphydrus laeiventris</i>	VU	166
	コウチュウ	ゲンゴロウ	キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i>	NT	167
鳥類	コウチュウ	ゲンゴロウ	ルイスツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus lewisii</i>	VU	167
	コウチュウ	ゲンゴロウ	マルチビゲンゴロウ	<i>Leiodytes frontalis</i>	NT	167
爬虫類	コウチュウ	ガムシ	クロシオガムシ	<i>Horelophopsis hanseni</i>	NT	168
	コウチュウ	ガムシ	エゾコガムシ	<i>Hydrochara libera</i>	NT	168
両生類	コウチュウ	エンマムシ	アラメエンマムシ	<i>Zabromorphus punctulatus</i>		168
	コウチュウ	コブスジコガネムシ	ムツコブスジコガネ	<i>Trox (Trox) mutsuensis</i>		169
汽水・淡水魚類	コウチュウ	コブスジコガネムシ	コブナシコブスジコガネ	<i>Trox (Trox) nohirai</i>		169
	コウチュウ	クワガタムシ	ツヤハダクワガタ	<i>Ceruchus lignarius monticola</i>		169
	コウチュウ	クワガタムシ	マメクワガタ	<i>Figulus punctatus</i>		170
昆虫類	コウチュウ	コガネムシ	ヌバタママグソコガネ	<i>Aphodius (Agrilinus) brevisculus</i>		170
	コウチュウ	コガネムシ	オオフタホシマグソコガネ	<i>Aphodius (Aphodius) elegans elegans</i>		170
クモ類	コウチュウ	コガネムシ	コツヤマグソコガネ	<i>Aphodius (Paulianellus) maderi</i>		171
	コウチュウ	コガネムシ	キマダラマグソコガネ	<i>Aphodius (Chilothorax) punctatus</i>		171
貝類	コウチュウ	コガネムシ	アイヌケシマグソコガネ	<i>Petrovitzius ainu</i>		171
	コウチュウ	ムキヒゲホソカタムシ	イチハシホソカタムシ	<i>Antibothrus ichihashii</i>		172
甲殻類	コウチュウ	テントウムシ	イセテントウ	<i>Chujochilus isensis</i>		172
	コウチュウ	コブゴミムシダマシ	アバタツヤナガヒラタホソカタムシ	<i>Pycnomerus sculpturatus</i>		172
	コウチュウ	コブゴミムシダマシ	オオダイヨコミゾコブゴミムシダマシ	<i>Usechus ohdaiensis</i>		173
その他動物	コウチュウ	ゴミムシダマシ	クロズハマベゴミムシダマシ	<i>Epiphalaria atriceps</i>		173
	コウチュウ	ゴミムシダマシ	ヒサゴゴミムシダマシ	<i>Misolampidius rugipennis</i>		173
	コウチュウ	クビナガムシ	キイカクズクビナガムシ	<i>Nematoplus yamato</i>		174
EW	コウチュウ	ツチハンミョウ	マルクビツチハンミョウ	<i>Meloe corvinus</i>		174
	コウチュウ	アリモドキ	タナカホソアリモドキ	<i>Stricticollis tobias</i>		174
EW	コウチュウ	カミキリムシ	ヨコヤマヒゲナガカミキリ	<i>Dolichoprosopus yokoyamai</i>		175
	コウチュウ	カミキリムシ	サツマヒメコバネカミキリ	<i>Epania dilaticornis dilaticornis</i>		175
CR	コウチュウ	カミキリムシ	クロサワヒメコバネカミキリ	<i>Epania septentrionalis</i>		175
	コウチュウ	カミキリムシ	オオハナカミキリ	<i>Konoa granulata</i>		176
EN	コウチュウ	カミキリムシ	フタスジゴマフカミキリ	<i>Mesosa cribrata</i>		176
	コウチュウ	カミキリムシ	カスリチビカミキリ	<i>Mimectatina variegata</i>		176
	コウチュウ	カミキリムシ	エゾトラカミキリ	<i>Oligoenoplus rosti rosti</i>		177
VU	コウチュウ	カミキリムシ	ヒゲブトハナカミキリ	<i>Pachypidonia bodemeyeri</i>		177
	コウチュウ	カミキリムシ	キイロアラゲカミキリ	<i>Penthides rufolavus</i>		177
NT	コウチュウ	カミキリムシ	イガブチヒゲハナカミキリ	<i>Stictoleptura igai</i>		178
	コウチュウ	ハムシ	ツヤネクイハムシ	<i>Donacia nitidior</i>		178
DD	ハエ	ムシヒキアブ	ヒラタムシヒキ	<i>Clinopogon nicobarensis</i>		178
	チョウ	アゲハチョウ	ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	VU	179
	チョウ	シジミチョウ	ベニモンカラスシジミ	<i>Fixenia iyonis</i>	NT	179
	チョウ	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>	VU	179
	チョウ	タテハチョウ	ホシミスジ	<i>Neptis pryri kiiensis</i>		180
	チョウ	タテハチョウ	ウラナミジャノメ	<i>Ypthima motschulskyi nipponica</i>	VU	180
	トビケラ	ヒゲナガトビケラ	ミサキツノトビケラ	<i>Triplectides misakianus</i>		180
	ハチ	ハバチ	パイケイソウハバチ	<i>Aglaostigma amoorensis</i>		181
	ハチ	ハキリバチ	マイマイツツハナバチ	<i>Osmia orientalis</i>	DD	181
	ハチ	ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ	<i>Bembix nipponica</i>	VU	181
	ハチ	コマユバチ	ウマノオバチ	<i>Euurobracon yokahamae</i>	NT	182

絶滅危惧II類 (VU)

目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
トンボ	イトトンボ	ベニイトトンボ	<i>Ceriagrion nipponicum</i>	NT	182
トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i>	NT	182
トンボ	カワトンボ	アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i>	NT	183
トンボ	サナエトンボ	キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryri</i>	NT	183
トンボ	サナエトンボ	ナゴヤサナエ	<i>Stylurus nagoyanus</i>	VU	183
トンボ	サナエトンボ	オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i>	NT	184
トンボ	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	NT	184
トンボ	ヤマトトンボ	キイロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>	NT	184
バッタ	コオロギ	タンボオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus aomoriensis</i>		185
バッタ	バッタ	カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i>		185
カメムシ	セミ	アカエゾゼミ	<i>Tibicen flammatus</i>		185
カメムシ	アメンボ	エサキアメンボ	<i>Limnporus esakii</i>	NT	186
カメムシ	タイコウチ	ヒメミズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>		186
カメムシ	コオイムシ	オオコオイムシ	<i>Appasus major</i>		186

カメムシ	コオイムシ	タガメ	<i>Lethocerus deyrolli</i>	VU	187	哺乳類
カメムシ	キンカメムシ	ニシキキンカメムシ	<i>Poecilocoris splendidulus</i>	—	187	
アミメカゲロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ	<i>Ascalaphus ramburi</i>	—	187	鳥類
コウチュウ	ミズスマシ	キイオナガミズスマシ	<i>Orectochilus regimbarti odaiensis</i>	—	188	
コウチュウ	オサムシ	キバネキバナガミズギワゴミムシ	<i>Bembidion aestuarii</i>	VU	188	爬虫類
コウチュウ	オサムシ	クロカタビロオサムシ	<i>Calosoma maximowiczi</i>	—	188	
コウチュウ	オサムシ	オオヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites sulcatus</i>	NT	189	両生類
コウチュウ	オサムシ	ウミホソチビゴミムシ	<i>Perileptus morimotoi</i>	NT	189	
コウチュウ	オサムシ	ヒトツメアオゴミムシ	<i>Chlaenius deliciolus</i>	NT	189	汽水・淡水魚類
コウチュウ	オサムシ	オオトックリゴミムシ	<i>Oodes vicarius</i>	NT	190	
コウチュウ	オサムシ	オオヨツボシゴミムシ	<i>Dischissus mirandus</i>	—	190	昆虫類
コウチュウ	コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ	<i>Haliplus sharpi</i>	VU	190	
コウチュウ	ゲンゴロウ	テラニシセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus teranishii</i>	—	191	クモ類
コウチュウ	ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	NT	191	
コウチュウ	ゲンゴロウ	キボシツブゲンゴロウ	<i>Japanolaccophilus nipponensis</i>	NT	191	貝類
コウチュウ	ゲンゴロウ	コウベツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus kobensis</i>	NT	192	
コウチュウ	ゲンゴロウ	ヒメシマチビゲンゴロウ	<i>Nebrioporus nipponicus</i>	—	192	甲殻類
コウチュウ	ゲンゴロウ	ゴマダラチビゲンゴロウ	<i>Neonectes natrix</i>	—	192	
コウチュウ	ゲンゴロウ	キボシケシゲンゴロウ	<i>Nipponhydrus flavomaculatus</i>	DD	193	その他動物
コウチュウ	ガムシ	ヤマトホソガムシ	<i>Hydrochus japonicus</i>	NT	193	
コウチュウ	シデムシ	ヤマトモンシデムシ	<i>Nicrophorus japonicus</i>	NT	193	EX
コウチュウ	シデムシ	ホソヒラタシデムシ	<i>Silpha longicornis</i>	—	194	
コウチュウ	コブスジコガネムシ	ヘリトゲコブスジコガネ	<i>Trox (Trox) mandli</i>	—	194	EW
コウチュウ	クワガタムシ	ヒメオオクワガタ	<i>Dorcus montivagus</i>	—	194	
コウチュウ	クワガタムシ	ルリクワガタ	<i>Platycerus delicatulus</i>	—	195	CR
コウチュウ	クワガタムシ	キイニセコルリクワガタ	<i>Platycerus akitaorum</i>	—	195	
コウチュウ	コガネムシ	ヒメスジマガソコガネ	<i>Aphodius (Agrilinus) hasegawai</i>	—	195	EN
コウチュウ	コガネムシ	コスジマガソコガネ	<i>Aphodius (Pleuraphodius) lewisii</i>	—	196	
コウチュウ	コガネムシ	ニセマキバマガソコガネ	<i>Aphodius (Agoliinus) morii</i>	—	196	VU
コウチュウ	コガネムシ	ミヤマダイコクコガネ	<i>Copris (Copris) pecuarius</i>	—	196	
コウチュウ	コガネムシ	ヤマトケシマガソコガネ	<i>Leiopsammodius japonicus</i>	—	197	NT
コウチュウ	コガネムシ	オオチャイロハナムグリ	<i>Osmoderma opicum</i>	NT	197	
コウチュウ	タマムシ	キョウトアオハナムグリ	<i>Protaetia lenzi</i>	—	197	NT
コウチュウ	タマムシ	オオムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris ohbayashii</i>	—	198	
コウチュウ	タマムシ	クロコモンタマムシ (ヤノコモンタマムシ)	<i>Poecilonota variolosa yanoi</i>	—	198	DD
コウチュウ	タマムシ	トゲフタオタマムシ	<i>Dicerca tibialis</i>	—	198	
コウチュウ	タマムシ	アカガネエグリタマムシ	<i>Endelus pyrrrosiae</i>	—	199	DD
コウチュウ	タマムシ	アオタマムシ	<i>Eurythyrea tenuistriata</i>	—	199	
コウチュウ	タマムシ	カラカネチビナカボソタマムシ	<i>Nalanda ohbayashii</i>	—	199	DD
コウチュウ	タマムシ	クロマダラタマムシ	<i>Nipponobuprestis querceti</i>	—	200	
コウチュウ	タマムシ	ホソクリタマムシ	<i>Toxoscelus matobai</i>	—	200	DD
コウチュウ	コメツキムシ	オオダイルリヒラタコメツキ	<i>Actenicerus odaisanus</i>	—	200	
コウチュウ	コメツキムシ	ムネアカツヤケシコメツキ	<i>Megapenthes opacus</i>	—	201	DD
コウチュウ	コメツキムシ	スナサビキコリ	<i>Meristhus nipponensis</i>	—	201	
コウチュウ	ジョウカイモドキ	ルリキオビジョウカイモドキ	<i>Intybia takaraensis</i>	—	201	DD
コウチュウ	ジョウカイモドキ	イソジョウカイモドキ	<i>Laius asahinai</i>	DD	202	
コウチュウ	オオキノコムシ	オオキノコムシ	<i>Encaustes cruenta praenobilis</i>	—	202	DD
コウチュウ	ヒラタムシ	ルリヒラタムシ	<i>Cucujus mniszehi</i>	—	202	
コウチュウ	コブゴミムシダマシ	アトコブゴミムシダマシ	<i>Phellopsis suberea</i>	—	203	DD
コウチュウ	ゴミムシダマシ	テントウゴミムシダマシ	<i>Leiochrinus satzumae</i>	—	203	
コウチュウ	ゴミムシダマシ	ホソハマベゴミムシダマシ	<i>Micropedinus pullulus</i>	—	203	DD
コウチュウ	ゴミムシダマシ	クロホシクチキムシ	<i>Pseudocistela haagi</i>	—	204	
コウチュウ	アカハネムシ	オカモトツヤアハネムシ	<i>Pedilus okamotoi</i>	—	204	DD
コウチュウ	カミキリムシ	テツイロハナカミキリ	<i>Encyclops olivacea</i>	—	204	
コウチュウ	カミキリムシ	クビアカハナカミキリ	<i>Gaurotes atripennis</i>	—	205	DD
コウチュウ	カミキリムシ	ヤマトシロオビトラカミキリ	<i>Kazuoclytus lautoides</i>	—	205	
コウチュウ	カミキリムシ	ヒメヨツスジハナカミキリ	<i>Leptura kusamai kusamai</i>	—	205	DD
コウチュウ	カミキリムシ	マヤサンコブヤハズカミキリ	<i>Mesechthistatus furciferus furciferus</i>	—	206	
コウチュウ	カミキリムシ	クロソンホソハナカミキリ	<i>Mimotrangalia kurosonensis</i>	—	206	DD
コウチュウ	カミキリムシ	イヨヒメハナカミキリ	<i>Pidonia hylophila hylophila</i>	—	206	
コウチュウ	カミキリムシ	ルリボシカミキリ	<i>Rosalia (Rosalia) bateshi</i>	—	207	DD
コウチュウ	カミキリムシ	フタコブルリハナカミキリ	<i>Stenocorus coeruleipennis</i>	—	207	
コウチュウ	カミキリムシ	タケウチホソハナカミキリ	<i>Strangalia takeuchii</i>	—	207	DD
コウチュウ	カミキリムシ	オオクボカミキリ	<i>Tengius ohkuboi</i>	—	208	

哺乳類	コウチュウ	カミキリムシ	オオトラカミキリ	<i>Xylotrechus vilioni</i>	—	208
	コウチュウ	ハムシ	ガガブタネクイハムシ	<i>Donacia lenzi</i>	—	208
	コウチュウ	ゾウムシ	シロスジタコゾウムシ	<i>Hypera adspersa</i>	—	209
鳥類	ハエ	ケバエ	メスアカケバエ	<i>Bibio japonica</i>	—	209
	ハエ	ミズアブ	ミズアブ	<i>Stratiomys japonica</i>	—	209
爬虫類	ハエ	ツルギアブ	ナギサツルギアブ	<i>Acrosathe stylata</i>	—	210
	ハエ	ツルギアブ	ヨシコツルギアブ	<i>Acrosathe yoshikoeae</i>	—	210
両生類	ハエ	ツルギアブ	シオサイツルギアブ	<i>Acrosathe</i> sp.	—	210
	ハエ	ハナアブ	ケンランアリノスアブ	<i>Microdon katsurai</i>	VU	211
汽水・淡水魚類	チョウ	ツトガ	ヒメコミズメイガ	<i>Parapoynx rectilinealis</i>	—	211
	チョウ	シャクガ	クワトゲエダシャク	<i>Apochima excavata</i>	NT	211
昆虫類	チョウ	ヤガ	カバフキシタバ	<i>Catocala mirifica</i>	—	212
	チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>	NT	212
	チョウ	セセリチョウ	ミヤマチャバネセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i>	—	212
	チョウ	シジミチョウ	オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>	—	213
	チョウ	シジミチョウ	ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata</i>	—	213
	チョウ	シジミチョウ	クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i>	EN	213
	チョウ	シジミチョウ	ルーミスシジミ	<i>Panchala ganesa</i>	VU	214
甲殻類	チョウ	タテハチョウ	ツマジロウラジャノメ	<i>Lasiommata deidamia interrupta</i>	—	214
	チョウ	タテハチョウ	クロヒカゲモドキ	<i>Lethe marginalis</i>	EN	214
その他動物	トビケラ	フトヒゲトビケラ	ヒトスジキソトビケラ	<i>Psilotreta japonica</i>	—	215

準絶滅危惧 (NT)

	目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
EW	トンボ	モノサシトンボ	グンバイトンボ	<i>Platycnemis foliacea sasakii</i>	NT	215
EW	トンボ	ムカシトンボ	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>	—	215
	トンボ	サナエトンボ	ヒメクロサナエ	<i>Lanthus fujiacus</i>	—	216
CR	トンボ	サナエトンボ	タベサナエ	<i>Trigomphus citimus tabei</i>	NT	216
	トンボ	サナエトンボ	フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i>	NT	216
EN	トンボ	トンボ	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>	—	217
	トンボ	トンボ	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	—	217
VU	トンボ	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i>	—	217
	バッタ	コロギス	コバネコロギス	<i>Neanias magnus</i>	—	218
	バッタ	カマドウマ	イセカマドウマ	<i>Paratachycines isensis</i>	—	218
NT	バッタ	コオロギ	クチナガコオロギ	<i>Velarifictorus aspersus</i>	—	218
	バッタ	ササキリモドキ	スズカササキリモドキ	<i>Kinkiconocephalopsis matsuurai</i>	—	219
DD	バッタ	バッタ	ヤマトマダラバッタ	<i>Epacromius japonicus</i>	—	219
	バッタ	バッタ	イナゴモドキ	<i>Mecostethus parapleurus</i>	—	219
	バッタ	バッタ	ヒメフキバッタ	<i>Parapodisma etsukoana</i>	—	220
	バッタ	ヒシバッタ	ノセヒシバッタ	<i>Alulattix fornicatus</i>	—	220
	カメムシ	セミ	チツゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>	—	220
	カメムシ	セミ	エゾハルゼミ	<i>Terpnosia nigricosta</i>	—	221
	カメムシ	セミ	コエゾゼミ	<i>Tibicen bihamatus</i>	—	221
	カメムシ	セミ	エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	—	221
	カメムシ	アメンボ	オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	—	222
	カメムシ	アメンボ	シロウミアメンボ	<i>Halobates matsumurai</i>	VU	222
	カメムシ	コオイムシ	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>	NT	222
	カメムシ	ミズムシ	ミゾナシミズムシ	<i>Cymatia apparens</i>	NT	223
	カメムシ	ミズムシ	ホッケミズムシ	<i>Hesperocorixa distanti hokkensis</i>	NT	223
	カメムシ	ミズムシ	ナガミズムシ	<i>Hesperocorixa mandshurica</i>	NT	223
	カメムシ	ミズムシ	ミヤケミズムシ	<i>Xenocorixa vittipennis</i>	NT	224
	カメムシ	ツチカメムシ	ハマベツチカメムシ	<i>Psamnozetes ater</i>	—	224
	カメムシ	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ	<i>Canthophorus niveimarginatus</i>	NT	224
	カメムシ	ツノカメムシ	ツノアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma haemorrhoidale angulatum</i>	—	225
	アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ	コマダラウスバカゲロウ	<i>Dendroleon jesoensis</i>	—	225
	アミメカゲロウ	ツノトンボ	オオツノトンボ	<i>Protidricerus japonicus</i>	—	225
	コウチュウ	ミズスマシ	コオナガミズスマシ	<i>Orectochilus punctipennis</i>	VU	226
	コウチュウ	オサムシ	アイヌハンミョウ	<i>Cicindela gemmata aino</i>	NT	226
	コウチュウ	オサムシ	クマノヤマトオサムシ	<i>Carabus yamato kitai</i>	—	226
	コウチュウ	オサムシ	ヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites aterrimus</i>	—	227
	コウチュウ	オサムシ	コヤメクラチビゴミムシ	<i>Trechiana apicedentatus</i>	—	227
	コウチュウ	オサムシ	イマダテメクラチビゴミムシ	<i>Trechiana imadatei</i>	—	227
	コウチュウ	オサムシ	スズカメクラチビゴミムシ	<i>Trechiana suzukaensis</i>	—	228
	コウチュウ	オサムシ	ヒラケメクラチビゴミムシ	<i>Kurasawatrechus hirakei</i>	—	228

コウチュウ	オサムシ	シノダチメクラチビゴミムシ	<i>Kurasawatrechus ichihashii</i>	—	228	哺乳類
コウチュウ	オサムシ	イグチケブカゴミムシ	<i>Peronomerus auripilis</i>	NT	229	
コウチュウ	オサムシ	ナガホラアナヒラタゴミムシ	<i>Jujiroa elongata</i>	—	229	鳥類
コウチュウ	オサムシ	スズカオオズナガゴミムシ	<i>Pterostichus akitai</i>	—	229	
コウチュウ	ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>	NT	230	爬虫類
コウチュウ	ゲンゴロウ	シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringi</i>	NT	230	
コウチュウ	ガムシ	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>	DD	230	両生類
コウチュウ	ガムシ	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i>	NT	231	
コウチュウ	ガムシ	コガタガムシ	<i>Hydrophilus bilineatus cashimirensis</i>	VU	231	汽水・淡水魚類
コウチュウ	コブスジコガネムシ	アイヌコブスジコガネ	<i>Trox (Trox) setifer setifer</i>	—	231	
コウチュウ	クワガタムシ	キンキコルリクワガタ	<i>Platycerus takakuwai akitai</i>	—	232	昆虫類
コウチュウ	クワガタムシ	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis</i>	—	232	
コウチュウ	コガネムシ	マルツヤマゴソコガネ	<i>Apodius (Sinodiapterna) troitzkyi</i>	—	232	クモ類
コウチュウ	コガネムシ	オオダイセマダラコガネ	<i>Exomala ohdaiensis</i>	—	233	
コウチュウ	コガネムシ	ジュウシチホシハナムグリ	<i>Paratrichius septemdecimguttatus</i>	—	233	貝類
コウチュウ	コガネムシ	アカマダラコガネ	<i>Poecilophilides rusticola</i>	DD	233	
コウチュウ	コガネムシ	ミヤマオオハナムグリ	<i>Protaetia lugubris</i>	—	234	甲殻類
コウチュウ	コガネムシ	オオヒラチャイロコガネ	<i>Sericania ohirai</i>	—	234	
コウチュウ	テントウムシダマシ	セダカテントウダマシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>	—	234	その他動物
コウチュウ	テントウムシ	ジュウクホシテントウ	<i>Anisosticta kobensis</i>	—	235	
コウチュウ	ゴミムシダマシ	オオマルチビゴミムシダマシ	<i>Caedius maderi maderi</i>	—	235	EX
コウチュウ	ゴミムシダマシ	ハネナシセスジキマワリ	<i>Strongylium marseuli marseuli</i>	—	235	
コウチュウ	アカハネムシ	ヘリハネムシ	<i>Ischalia patagiata</i>	—	236	EW
コウチュウ	アリモドキ	クロオビホソアリモドキ	<i>Anthicus protensus</i>	—	236	
コウチュウ	アリモドキ	クロスジイッカク	<i>Notoxus haagi haagi</i>	—	236	CR
コウチュウ	カミキリムシ	タケウチヒゲナガコバネカミキリ	<i>Glaphyra takeuchii takeuchii</i>	—	237	
コウチュウ	カミキリムシ	クビアカモボトホソカミキリ	<i>Kurarua rhopalophoroides</i>	—	237	EN
コウチュウ	ゾウムシ	イチハシシギゾウムシ	<i>Curculio ichihasii</i>	—	237	
コウチュウ	ゾウムシ	タマサルゾウムシ	<i>Orobitis apicalis</i>	—	238	VU
コウチュウ	ゾウムシ	クマノヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius kumanoensis</i>	—	238	
コウチュウ	ゾウムシ	リュイスヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius lewisi</i>	—	238	NT
ハエ	クサアブ	イワタシギクサアブ	<i>Dialysis iwatai</i>	—	239	
ハエ	キアブモドキ	フトヒゲナガキアブモドキ	<i>Solva procera</i>	—	239	DD
ハエ	ミズアブ	コガタミズアブ	<i>Odontomyia garatas</i>	—	239	
ハエ	シギアブ	ツノヒゲシギアブ	<i>Arthroceras japonicum</i>	—	240	DD
ハエ	シギアブ	シギアブの種	<i>Chrysopilus shibuyai</i>	—	240	
ハエ	ムシヒキアブ	トラフムシヒキ	<i>Astochia virgatipes</i>	—	240	DD
ハエ	ムシヒキアブ	ハマベコムシヒキ	<i>Stichopogon infuscatus</i>	—	241	
ハエ	ハナアブ	ルリハナアブ	<i>Kertesziomyia viridis</i>	—	241	DD
ハエ	ハナアブ	カクモンハラブトハナアブ	<i>Mallota abdominalis</i>	—	241	
ハエ	ハナアブ	コシアキオオモボトハナアブ	<i>Matsumyia japonica</i>	—	242	DD
ハエ	ミギワバエ	ニノミヤトビクチミギワバエ	<i>Brachydeutera ibari</i>	—	242	
ハエ	ニセミギワバエ	ハイイロニセミギワバエ	<i>Procanace aesturicola</i>	—	242	DD
チョウ	ツツガ	ゴマフツツガ	<i>Chilo pulveratus</i>	NT	243	
チョウ	トリバガ	モウセンゴケトリバ	<i>Buckleria paludum</i>	—	243	DD
チョウ	アゲハモドキガ	フジキオビ	<i>Schistomyia funeralis</i>	—	243	
チョウ	シャチホコガ	ゴマダラシャチホコ	<i>Palaeostauropus obliterated</i>	—	244	DD
チョウ	シャチホコガ	ナチアオシャチホコ	<i>Syntypistis nachiensis</i>	—	244	
チョウ	ヤガ	シラユキコヤガ	<i>Eulocastra sasakii</i>	VU	244	DD
チョウ	ヤガ	オオキイロアツバ	<i>Pseudalemma miwai</i>	—	245	
チョウ	ヤガ	ヤクシマヒメキシタバ	<i>Catocala tokui</i>	—	245	DD
チョウ	ヤガ	ヌマベウスキヨトウ	<i>Chilodes pacificus</i>	VU	245	
チョウ	ヤガ	ガマヨトウ	<i>Capsula aerata</i>	VU	246	DD
チョウ	ヤガ	エチゴハガタヨトウ	<i>Asidemia inexpecta</i>	—	246	
チョウ	ヤガ	エゾスジヨトウ	<i>Doerriesa striata</i>	VU	246	DD
チョウ	ヤガ	イセキリガ	<i>Agrochola sakabei</i>	—	247	
チョウ	ヤガ	ヤマトハガタヨトウ	<i>Nyctycia stenoptera</i>	—	247	DD
チョウ	シジミチョウ	オナガシジミ	<i>Araragi enthea</i>	—	247	
チョウ	シジミチョウ	ウラジロミドリシジミ	<i>Favonius saphirinus</i>	—	248	DD
チョウ	シジミチョウ	ウラナミアカシジミ紀南亜種	<i>Japonica saepestriata gotohi</i>	—	248	
チョウ	シジミチョウ	フジミドリシジミ	<i>Sibatanoiozephyrus fujisanus</i>	—	248	DD
チョウ	シジミチョウ	ウラムシシジミ	<i>Wagimo signatus</i>	—	249	
チョウ	タテハチョウ	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i>	NT	249	DD
ハチ	コンボウハバチ	ホシアシブトハバチ	<i>Agencimbex jucunda</i>	DD	249	

哺乳類	ハチ	スズメバチ	モンズズメバチ	<i>Vespa crabro flavofasciata</i>	DD	250
	ハチ	アナバチ	キンモウアナバチ	<i>Spheg diabolicus</i>	—	250
	ハチ	ミツバチ	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>	NT	250

情報不足 (DD)

	目名	科名	和名	学名	環境省	掲載P.
爬虫類	カゲロウ	マダラカゲロウ	キマダラカゲロウ	<i>Ephemerella notata</i>	—	251
両生類	ハサミムシ	クロハサミムシ	クロハサミムシ	<i>Nesogaster lewisi</i>	—	251
	カメムシ	ハネナガウンカ	マエグロハネナガウンカ	<i>Zoraida pterophoroides</i>	—	251
汽水・淡水魚類	カメムシ	グンバイウンカ	ハウチウウンカ	<i>Trypetimorpha japonica</i>	VU	251
	カメムシ	カタビロアメンボ	オヨギカタビロアメンボ	<i>Xiphovelia japonica</i>	NT	251
昆虫類	カメムシ	アメンボ	ババアメンボ	<i>Gerris (Gerris) babai</i>	NT	251
	カメムシ	アメンボ	ウミアメンボ	<i>Halobates japonicus</i>	—	251
クモ類	ヘビトンボ	センブリ	ヤマトセンブリ	<i>Sialis yamatoensis</i>	DD	251
	コウチュウ	オサムシ	チャマルチビヒョウタンゴミムシ	<i>Dyschirius yanoi</i>	—	251
貝類	コウチュウ	オサムシ	クビナガキベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius prostenus</i>	DD	252
	コウチュウ	オサムシ	スナハラゴミムシ	<i>Diplocheila elonbata</i>	VU	252
甲殻類	コウチュウ	オサムシ	タナカツヤハネゴミムシ	<i>Anisodactylus andrewesi</i>	DD	252
	コウチュウ	ガムシ	オオトゲバゴマフガムシ	<i>Berosus (Enoplurus) incretus</i>	—	252
その他動物	コウチュウ	ガムシ	スジヒラタガムシ	<i>Helochaeres striatus</i>	NT	252
	コウチュウ	コガネムシ	オオサカスジコガネ	<i>Anomala osakana</i>	—	252
EW	コウチュウ	コガネムシ	マツシタチャイロコガネ	<i>Sericania (fuscolineata) matusitai</i>	—	252
	コウチュウ	コメツキムシ	ホソヒメクロコメツキ	<i>Ampedus otobei</i>	—	252
EW	コウチュウ	ヒメドロムシ	ケスジドロムシ	<i>Pseudamophilus japonicus</i>	VU	252
	コウチュウ	ジョウカイボン	アキタクビボソジョウカイ	<i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) akitai</i>	—	253
CR	コウチュウ	ジョウカイボン	ヒラクラクビボソジョウカイ	<i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) hirakura</i>	—	253
	コウチュウ	ジョウカイボン	キタヤマクビボソジョウカイ	<i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) kitayamaensis</i>	—	253
EN	コウチュウ	ジョウカイボン	ノノボリクビボソジョウカイ	<i>Asiopodabrus (Japanpodabrus) nonoboriensis</i>	—	253
	コウチュウ	ジョウカイボン	オワセクビボソジョウカイ	<i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) owasensis</i>	—	253
VU	コウチュウ	ジョウカイボン	アキタキイロシリプトジョウカイ	<i>Yukikoa akitai</i>	—	253
	コウチュウ	ムキヒゴソカタムシ	イノウエホソカタムシ	<i>Antibothrus morimotoi</i>	—	253
NT	コウチュウ	ゴミムシダマシ	ヤマトオサムシダマシ	<i>Blaps japonensis</i>	NT	253
	コウチュウ	ゴミムシダマシ	コモンキノコゴミムシダマシ	<i>Spiloscapa ichihashii</i>	—	253
DD	コウチュウ	カミキリムシ	ヨツボシシロオビゴマフカミキリ	<i>Mesosa (Mesosa) mediofasciata</i>	—	254
	コウチュウ	カミキリムシ	ヒゲジロホソコバネカミキリ	<i>Necydalis (Necydalisca) odai</i>	—	254
DD	コウチュウ	カミキリムシ	オオホソコバネカミキリ	<i>Necydalis (Necydalisca) solida</i>	—	254
	コウチュウ	ハムシ	オオサルハムシ	<i>Chrysochus chinensis</i>	—	254
DD	コウチュウ	ヒゲナガゾウムシ	ホシモンマダラヒゲナガゾウムシ	<i>Litocerus kimurai</i>	—	254
	コウチュウ	ヒゲナガゾウムシ	オオマダラヒゲナガゾウムシ	<i>Sympaector rugirostris</i>	—	254
DD	コウチュウ	ミツギリゾウムシ	アカツツホソミツギリゾウムシ	<i>Callipareius japonicus</i>	—	254
	コウチュウ	ミツギリゾウムシ	クロツツホソミツギリゾウムシ	<i>Callipareius kojimai</i>	—	254
DD	コウチュウ	ミツギリゾウムシ	ヒメマルミツギリゾウムシ	<i>Higonius cilo</i>	—	254
	コウチュウ	イネゾウムシ	オオクニイネゾウムシ	<i>Procas biguttatus</i>	—	255
DD	コウチュウ	イネゾウムシ	クロイネゾウムシ	<i>Notaris oryzae</i>	—	255
	コウチュウ	ゾウムシ	ツルギトゲカタビロサルゾウムシ	<i>Augustinus similis</i>	—	255
DD	コウチュウ	ゾウムシ	カギアシゾウムシ	<i>Bagous bipunctatus</i>	—	255
	コウチュウ	ゾウムシ	カワセタノミゾウムシ	<i>Sphaerorchestes kawasei</i>	—	255
DD	コウチュウ	ゾウムシ	ミヤマカレキゾウムシ	<i>Trachodes monticola</i>	—	255
	ハエ	アミカ	アシボソヒメフタマタアミカ	<i>Philorus longirostris</i>	—	255
DD	ハエ	カ	トワダオオカ	<i>Toxorhynchites towadensis</i>	—	255
	ハエ	ハルカ	ハマダラハルカ	<i>Haruka elegans</i>	DD	255
DD	ハエ	キアブ	ケジロキアブ	<i>Xylophagus albopilosus</i>	—	256
	ハエ	クサアブ	ネグロクサアブ	<i>Coenomyia basalis</i>	DD	256
DD	ハエ	ミズアブ	ヒラヤマミズアブ	<i>Odontomyia hirayamae</i>	—	256
	ハエ	ミズアブ	ミドロミズアブ	<i>Odontomyia filipjewi</i>	—	256
DD	ハエ	ミズアブ	アシグルルリミズアブ	<i>Sargus meracus</i>	—	256
	ハエ	ツリアブモドキ	アカツリアブモドキ	<i>Nycterimyia fenestroinornata</i>	—	256
DD	ハエ	ムシヒキアブ	アメイロホソムシヒキ	<i>Leptogaster trimucronata</i>	—	256
	ハエ	ムシヒキアブ	アシナガムシヒキ	<i>Molobratia japonica</i>	—	256
DD	ハエ	ハナアブ	クロオビハラブトハナアブ	<i>Mallota ambigua</i>	—	256
	ハエ	ハナアブ	コブアリノスアブ	<i>Microdon shirakii</i>	—	257
DD	ハエ	ハナアブ	ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>	—	257
	ハエ	ハナアブ	コマバムツホシヒラタアブ	<i>Scaeva komabensis</i>	—	257
DD	ハエ	デガシラバエ	オオハチモドキバエ	<i>Eupyrgota luteola</i>	—	257

ハエ	ミギワバエ	ラカンミギワバエ	<i>Dryxo nudicorpus</i>	257	
ハエ	ニクバエ	ハマベニクバエ	<i>Leucomyia alba</i>	257	
チョウ	ツトガ	ウスマダラミズメイガ	<i>Elophila orientalis</i>	257	
チョウ	ツトガ	エンスイミズメイガ	<i>Eristena argentata</i>	257	
チョウ	スズメガ	イブキスズメ	<i>Hyles gallii</i>	257	
チョウ	シャクガ	オオツバメエダシャク	<i>Amblychia angeronaria</i>	258	
チョウ	シャクガ	キイロトゲエダシャク	<i>Apochima praeacutaria</i>	258	
チョウ	ツバメガ	ヤクシマギンツバメ	<i>Pseudomicronia advocataria</i>	258	
チョウ	シャチホコガ	トリゲキシャチホコ	<i>Torigea plumosa</i>	258	
チョウ	コブガ	クロモンオピリンガ	<i>Gelastocera rubicundula</i>	258	
チョウ	ヤガ	シーモンアツバ	<i>Sinarella c album</i>	258	
チョウ	ヤガ	キュウシュウスジヨトウ	<i>Doerriessa coenosa</i>	VU	258
チョウ	セセリチョウ	キバネセセリ	<i>Bibasis aquilina chrysaeglia</i>	258	
トビケラ	ホソバトビケラ	イトウホソバトビケラ	<i>Molannodes itoae</i>	258	
トビケラ	アシエダトビケラ	クチキトビケラ	<i>Ganonema uchidai</i>	NT	259
トビケラ	カクツツトビケラ	ツノカクツツトビケラ	<i>Lepidostoma cornigerum</i>	259	
ハチ	セイボウ	オオセイボウ本土亜種	<i>Stilbum cyanurum pacificum</i>	DD	259
ハチ	アリ	ケブカツヤオオアリ	<i>Camponotus (Myrmentoma) nipponensis</i>	DD	259
ハチ	アリ	ヤマトムカシアリ	<i>Leptanilla japonica</i>	259	
ハチ	アリ	モリシタカギバラアリ	<i>Proceratium morisitai</i>	259	
ハチ	ベッコウバチ	フタモンベッコウ	<i>Parabatozonus hakodadi</i>	NT	259
ハチ	ドロバチモドキ	ヤマトスナハキバチ	<i>Bembecinus hungaricus japonicus</i>	DD	259
ハチ	ドロバチモドキ	キアシハナダカバチモドキ	<i>Stizus pulcherrimus</i>	VU	259
ハチ	アナバチ	フクイアナバチ	<i>Sphex inusitatus fukuianus</i>	NT	260
ハチ	ハキリバチ	クズハキリバチ	<i>Megachile pseudomonticola</i>	DD	260

昆虫類レッドリスト 新旧対照表

本書に掲載された昆虫類レッドリスト（改訂後のカテゴリー）と「三重県レッドデータブック2005」に掲載した昆虫類レッドリスト（改訂前のカテゴリー）との新旧対照表は以下のとおりである。

	改訂前のカテゴリー							種数	
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	リスト外		
改定後のカテゴリー	EX	キベリマルクビゴミムシ シマケシゲンゴロウ スジゲンゴロウ ヒメキイロマダラソコガネ クロモンマダラソコガネ ヒメビロウドカミキリ アサカミキリ オオロハムシ ハマベノウムシ オオウラギンヒョウモン	ベッコウトンボ マルコガタノゲンゴロウ ヒメヒカゲ	キマダラモドキ					14
	CR	チュウブホソガムシ	コバネアオイトトンボ ナニワトンボ オオオカメコオロギ カワラハンミョウ ミハマオサムシ シャクダイジンメクラチビゴミムシ コガタノゲンゴロウ ヤマトエンマコガネ ココロオハバタル フタスジカタヒロハナカミキリ オオミネヒメハナカミキリ ヤマトヒメナガヒラタハナアブ ナシアシブトハバチ など、17種	ハネビロエフトンボ オオサカサナエ ヒメタイコウチ コバンムシ アオヘリアオゴミムシ ゲンゴロウ マダラシマゲンゴロウ オオクワガタ マダラソクワガタ マルエンマコガネ カタキンイロジョウカイ ムナミノハナカミキリ スジボソヤマキチヨウ シルビアシジミ	トゲナベバタムシ オオウスバカゲロウ トラハナムグリ キンイロネクイハムシ イネネクイハムシ ツマダラキチヨウ キマダラリツバメ		キボシチビコツブゲンゴロウ ヤギマルケシゲンゴロウ セスジマルドムシ キンモンナガタムシ ムナコブハナカミキリ ハバズゲヒメソウムシ シンデイトビケラ	エチゴトックリゴミムシ ムツボシヤコツブゲンゴロウ ムモンチビコツブゲンゴロウ シャ プツブゲンゴロウ ヒメコエンマコガネ ニセセマルケシマダラソコガネ ニセマダラソコガネ モモダラハナカミキリ セラネクイハムシ カツラネクイハムシ スジトビケラ	57
	EN		バイケイソウハバチ	ヒヌマイトトンボ コサナエ ルリボシヤンマ タイリクアカネ カワラゴミムシ シロヘリハンミョウ スズカヌレチゴミムシ ムロウオサムシ キイロコガシラミズムシ クロホシコガシラミズムシ マルケシゲンゴロウ エノコガムシ	ハマスズ ダイリフキバタ イトアメンボ ホリハンミョウ タキハラオサムシ セアカオサムシ マルガタゲンゴロウ ヒメケシゲンゴロウ ツヤハダクワガタ オオフタホシマダラソコガネ アバツヤナガヒラタホソカタムシ オオダイヨコソコゴミムシダマシ	キトンボ イガブチヒゲハナカミキリ	アラメエンムシ キマダラマダラソコガネ イセテントウ イチハシホリカタムシ キイカクズクビナガムシ タナカホソリアモドキ クロサワヒメコバネカミキリ オオハナカミキリ カスリチビカミキリ キイロアラゲカミキリ ミサキツノトビケラ	アオヤンマ ダイミョウアトキリゴミムシ アリスアトキリゴミムシ オオマルケシゲンゴロウ ケシゲンゴロウ キャバクロヒメゲンゴロウ ルイスツブゲンゴロウ マルチビゲンゴロウ オオミズスマシ ヒメミズスマシ ミズスマシ クロシオガムシ	

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EW
EW
CR
EN
VU
NT
DD

	改訂前のカテゴリー							種数
	EX	CR	EN	VU	NT	DD	リスト外	
改定後のカテゴリー	EN		クローズハマベゴミムシダマシ ヒサゴゴミムシダマシ ヨコヤマヒゲナガカミキリ サツマヒメコバナカミキリ フタスジゴマフカミキリ エゾトラカミキリ ヒゲブトハナカミキリ ウラナミジャノメ マイマイツツハナバチ	ツヤケイハムシ ヒラタムシヒキ ギフチョウ ベニモンカラスジミ ウラギンスジヒョウモン ホシミスジ			マメクワガタ ムツコブスジコガネ コブナシコブスジコガネ ヌバタマゴソコガネ コツヤマゴソコガネ アイヌケシマゴソコガネ マルクビツチハンミョウ ニッポンハナダカバチ ウマノオバチ	74
	VU		ベニイトトンボ キイロヤマトンボ オオトックリゴミムシ ヤマトケシマゴソコガネ スナサビキコリ ルリキオビジョウカイモドキ カバフキシタバ	ネアカヨシヤンマ タンボオカメコオロギ カワラバタ アカエノゼミ キバナツノトンボ クロカタビロオサムシ マダラコガシラミズムシ キボシツブゲンゴロウ ヤマトモンシデムシ ヒメオオクワガタ ヘリトゲコブスジコガネ オオチャイロハナムグリ トゲフタオタマムシ オオキノコムシ テントウゴミムシダマシ オカモトツヤアナハネムシ テツイロハナカミキリ ヤマトシロオビトラカミキリ ミズアブ ヨシコツルギアブ クワトゲエダシヤク ギンイチモンジセセリ オオミドリシジミ など、42種	エサキアメンボ ヒメミスカマキリ オオコオイムシ タガメ ヒトツメアオゴミムシ キボシケシゲンゴロウ ミヤマダイコクコガネ オオダイリヒラタコメツキ アトコブゴミムシダマシ ホソハマベゴミムシダマシ ヒメヨツスジハナカミキリ イヨヒメハナカミキリ タケウチホソハナカミキリ ガガバタネケイハムシ ヒメコムシメイガ ツマジロウラジャノメ	テラニセシズゲンゴロウ ヒメシマチビゲンゴロウ ゴマダラチビゲンゴロウ コスジマゴソコガネ オオムツボシタムシ ホソクリタマムシ ムネアカツヤケシコメツキ クロホシクチキムシ メスアカハエ ケンランアリノスアブ	モートンイトトンボ アオハダトンボ キイロサナエ ナゴヤサナエ オグマサナエ ニシキキカメムシ キバナキバゲミスズワゴミムシ ウミホソチビゴミムシ クロゲンゴロウ コウベツツゲンゴロウ キイロナガミズスマシ ヤマトホリガムシ ホソヒラタシデムシ ヒメスジマゴソコガネ ニセマキバゲソコガネ ヤノコモタマムシ イソジョウカイモドキ クビアカドウガネハナカミキリ マヤサンコブヤハズカミキリ ルリボシカミキリ シロスジタコソウムシ シオサイツルギアブ ミヤマチャバネセセリ ヒトスジキツトビケラ	99
	NT		グンバイトンボ キンモウアナバチ	ムカシトンボ ヒメクワサナエ セダカテントウダマシ オオマルチビゴミムシダマシ イチハシシキノソウムシ コガタミズアブ モンズズメバチ クロマルハナバチ	ムカシヤンマ コバナコロギス イセカマドウマ クチナガコオロギ ヤマトマダラバタ チツゼミ ハマベツチカメムシ オオツノトンボ ナガホリアナヒラタゴミムシ オニクワガタ アイヌコブスジコガネ ジュウシチホシハナムグリ ジュウクホシテントウ ハネナシセシキマワリ ヘリハネムシ クロオビホソアリアモドキ タマサルソウムシ トラフムシヒキ ルリハナアブ ゴマフツトガ ウラジロミドリシジミ オオムラサキ ホシアシブトハバチ など、52種	シロウミアメンボ ホッケミズムシ ナガミズムシ ミヤケミズムシ シロヘリツチカメムシ コマダラウスバカゲロウ タケウチヒゲナガコバナカミキリ クビアカモトホソカミキリ リュウシヒゲボソソウムシ イワタシギクサアブ フトヒゲナガキアブモドキ ツノヒゲシギアブ ハマベコムシヒキ カクモンハラブトハナアブ コシアキオオモトハナアブ ハイイロニセミギワエ ナチアオシヤチホコ イセキリガ エチゴハガタヨトウ ガマヨトウ ヤクシマヒメキシタバ ヤマトハガタヨトウ オオキイロアツバ ウラムシシジミ	タバサナエ フタスジサナエ アキアカネ ミヤマアカネ イナゴモドキ ノセヒシバタ オオアメンボ コオイムシ ミノナシミズムシ アイヌハンミョウ クマノヤマトオサムシ イグチケバカゴミムシ ヒョウタンゴミムシ ケベリマゲンゴロウ シマゲンゴロウ コオナガミズスマシ コガムシ ガムシ コガタガムシ キンキコリクワガタ クマノヒゲボソソウムシ	107
DD						マエグロハネナガウンカ クワハサミムシ チャマルチビヒョウタンゴミムシ ホソヒメクロコメツキ アキタキイロシリブトジョウカイ イノウエホソカタムシ ヤマトオサムシダマシ コモンキノコゴミムシダマシ アカツツホソミツギリソウムシ クワツツホソミツギリソウムシ ヒメマルミツギリソウムシ カワセタマノミソウムシ ホシモンマダラヒゲナガソウムシ オオマダラヒゲナガソウムシ アシボソヒメフタタマアミカ	キマダラカゲロウ クワハサミムシ ハウチウンカ オヨギカタビオアメンボ ババアメンボ ヤマトセンブリ クビナガキベリアオゴミムシ スナハラゴミムシ タナカツヤハネゴミムシ オオトゲバゴマフガムシ スジヒラタガムシ オオサカスジコガネ マツシタチャイロコガネ ケスジロムシ アキタクビボソジョウカイ	

		改訂前のカテゴリー						種数	
		EX	CR	EN	VU	NT	DD	リスト外	
改定後のカテゴリー	DD						トワダオオカ ハマダラハルカ ケジロキアブ アシグロリミズアブ アメイロホリムシヒキ アシナガムシヒキ オオハチモドキハエ ラカンミギロバエ ウスマダラミズメイガ エンスイミズメイガ オオツバメエダシャク キイトゲエダシャク ヤクシマギンツバメ トリゲキシャチホコ クロモンオビリンガ キュウシュウスジヨトウ シーモンアツバ キバネセリ イトウホソバトビケラ ツノカクツツトビケラ ケブカツヤオオアリ モリシタカギバラアリ など、45種	ヒラクラクビボソジョウカイ キタヤマクビボソジョウカイ ノノボリクビボソジョウカイ オウセクビボソジョウカイ ヨツボシシロオビゴマフカミキリ ヒゲジロホソコバネカミキリ オオホソコバネカミキリ オオサルハムシ ツルギトゲカタビロサルゾウムシ カギアシノウムシ オオクニイネソウモドキ ミヤマカレキノウムシ クロイネノウモドキ ネグロクサアブ ヒラヤマミズアブ ミドロミズアブ イブキスズメ オオセイボウ本土亜種 フタモンベッコウ ヤマトスナハキバチ キアシハナダカバチモドキ フクイアナバチ クズハキリバチ	83
	リスト外	表7 1、7 2のとおり						88	
種数		11	21	49	86	82	158	115	

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ベッコウトンボ

Libellula angelina Selys

トンボ目トンボ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：CR

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生育地点数は 10 以下である。かつては木曾三川下流のデルタ地域を中心に県内の伊勢湾沿岸のヨシやマコモなど背丈の高い挺水植物の繁茂する泥深い低湿地に比較的普通に生息していたが、新産地の発見や最近の情報が皆無であり、絶滅したものと思われる。

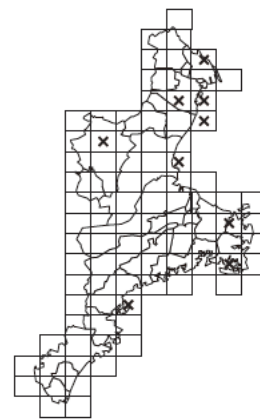
種の概要： 成虫はやや雄の方が大きく腹長 24~31 mm, 雌は複長 23~28 mm. 翅の基部と結節、縁紋部に顕著な黒褐色斑がある銜色ないし褐色の地に、黒色斑があるずんぐりタイプの毛深いトンボで、雄は成熟すると黒化する。幼虫は、汚褐色または濃褐色の幾分扁平な卵形をしたシオカラトンボ形のヤゴ。幼虫は、4 月中旬から 6 月下旬に出現し、5 月初旬に多い。主に平地や丘陵地のヨシやマコモ、ガマなど背丈の高い挺水植物が密生する腐植栄養型の泥深い池沼や水郷地域の溝などに生息する。

分布： 国外では朝鮮半島、中国北中部に分布する。国内では、福島、新潟両県より南の本州と四国、九州に生息するほか、壱岐、対馬にも分布する。県内では、桑名市、四日市市、津市、伊賀市に生息していたが、1960 年代頃に絶滅した。近年の生息地として紀北町海山区や志摩市大王町、伊勢市などが知られる。

現況・減少要因： 主な生息地は人の生活圏に密接する低地や平野部の池沼等であるため、高度成長期の開発に伴う生息地の埋め立てや人為的な環境悪化による孤立化が減少の要因であると考えられる。2000 年以降目撃報告がなく絶滅したものと思われる。

特記事項： 国内希少野生動物植物種。

文献： 4, 14, 24, 37, 45.



(石田昇三・刀根定良)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キベリマルクビゴミムシ

Nebria livida angulata Banninger

コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：EN

旧県：絶滅 (EX)

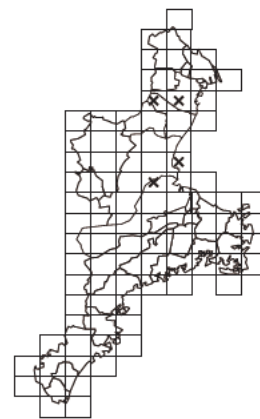
選定理由： 既知の生息点数は 5 地点以下。かつては広く生息していたと思われるが、50 年以上記録が途絶えている。全国的にも同様の傾向である。

種の概要： 体長 13~16.5 mm. 頭部は黒く、上翅の周りは黄色く縁取られる。広い河川の中下流域の河川敷および周辺に生息し灯火にも集まる。

分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では鈴鹿市、亀山市、津市で記録されている。

現況・減少要因： 具体的な減少要因は不明であるが、河川改修、および水質の悪化、低湿地の開発や周辺の農薬散布などが、絶滅した要因と考えられる。

文献： 210, 573.



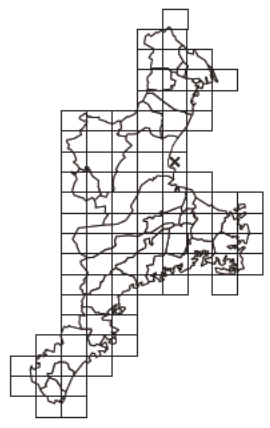
(乙部 宏)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シマケシゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科 **三重県：絶滅 (EX)**
Coelambus chinensis (Sharp) **旧県：絶滅 (EX)**

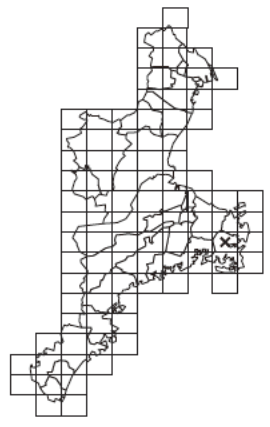
選定理由： 1949年に採集されているのみで、その後60年以上にわたり再発見されていない。
種の概要： 体長4.3~5.0 mm。池沼や湿地の植物の多いところに生息する。灯火に飛来することがある。
分布： 北海道、本州、九州。本州西部では愛知県と三重県から記録されるのみである。県内では、津市中央における1例が知られる。
現況・減少要因： 電灯に飛来した1949年の1例が知られるのみである。記録された地点は、現在市街地となっており、本種が生息しえる環境は全く残されていない。県内各地における調査によっても全く発見することが出来ず、県内からはすでに絶滅してしまった可能性が高い。
文献： 385, 487.



(秋田勝己)

マルコガタノゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科 **三重県：絶滅 (EX)**
Cybister lewisianus Sharp **旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)**

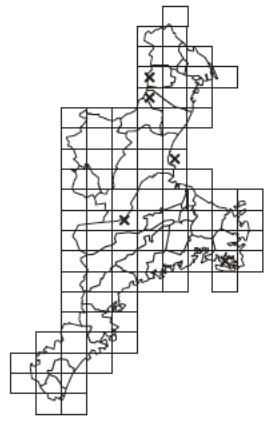
選定理由： 既知の生息点数は1地点のみ。1992年の春秋の2回確認したが、1993年以降は確認できていない。
種の概要： 体長21~26 mm。体型は卵形、背面は暗緑色から褐色で光沢がある。前胸と上翅側縁は黄色部に縁取られ、腹面は黄から赤褐色。比較的大きな池を好み、ヒルムシロ類を重要な産卵植物としている。
分布： 本州、四国、九州。県内では志摩市磯部町で記録されている。
現況・減少要因： 20年以上確認されていない。発見当時は池の水面の半分ほどをヒルムシロ類が覆い尽くしていたが、1993年には一株も見ることではできず本種も確認できなかった。発見当時からアメリカザリガニは多数生息していたことから本種の産卵植物であるヒルムシロ類の消滅に大きく影響を与えたと考える。
保護対策： 種の保存法の指定種とされているので、行政は確認地点の池の外来種駆除やヒルムシロ類などの水草の育成などの環境復元工事を図り、定期的な再確認調査の実施を望みたい。
特記事項： 平成23年に種の保存法の「国内希少野生動物種」に指定された。
文献： 499.



(乙部 宏)

スジゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科 **三重県：絶滅 (EX)**
Hydaticus satoi Wewalka **旧県：絶滅 (EX)**

選定理由： 既知の生息地点数は5以下であるが、1973年以降、生息が確認されていない。
種の概要： 体長12~14.5 mm。体型はやや長めの卵形で背面は黒色。頭部から上翅に黄褐色の二縦条がある。
分布： 本州(関東以西)、四国、九州、トカラ中之島。国外では台湾、中国、フィリピン、東南アジアに広く分布する。県内では菰野町、鈴鹿市、津市、松阪市、志摩市で記録されている。
現況・減少要因： 全国的にも本州、四国、九州ではすでに絶滅した可能性が高いと考えられており、県内でも40年以上生息確認がなく絶滅したと考えられる。本種の主たる生息域は、環境破壊の影響を強く受ける平野部であり、生活排水の流入、農業の使用、池沼のコンクリート護岸化、湿地の開発などにより減少、絶滅したと考えられる。
文献： 438, 483, 487, 544, 573.



(上岡 岳)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒメキイロマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：NT

Aphodius (Subrinus) sturmi Harold

旧県：絶滅 (EX)

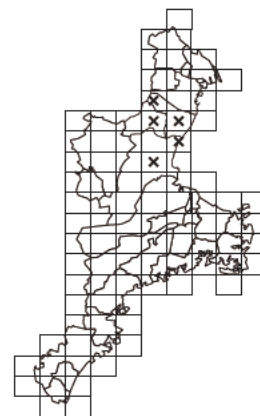
選定理由： 既知の生息地点は 6 か所である。県内では過去 48 年間記録が途絶えている。全国的にも最近の記録は関東と北海道の 2 か所程度であるが、現時点ではこれらの地域においても、ほとんど採集出来なくなっている。

種の概要： 体長 3~4.3 mm。平地の牛放牧地、河川敷の放牧地などの草原環境に生息し、比較的古い牛糞に集まる。7~8 月の採集例が多く、灯火にもよく飛来する。

分布： 北海道、本州、隠岐、杣岐、沖縄、国外では済州島、朝鮮半島、中国、ネパール、中央アジア、モンゴル、ヨーロッパ、北アフリカ、県内では四日市市、菰野町、鈴鹿市、津市。

現況・減少要因： 平地の放牧地の消滅、放牧形態の変化と抗生剤などの使用による牛糞の質の変化。

文献： 245, 296, 330, 561.



(稲垣政志)

クロモンマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：NT

Aphodius (Aphodaulacus) variabilis Waterhouse

旧県：絶滅 (EX)

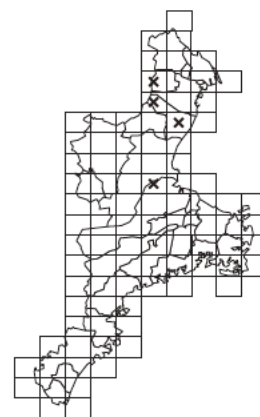
選定理由： 既知の生息地点は 5 以下であり、県内では過去 58 年間記録が途絶えている。現在では全国的にも数か所しか生息していない。

種の概要： 体長 4.9~7.3 mm。放牧によって形成された平地のススキ・シバ草地環境を好み、晩秋から早春にかけて、日当たりの良い場所の牛糞などに集まる。現在、他県で生息している場所は河川敷で、犬糞から採集されている。

分布： 北海道、本州、四国、九州、対馬、国外では済州島、朝鮮半島、中国、中央アジア、シベリア。県内では菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市、松坂市嬉野。

現況・減少要因： 平地の放牧地の消滅、採草地の消滅、放牧形態の変化と抗生剤などの使用による牛糞の質の変化。

文献： 245, 319, 330, 561, 562, 573.



(稲垣政志)

ヒメビロウドカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：NT

Acaleopta degener (Bates)

旧県：絶滅 (EX)

選定理由： 1941 年の記録が 1 例知られるのみである。生息環境が悪化しており、その後 70 年以上にわたり生息情報がない。

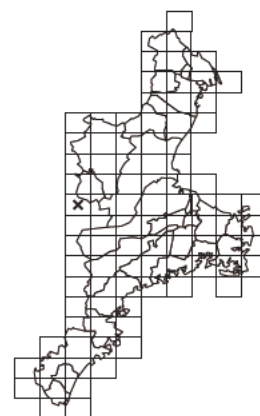
種の概要： 体長 8.5~12 mm。草原性の種である。成虫は 5~7 月に出現し、オトコヨモギの生きている茎や葉を後食する。幼虫はこれの茎に食入する。

分布： 本州、四国、対馬、朝鮮半島、中国。紀伊半島では奈良県曾爾村と三重県のみから記録される。県内では名張市香落溪の 1 例があるのみである。

現況・減少要因： 三重県と境を接する奈良県曾爾高原ではススキ草原中のオトコヨモギ群落にみられるが、三重県側は樹林に覆われており、草原が存在しない。かつては、火入れや採草が行われることで草原が維持され、本種が生息することができる環境は少なくなかったものと推察される。しかし、現在そのような草原は記録地周辺には存在せず、本種も絶滅してしまった可能性が高い。

特記事項： 三重県産の標本は、林 (1955) に図示されている。

文献： 208, 221, 323, 329, 361, 474.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

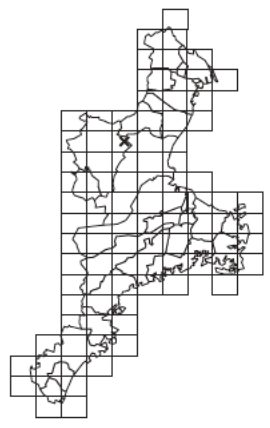
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

アサカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Thyestilla gebleri (Faldermann)

三重県：絶滅 (EX)
旧県：絶滅 (EX)

環境省：VU

選定理由： 1959年に記録されて以来、50年以上再確認されていない。
種の概要： 体長10~15 mm. 前胸背板の正中部と両側に白色条紋があり、上翅には会合部に1対、側面に肩部から翅端前まで続く1対の白色条紋がある。山地草原に生息し、成虫は、5~8月ごろに出現する。成虫はアザミ類の茎頂や葉の葉脈部分を食する。
分布： 本州（福島県以南）、隠岐、四国、九州で局地的に分布。国外では樺太、東シベリア、朝鮮半島。県内の記録は、津市芸濃町のみである。
現況・減少要因： かつては栽培されていたアサ（大麻）に多数集まっていたとされるが、アサの栽培が禁止されて以来、個体数が激減したといわれている。現在確実に生息している地点は全国でも少ない。
文献： 401, 474.



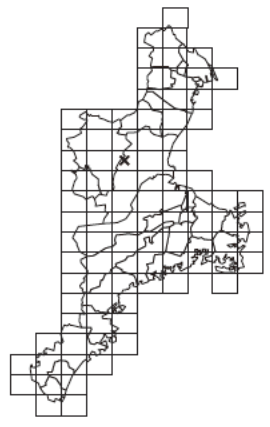
(今村隆一)

オオルリハムシ コウチュウ目ハムシ科
Chrysolina virgata (Motschulsky)

三重県：絶滅 (EX)
旧県：絶滅 (EX)

環境省：NT

選定理由： 生息環境が悪化しており、50年以上にわたり生息情報がない。
種の概要： 体長11~15 mm. 湿地に生息し、シロネ、ヒメシロネなどを食する。
分布： 本州、シベリア東部、朝鮮半島、中国北部。県内では青山高原で記録されている。
現況・減少要因： 1960年に1例記録されるのみである。当時、青山高原一帯はススキ草原の中に湿地が点在する高原であった。しかし、その後自動車が開通し、別荘地としての開発がすすんだ。また、近年は、たくさんの風力発電施設やそれに伴う作業用の道路が建設された。そのため、湿地の多くは直接消滅したり、乾燥化がすすみ湿地でなくなってしまった。現在も池畔などにわずかに残された湿地にヒメシロネの小規模な群落はみることができるが、度重なる調査にもかかわらず、本種を再発見することはできなかった。大型美麗で生存期間も長く、生息地では非常によく目につく種であるだけに、その生息には否定的にならざるを得ない。
文献： 222.



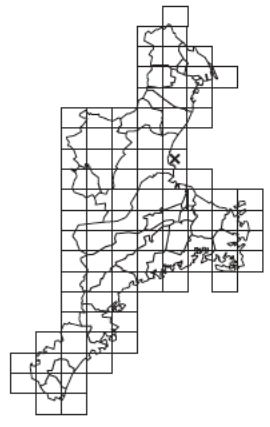
(秋田勝己)

ハマベゾウムシ コウチュウ目ゾウムシ科
Isonycholipes gotoi (Chujo et Voss)

三重県：絶滅 (EX)
旧県：絶滅 (EX)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は1であるが、1960年後半から記録がない。
種の概要： 体長3.8~4.2 mm. 前脛節端外角は細長く突出し、後翅は退化。体色は生息地の砂浜と同色である。
分布： 日本固有種で本州に分布。津市阿漕浦海岸、愛知県南知多町内海海岸、豊橋市細江海岸、京都府宮津市天橋立海岸で記録されているが、阿漕浦海岸と内海海岸では50数年来生息が確認されていない。
現況・減少要因： 海岸周辺の開発で、海流が変わり、餌になるアマモが砂浜に打ち上げらなくなった。又、砂浜海岸も園地化して環境が変化した。
文献： 207, 237, 238.



(官能健次)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオウラギンヒョウモン

チョウ目タテハチョウ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：CR

Fabriciana nerippe (C. et R. Felder)

旧県：絶滅 (EX)

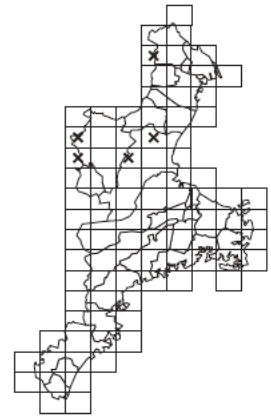
選定理由： 既知の生息地点数は6であるが、50年以上記録が途絶えている。

種の概要： 開張65~75mm。成虫は5月下旬頃より出現する。盛夏には休眠し、9月ごろ活動を再開する。幼虫の食草はスミレ類であり、幼虫で越冬する。

分布： 中国大陸から朝鮮半島、国内では本州、四国、九州に分布するが、生息地は限られている。県内では、いなべ市藤原岳、津市安濃町経ヶ峰、津市白山町青山高原、伊賀市上野で記録されている。

現況・減少要因： 本種の生息確認は1950~1960年のみで、それ以降の記録はない。本県では絶滅したものと思われる。国内でも、もともと局地的な分布をする種であり、本種の生息環境である草原が少ない本県では、個体群の維持が一層困難であったと思われる。

文献： 662, 724.



(後藤 勇)

キマダラモドキ

チョウ目タテハチョウ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：NT

Kirinia fentoni (Butler)

旧県：絶滅危惧IB類 (EN)

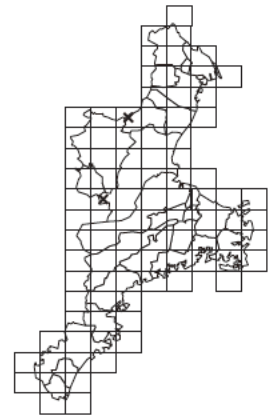
選定理由： 既知の生息地点数は5以下であり、50年以上記録されていない。

種の概要： 開張60mm内外。成虫は7~8月に羽化し、幼虫で越冬する。幼虫の食草はイネ科、カヤツリグサ科の草本である。成虫はクヌギ等の樹液に來ていることが多い。

分布： アムール地方、中国、朝鮮半島に分布。国内では北海道、本州、四国に分布するが、生息地は限られている。県内では津市美杉町大洞山周辺と亀山市関町周辺のみである。近隣府県にも良好な生息地がなく孤立性が高い。

現況・減少要因： 最後の記録は1964年大洞山であるが、現在の生息は確認できない。草原疎林的な環境の減少により生息環境が悪化したことによるものと思われる。

文献： 725, 781.



(後藤 勇・中西元男)

ヒメヒカゲ

チョウ目タテハチョウ科

三重県：絶滅 (EX)

環境省：EN

Coenonympha oedippus arothius (Okada et Torii)

旧県：絶滅危惧IA類 (CR)

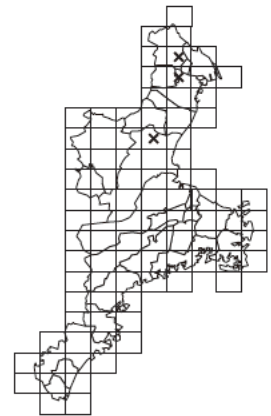
選定理由： 既知の生息地点数は3地点であるが、20年間記録がない。

種の概要： 開張35~40mm。明るい湿地に生息し、成虫は6月中旬頃から出現する。幼虫の食草はカヤツリグサ科の植物である。

分布： ヨーロッパから中国大陸、朝鮮半島に至るユーラシア大陸に広く分布している。国内では本州中部以西の限られた地域に分布している。県内では北勢地方のいなべ市大安町と菰野町と中勢地方の津市芸濃町で記録されている。

現況・減少要因： 最新の記録は1994年に菰野町田光であるが、現在、生息は確認できない。植生遷移の進行により、生息環境が消失した可能性が高い。また、他の生息地についても、過去の耕地整理や溜池整備により生息地としての湿地が失われた。

文献： 724, 803.



(後藤 勇・中西 元男)

コバネアオイトトンボ

トンボ目アオイトトンボ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Lestes japonicus Selys

選定理由： 既知の生育地点数は 5 以下である。近年新産地は発見されておらず、既産地の中でもいくつかの消滅地が知られている。

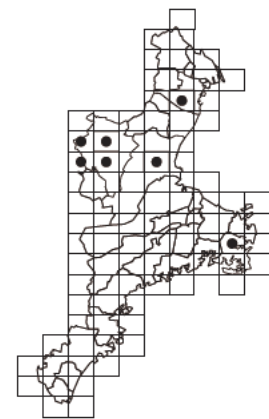
種の概要： 成虫は、腹長雄 28~33 mm, 雌 30 mm 内外。光沢のある比較的明るい金属緑色をしたきゃしゃな感じがするトンボである。後頭部の後ろ側が黄白色をしているので同属の他種と簡単に見分けられる。縁紋が同属の 3 種より明らかに短く、雄は成熟しても腹部第 9, 10 節にほんのり白粉をまとうだけで、他には生じず、雌は産卵管がさほど顕著にふくらまず、黒斑部がほとんどない。主に平地や丘陵地のクログワイやヒメホタルイ、ガマなど比較的柔らかい組織を持つ挺水植物が繁茂する池沼や湿地の滞水に生息する。成虫は、県内では 5 月下旬から 10 月下旬にかけて出現し、8 月下旬から 9 月に最も多く見られた。未熟な個体は、水域に近い林地のササ原などに棲み、成熟した雄は水域の挺水植物の群落に止まって縄張りを占有する。

分布： 国外では朝鮮半島、中国の一部に分布する。国内では、青森県から鹿児島県まで広範囲に分布するが、著しく局所的で、本州の一部府県と四国の太平洋からは未記録である。県内では四日市市、津市、伊賀市および志摩市阿児町から記録されている。

現況・減少要因： 最近県内では生息地が著しく減少しつつあり、現時点ではほとんどの地で確認できない。本種がアオイトトンボ属中で飛びぬけて局所的に生息する特異な種である理由は、同属の中で最も雌の産卵管の発達が劣り、クログワイやヒメホタルイなど組織の柔らかい特定の植物でないと産卵できないという産卵特性による。生息地が減少した最大の要因の一つとして、灌漑利水の変化によって本種が生息するのに適した丘陵の溜め池が少なくなったことが考えられる。その上、水田の大規模化に伴う乾田化の影響で付近の湿地が乾燥したことも一因となっている。

保護対策： 県内全域での精密調査を行った上、水田の高効率化から考えを改め、水田周辺の生物への負担軽減を検討すべきと考えている。

文献： 4, 6, 7, 10, 22, 23, 44, 47.



(石田昇三・刀根定良)

ナニワトンボ

トンボ目トンボ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

Sympetrum gracile Oguma

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生育地点数が 5 以下で、伊賀盆地に分布するが、その後新産地は発見されず、個体数も極めて少ない。

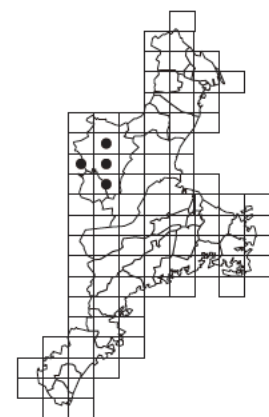
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 19~24 mm。成熟しても赤くならない赤トンボ（アカネ）の一種。すっきりとした体形の小型アカネで、未熟なうちは橙黄色の地に黒色の条斑があるが、雄は成熟すると黒化して全身に蒼白色の粉をまとう。一見ヒメトンボに酷似するが、顔面に 1 個の眉状斑があり、後翅の肘脈後枝が三角室の後角から出て、三角室の後縁に 5 本の脈が集まることで識別できる。成虫は、6 月下旬から 11 月下旬に出現する。未熟時は羽化した水辺から離れるが、8 月頃には成熟して水辺に戻り、縄張りを形成する。主に森林に囲まれた、水際になだらかな土の露呈した部分があつて挺水植物が繁茂する浅い池沼に生息し、秋に水を抜く溜め池を好む性質がある。

分布： 日本固有種で、近畿地方の各府県と中国、四国の瀬戸内海に面した地域および鳥取県から記録されているが、生息地は著しく局地的である。県内では伊賀市、名張市から記録されている。

現況・減少要因： 現在では伊賀盆地のある特定の池沼のみで生息が確認されているが、個体数は年間に 10 頭前後みられるだけで、いつ絶滅してもおかしくないような状態がここしばらく続いている。個体数は発見当時からさほど多くなかったが、1960 年代の半ばから、従来本種が生息していた農業用の溜め池で養鯉が盛んになり、年中溜め池に水が湛水されることになって以降、急激に生息地が減少した。これは本種の産卵様式が連結飛翔・連続打水産卵と呼ばれている、雌雄が連なって水辺に飛来して水際の湿った土の上や挺水植物の生え際などへ産卵するという特殊な方式で、渚状になった水際がないと産卵できないため、養鯉によって池が常に水があふれた状態になって生活の場を奪われ、一挙に絶滅状態に追い込まれたことによると推定される。

保護対策： 現在では養鯉もほとんど行われていないと考えられるが、放置による溜め池の荒廃が顕著であり早急な保護対策が必要である。

文献： 2, 3, 4, 14, 18, 26.



(石田昇三・刀根定良)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マダラナニワトンボ

Sympetrum maculatum Oguma

トンボ目トンボ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生育地点数が 5 以下で、伊賀盆地に分布するが、その後新産地は発見されず、個体数も極めて少ない。

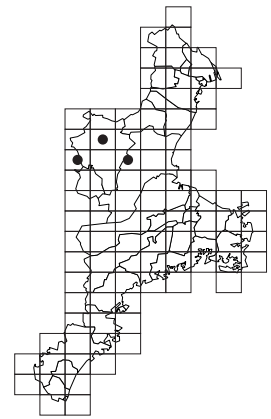
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 21~24 mm。ナニワトンボ同様成熟しても成熟雄が赤くならない細身のアカトンボ (アカネ)。体色・斑紋とも雌雄でほとんど差がなく、橙黄色の地に黒条がある。同属のムツアカネに似るが、顔面の中央の眉状斑と顎基条が連なって 1 個の大きな黒斑となっていること、胸側の 2 本の黒色条 (翅胸側面の第 1 側縫合と第 2 側縫合上にある) が上下で細く連結していることなどで識別できる。主に丘陵地や低山地の松林に囲まれた水際になだらかな土の露呈した部分があって挺水植物が繁茂する浅い池沼に生息する。

分布： 日本固有種で、本州 (東北・北陸・東海・近畿・中国地方) において極めて局所的に分布する。県内では、かつて伊賀地域に点在し、それらの中にはナニワトンボと混生する池沼も若干知られていた。

現況・減少要因： 1960 年代に溜め池での養鯉が盛んになって溜め池の管理方式が変わったのを機にそのような池沼は一挙に消滅した。ナニワトンボと混生する池沼が 1 か所残っていたが、2003 年以降はそこでも生息が確認できていない。既に同地では絶滅したとも考えられるが、ナニワトンボがいったん消滅してから 50 年後に再発見された例もあるので、今回の改訂では絶滅扱いにしなかった。

保護対策： ナニワトンボ同様、現在では養鯉もほとんど行われていないと考えられる。現在は放置による溜め池の荒廃が顕著であり早急な保護対策が必要である。

文献： 2, 4, 7, 18.



(石田昇三・刀根定良)

オオキトンボ

Sympetrum uniforme Selys

トンボ目トンボ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生育地点数が 5 以下で、その後の新産地は発見されず、生息情報もないので絶滅した可能性も考えられる。

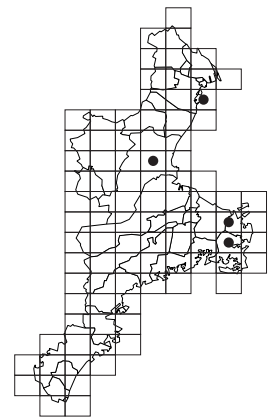
種の概要： 成虫は、腹長雄 30~33 mm、雌 31~35 mm。全身が橙黄色をしたほぼ無斑のアカトンボ。日本産アカトンボ (アカネ) 属中最大種。成熟してもほとんど体色に変化せず、翅全体が淡い橙黄色をしている。主に低地や丘陵地のヨシやマコモ、ガマなど背丈が高い挺水植物が繁茂する、どちらかといえば腐植栄養型がよく開けた大きな池沼に生息する。

分布： 国外では朝鮮半島、中国東北部に分布。国内では本州、四国 (瀬戸内海沿岸部)、九州 (福岡、大分両県) に分布するが、生息地は著しく局所的である。県内における 1980 年代以降の記録としては、風早池 1 か所のみである。

現況・減少要因： 昭和初期には本州の各地で比較的普通に生息していたようだが、経済成長の進展に伴った平地の湿地開発により一挙に生息地が減少し、稀少化が進行した。県内では、1990 年代以降記録がなく、生息状況も不明で絶滅した可能性もある。しかし、ナニワトンボがいったん消滅してから 50 年後に再発見された例もあるので、今回の改訂では絶滅扱いにしなかった。

保護対策： 今後過度な開発行為を慎み、放置によって荒れたかつて本種が生息した池沼の環境回復を行って再出現を待つ以外手がなさそうである。

文献： 14, 19, 31.



(石田昇三・刀根定良)

ハネビロエゾトンボ
Somatochlora clavata Oguma

トンボ目エゾトンボ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点数は 5 程度であるが、近年の明確な生息地点は紀北町の 1 か所のみである。

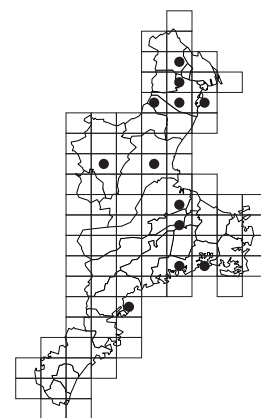
種の概要： 成虫は、腹長 37~51 mm. ややがっしりした体つきの中ないし幾分大きめのエゾトンボ。翅胸の胸側の 2 本の黄条があり、腹部にも雄では第 6~8 節、雌では第 4~7 または 8 節の前縁下方に小さい黄斑がある。これらの黄斑は雄では成熟するとほとんどが消滅するが、雌では老熟後もかなり鮮明に残ることが多い。翅はおおむね透明だが、雌では老熟すると全体が褐色にくすむ傾向がある。

分布： 日本固有種。北海道、本州、四国、九州に分布。佐渡島、淡路島、隠岐、対馬などの離島にも生息する。しかし生息地はかなり局所的である。県内では四日市市、南伊勢町、紀北町海山区などから記録がある。

現況・減少要因： 多産した紀北町では 1990 年頃より、南伊勢町や四日市市では 2000 年頃からほとんど見られなくなったようである。近年では、紀北町海山区のみで生息が確認されているが、近年の局所集中豪雨の出水後の環境回復が未確認のため、現況は不詳。最近県最南部の調査が地元研究者によって進行中なので、新しい生息地が見つかる可能性は高い。主な減少要因は埋め立てなどによる湿地の消滅、周辺河川の改修や上流での盛り土形式での道路設置などともなう湿地の水位低下と考えられる。

保護対策： 生息地周辺の河川改修には、湿地の水位低下を回避する施策を講じることと、生息湿地につらな水田の整備にも同様の湿地の水位低下を防ぐ手立ての導入が急務である。道路工事に関しては国土交通省の配慮で、最近ではほとんど湿地への環境負担はかからなくなったが、放置による自然遷移による湿地への樹木の侵入を防ぐ必要がある。

文献： 1. 4. 7. 14. 15. 25. 37.



(石田昇三・刀根定良)

オオサカサナエ
Stylurus annulatus (Djakonov)

トンボ目サナエトンボ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

選定理由： 既知生息地点数は 5 以下である。出水や河川改修による生息水域の減少や環境悪化により個体数が激減した。

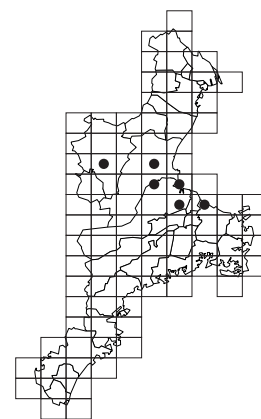
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 42~45 mm. 黒地に黄色の反復模様がある中型サナエトンボ。日本に生息するメガネサナエ属の中では一番小さく、雄の尾部上付属器が太短いと、雌の頭部単眼の後ろに 1 対の鋭い針状突起があるのが特徴。

分布： 国外では朝鮮半島、中国東北部、ウズリーなどに分布。国内では琵琶湖と淀川水系の滋賀、京都、大阪から記録されている。県内では、雲出川、櫛田川、木津川の各水系で生息が確認されている。

現況・減少要因： 県内の生息河川はいずれも比較的大きな河川で、個体数が激減するような極端な河川改修はされていないが、近年個体数が減少し、絶滅に近い状況にある。木津川は 2011 年の局地的集中豪雨による河川の荒廃が原因であると考えられる。

保護対策： 出水による河川の荒廃を低減し河床の安定を図る必要がある。本種の生活環境に十分配慮する等保護対策が不可欠である。

文献： 2. 16. 30. 35. 43.



(石田昇三・刀根定良)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオオカメコオロギ

バッタ目コオロギ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Loxoblemmus magnatus Matsuura

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生息地は紀北町往古川中流域の 1 地点だけである。

種の概要： 体長約 16~23 mm. 暗灰褐色。雄頭部顔面は扁平であり、ミツカドコオロギとは、頭の突起のないことで識別できる。「リリリ…」と丸みを帯びた声で鳴く。年 1 化、成虫は 9~10 月に出現する。

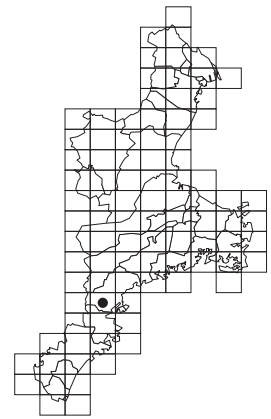
分布： 日本固有種で本州、四国、九州に局所的に分布。県内では紀北町中里からのみ記録されている。

現況・減少要因： 1980 年 9 月に記録されて以降、採集されていない。本種は生息密度が低かったうえに、往古川の河川改修と改修後の植生の変化により、さらに減少したものと考えられる。

保護対策： 往古川周辺の生息の確認が急務である。本種の生態を把握したうえで、生息について調査を行い、保護対策を講じることが必要と考えられる。

特記事項： 橋本太郎氏によって、1950 年 10 月に紀北町往古川中流域から採集されたのが、日本で最初の記録である。

文献： 51. 77. 81. 84.



(村井俊郎・河北 均)

ヒメタイコウチ

カメムシ目タイコウチ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Nepa hoffmanni Esaki

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知生息地が 10 以下で、いずれの湿地も生息基盤が脆弱であり、将来的に減少の恐れが高いことから CR にランク変更された。

種の特徴： 体長 20 mm 内外で、尾端に 3 mm ほどの呼吸管をもつ。前腿節前縁には刺状の突起が無い。小動物を捕食する。産卵期は 4~6 月で 5 齢を経て 8~9 月頃に成虫になる。陸上で成虫越冬し、寿命は約 2 年。

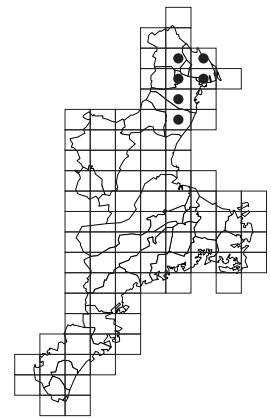
分布： 本州の静岡県から兵庫県、四国香川県、国外では朝鮮半島、中国北部、ロシア極東部に分布。県内では桑名市、東員町、四日市市および鈴鹿市での記録がある。

現況・減少要因： 北勢地域で記録されているだけで、生息面積は極めて局所的。四日市市の垂坂町では 1970 年以降の記録を見ない。生息地は人為的影響を受けやすい脆弱な環境下にあり、土地改変および丘陵地の荒廃とそれともなう湧水の枯渇などが減少要因となる。

保護対策： 生息地と周辺の土地改変を極力回避し、湧水確保のために生息地および後背丘陵地の森林を保全するとともに、新たに生息環境の創出を計る。

特記事項： 桑名市では市の天然記念物に指定。

文献： 117. 119. 129. 138. 168.



(富田靖男)

トゲナベブタムシ

カメムシ目ナベブタムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

Aphelocheirus nawai Nawa

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 県内既知生息地の 3 か所からも近年の記録はなく、種の存続が極めて危惧される。

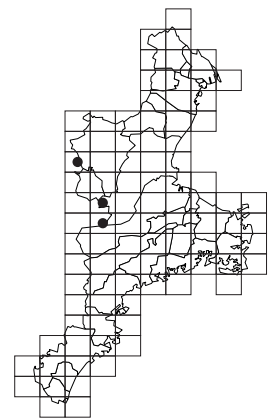
種の概要： 体長 9 mm 内外で、体は円形に近く扁平で、ナベブタムシに似ているが、前胸背と腹部各節の側縁が後方に鋭く突出している。

分布： 三重県を東限とする本州、九州に分布する。県内では 1950 年代以前の名張市赤目、伊賀市長田川および津市美杉町三重大学演習林での記録がある。近縁のナベブタムシは県内に広く分布するが、本種は極めて局所的に記録されているのみである。

現況・減少要因： 生息範囲は極めて局所的であると考えられる。既知生息地は、いずれも河川上流部で、流れの比較的早く溶存酸素量が多い砂礫質の川床である。砂防堰堤の設置、林地の放任、災害による環境の悪化等により、生息環境が悪化したと考えられる。

保護対策： 既知生息地を含めた本種が生息可能な河川を有する森林及び河川環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

文献： 122. 130. 138. 148. 168.



(鈴木 賢・大川親雄)

コバンムシ

カメモシ目コバンムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

Ilycoris cimicoides exclamationis (Scott)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

選定理由： 既知生息地が 5 以下。御池沼沢では 50 年以上も記録をみず、この 10 年来で再確認されているところは 2 か所であることから、CR にランク変更された。

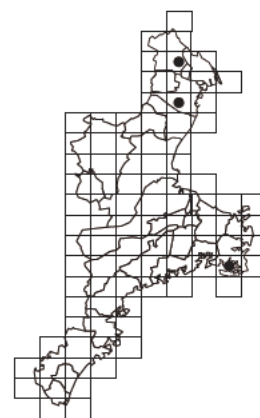
種の特徴： 体長 12 mm 内外、小判形で光沢強く、生時は緑色。小動物を捕食する。

分布： 本州、九州、国外では韓国、中国に分布。県内では四日市市の御池沼沢、いなべ市大安町丹生川上および志摩市大王町における記録がある。

現況・減少要因： 本種はヒシやヒルムシロなどの浮葉植物が豊富に生育するやや深い池沼から記録がある。そのような環境は近年各地で減少しており、御池沼沢では 1958 年以降の記録を見ない。また、プラスチック呼吸により、水中の溶存酸素を取り入れているので、全国的な減少には池沼の埋め立て等改変や植生環境の変化等と併せ、水質の悪化が顕著にかかわっているものと推察される。

保護対策： 近年確認されている 2 地域をはじめ、浮葉植物等のみられる県内の沼沢地の継続的な調査、ならびに水辺環境の保全管理が必要である。

文献： 112. 130. 163. 168.



(富田靖男・石田和男・矢崎充彦)

オオウスバカゲロウ

アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Heoclisia japonica (MacLachlan)

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 既知生息地は 3 地点で、そのうち四日市市と伊勢市の 2 地点は 50 年以上記録がなく、CR にランク変更された。

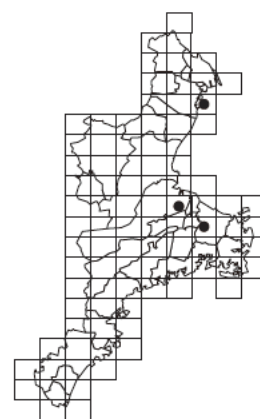
種の特徴： 成虫の体長 49 mm 内外、前翅長 61 mm 内外。幼虫は海岸などの砂地の草間を徘徊し、小動物を捕食する。燈火にも飛来する。

分布： 国内では北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮、中国に分布。県内では四日市市、松阪市および伊勢市で記録がある。

現況・減少要因： 四日市市と伊勢市では 1957 年の夏季に、また、松阪市田村町では 2002 年 5 月に成虫が採集されている。四日市市の場合は海岸から 1km 余りに位置する市街地において燈火に飛来したものである。発生地は海浜か三滝川河川敷と推察されるが、海浜であれば埋め立て後現在工業地となっている。幼虫が特殊な環境に生息する種であり、環境の改変が本種の生息に大きくかかわっているものと推察される。

保護対策： 海浜や河川敷など、本種の生息環境の保全、復元が必要である。

文献： 170. 174.



(富田靖男)

カワラハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

Cicindera laetescripta Motschulsky

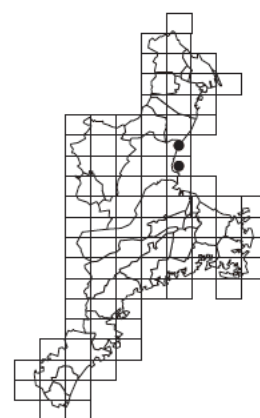
旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生息地点 5 以下。減少傾向が著しい。生息が確認されているのは 1 地点のみであったが、近年新たに 1 地点が追加された。しかし、その生息地も危機的な状況である。全国的にも近年の減少傾向が著しく、絶滅が危惧されている。

種の概要： 体長 14~17 mm。海岸、河原などの砂浜に生息する。成虫は 7 月下旬から 10 月上旬にかけて出現。幼虫は草本がごくまばらに生えた砂地にはほぼ垂直の穴を掘り、穴入り口付近で餌となる昆虫などが近づくのを待ち伏せする。振動には非常に敏感である。幼虫で 2 冬を越す。

分布： 北海道、本州、四国、九州。シベリア南東部、樺太、朝鮮半島、济州島、中国、モンゴル。県内では津市などに分布する。

現況・減少要因： 伊勢湾沿岸域で現在確実に生息するのは三重県のみである。海岸砂浜を生息場所としているが、護岸工事や侵食による砂浜の狭小化が進行しており、現在は生息に十分な奥行きを持つ砂浜そのものが殆ど存在しない。生息地への車両の乗り入れ、過度の人の立ち入りによる踏みつけは本種の生息にとって大きな脅威となる。生息地周辺での堤防の嵩上げ、背の高い建造物の建築は風の通りを悪くし、砂浜の草原化を招く。土木工事や大型車両の通行による振動も幼虫の採餌行動に大きな影響を与える。明るい照明は成虫を誘殺する。最近行われたクロマツなどの植栽も生息地をさらに狭める要因となっている。植栽地周辺の砂浜は草が広がり、その周辺では本種幼虫の巣穴数が激減した。植栽されたクロマツは管理責任者である津市水産振興室によってごく小規模な撤去が行われたものの、大部分は未だに放置された状況である。近年、生息地にはオオ



フタバムグラをはじめとした外来植物の侵入が著しいうえ、コウボウムギの群落が急速に拡大したこともあって、幼虫の生息に適した裸地の面積が縮小し、個体数は減少を続けている。新たに発見された地点は、発見時から個体数が少ないうえ、過度の海浜利用や外来植物の繁茂、堤防建設工事の進行などによって、極めて厳しい状況にあるものと思われる。

保護対策： 生息地に車両の乗り入れができないように手立ては講じられたが、幼虫が高密度で生息する地点は、人の立ち入りも制限することが望ましい。生息地周辺堤防の前出しや嵩上げ、構造物の建築、照明の設置を行わない。また、植栽されたクロマツは一刻も早く撤去をするべきである。津市の生息地では、地元の自然保護団体(白塚の浜を愛する会)によって外来植物の除去作業が2005年からほぼ毎月継続されており、この活動によってかろうじて生息地が維持されているような状況である。県中勢流域下水道事務所によって、本種についての現況調査が継続的に実施されており、2014年には、生息地内にあったグラウンドを海浜に復元する工事が行われた。数年間におよぶ事前調査のうで行われた工事であり、今後の推移に期待したい。

特記事項： 三重県指定希少野生動物種に指定されており、捕殺などに関しては事前の届け出が必要。生息地周辺に下水処理場を建設する計画がある。三重県(2001)は、当初の計画通り下水処理場が建設された場合「幼虫の生息環境の変化を巣穴の数から見た場合、改変部分と併せて約94%が幼虫の生息場所として機能しなくなり、幼虫の生息環境にとって壊滅的な状態が想定される。」と指摘している。

文献： 379. 380. 486. 500. 501. 513.

(秋田勝己・乙部宏)

ミハマオサムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：CR

Carabus arrowianus kirimurai Kubota et Yahiro

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 本県特産で分布域が極めて限られる上に個体密度も低い。

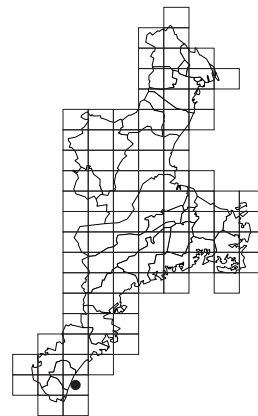
種の概要： 体長 23~27 mm. 2003 年に発見、記載された。背面はすべて光沢のある銅色。近縁グループの調査から主食はフトミズ類と推定される。樹林内や林縁に生息する。東海地方に分布するミカワオサムシ *Carabus arrowianus* (Breuning) の亜種であるが、ミカワオサムシの分布域から著しく隔離されており、分布範囲が極めて狭い。また、形態的にも遺伝的にも独自に分化している。

分布： 日本(三重県)固有亜種で、御浜町の非常に限られた狭い範囲に分布。

現況・減少要因： 丘陵地の樹林に生息し、個体密度は非常に低く、周辺部では特に低い。近年に明らかな減少傾向が認められている訳ではないが、大規模な開発等がおこれば壊滅的な打撃を受ける可能性が高く、現況は予断を許さない状況と言える。

保護対策： 生息範囲が狭いため、その範囲や周辺地域の自然環境を維持することが非常に重要である。

文献： 355. 392.



(久保田耕平)

ウガタオサムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

Carabus maiyasanus ohkawai (Nakane)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 本県特産で分布域が非常に限られる上に生息環境も分断化されている。

種の概要： 体長 24~30 mm. 背面は光沢のある銅色。主食はフトミズ類と推定される。樹林の周辺や草地に生息する。北陸地方、近畿地方北部に分布するマヤサンオサムシ *Carabus maiyasanus* Bates の亜種である。比較的連続的に分布するマヤサンオサムシの主たる分布域から著しく隔離されている。

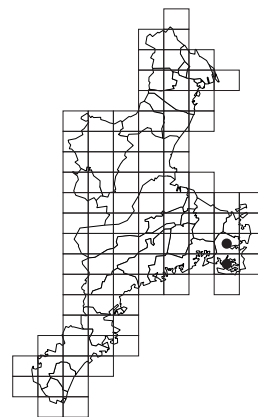
分布： 日本(三重県)固有亜種で、志摩市の限られた範囲に分布。

現況・減少要因： 生息地域が限られている上に、住宅地や農地などで生息環境の分断化が著しい。1980~90年代に多数の個体が認められた地点でも、現在では全く発見できないところや、開発されてしまったところもある。また、本亜種は比較的開放的で地表の植生被度の豊かな環境を好むため、人工林の林床や草地の鬱閉化も悪影響を及ぼしている可能性がある。

保護対策： 分布域内の環境改変をできるだけ避ける必要がある。また過度の鬱閉化を避けるため、人為の介入が望ましい場合もあるだろう。

特記事項： 生息範囲は全域、伊勢志摩国立公園に含まれる。

文献： 313. 344.



(久保田耕平)

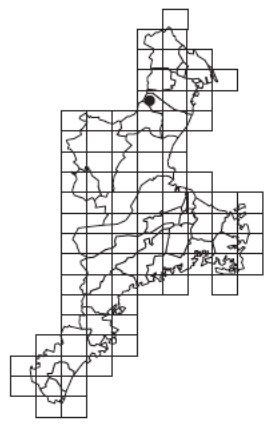
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シャクダイジメクラチビゴミムシ コウチュウ目オサムシ科
Kurasawatrechus katoi S. Ueno

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

選定理由： 鈴鹿市小岐須町の「石大神の風穴」にのみ生息する固有種であるが、環境の悪化が進んでいる。
種の概要： 体長 3 mm. 複眼も後翅も退化し、体色はアメ色に退色する。洞窟の外では生息できないが、同地域の石灰岩地下浅層から確認された。
分布： 日本固有種で、本州の鈴鹿市小岐須町の石灰岩地域にのみ生息する。
現況・減少要因： この石灰洞は石灰岩の採石のために破壊され消滅したが、近くの石灰岩の地下浅層から 2 頭目が採集された (未発表)。現在も石灰岩の採石は継続され、生息環境は良くない。
保護対策： 採石会社への行政の適切な指導が必要である。
特記事項： 生息地一帯は鈴鹿国定公園に指定されている。
文献： 566.



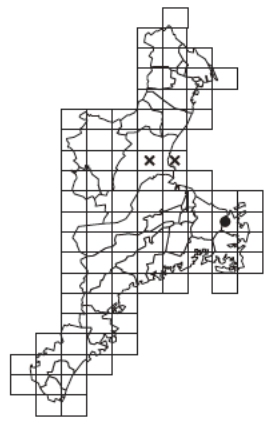
(稲垣政志)

アオヘリアオゴミムシ コウチュウ目オサムシ科
Chlaenius praefectus Bates

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR

選定理由： 生息環境が悪化し、現存する生息地は 1 か所のみである。
種の概要： 体長 16~17 mm. 低地の河川敷、溜池の周囲、放棄水田など湿地的な環境に生息する。夜行性で灯火に飛来することもある。
分布： 本州、四国、九州、南西諸島。国外では中国、東南アジア、インドに分布する。県内では名張市、津市、伊勢市に記録があるが、名張市のものは疑問。
現況・減少要因： 現在の日本列島における生息地点は 5 未満であろう。1992 年に記録がある津市大里窪田町の大澤池は、その後の護岸工事により、生息地の池畔の湿地は消失した。1976 年に記録されている津市押加部町、栄町にはどちらも生息地になりえる環境は全く残されていない。2000 年代になって伊勢市で 2 か所の小規模な休耕田で発見された。一か所は耕作が再開された。もう一か所は植物遷移が進行し、2005 年以降は発見されていない。
保護対策： 生態に関する知見がほとんど皆無であることから、詳しい生活史の解明が急務である。生息地点周辺の湿地環境の復元が強く望まれる。また、隣接する水田の農業散布などにも十分な配慮が必要であろう。
文献： 219. 375. 516.



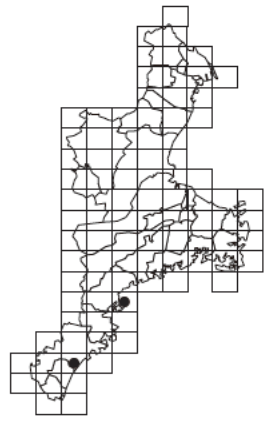
(秋田勝己)

エチゴトックリゴミムシ コウチュウ目オサムシ科
Oodes echigonus Habu et Baba

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知生息地点が 2. 生息基盤が脆弱である。
種の概要： 体長 14~15.2 mm. 草丈の高い湿地に生息する。成虫は濡れた地表を歩行し、しばしば水中に潜る。
分布： 本州に分布する。県内では、紀北町、御浜町で確認されている。
現況・減少要因： 紀北町は大きな池の周辺湿地、御浜町では河川氾濫原の湿地で得られた。紀北町の生息地は、埋め立てがすすんでおり、危機的な状況である。御浜町の湿地も小規模なもので、その生息基盤はきわめて脆弱である。同様の環境はすでにほとんど残されていない。
保護対策： 湿地や池の埋め立て、河川改修を行わないことである。



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

Canthydrus politus (Sharp)

旧県：

選定理由： 現存産地 1. 生息環境の悪化により個体数が激減した。

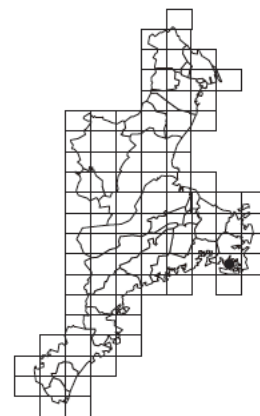
種の概要： 体長 2.4~2.6 mm. 池沼の浅瀬の水生植物の多い水域に一年中見られるが、夏季に個体数が多い。

分布： 本州、四国、九州. 国外では中国に分布する。分布は広いが、産地は極めて局地的。三重県では志摩市の海跡湖に唯一の生息地がある。

現況・減少要因： 志摩市の産地では 2005 年までは、極めて個体数が多かった。しかし、アメリカザリガニの侵入、繁殖により、個体数は激減した。アメリカザリガニの直接の捕食のほか、水生植物の減少も大きく影響しているものと考えられる。現在でも生息するが、個体数は少ない。

保護対策： アメリカザリガニを駆除することである。2007 年に駆除作業を行ったが、池の規模が大きいこともあって、根絶は不可能であると思われた。生息地である岸辺周辺を目の細かい網で仕切り、その中のアメリカザリガニを除去するなどの積極的な保全策が求められる。

文献： 194. 195. 308. 451.



(秋田勝己)

キボシチビコツブゲンゴロウ

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

Neohydrocoptus bivittis (Motschulsky)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 全国的にも産地は極限され、県下における既知の生息地点は 2 である。

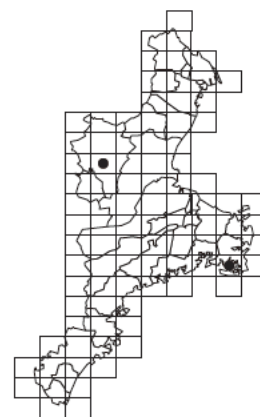
種の概要： 体長 3.0~3.4 mm. 池沼の浅瀬の水生植物の多い水域に見られる。成虫、幼虫とも水生植物の根の間で生活している。

分布： 本州、九州. 国外では台湾からインドにかけて広く分布する。国内における産地は極めて局地的。三重県では志摩市の海跡湖と伊賀市の溜池に生息地がある。

現況・減少要因： 2つの産地とも、もともと個体数が少ない。2産地ともすでにアメリカザリガニが侵入している。多くの水域では、アメリカザリガニの侵入とともに水草の激減、水質の悪化などをもたらした。それらは、本種の生息に大きな影響を与えるものと考えられる。

保護対策： アメリカザリガニを駆除することである。志摩市の海跡湖では 2007 年に駆除作業を行ったが、池の規模が大きいこともあって、根絶は不可能であると思われた。生息地である岸辺周辺を目の細かい網で仕切り、その中のアメリカザリガニを徹底的に除去するなどの積極的な保全策が求められる。

文献： 194. 195. 308. 356. 384. 544.



(秋田勝己)

ムモンチビコツブゲンゴロウ

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

Neohydrocoptus sp.

旧県：

選定理由： 全国的にも産地は極限され、おそらく生息地は 10 地点未満。県下における既知の生息地点は 2 であるが、現存する産地は 1 である。

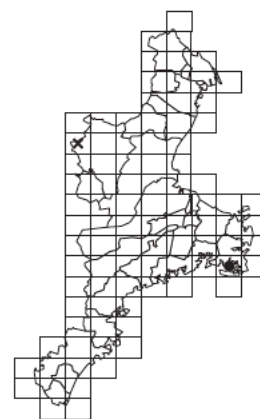
種の概要： 体長約 2 mm. 池沼の浅瀬の水生植物の多い水域に見られる。

分布： 京都、兵庫、高知から記録される。国内における産地は極めて局地的で個体数もごく少ないようである。三重県では志摩市の海跡湖と伊賀市の溜池に生息地がある。

現況・減少要因： 2つの産地とももともと個体数が少ない。伊賀市の溜池は 2000 年代以降確認されていない。志摩市の産地にはすでにアメリカザリガニが侵入している。直接捕食されるという影響以上に、アメリカザリガニの侵入による水草の激減、水質の悪化などが生息に大きな影響を与えるものと考えられる。

保護対策： アメリカザリガニを駆除することである。志摩市の海跡湖では 2007 年に駆除作業を行ったが、池の規模が大きいこともあって、根絶は不可能であると思われた。生息地である岸辺周辺を目の細かい網で仕切り、その中のアメリカザリガニを除去するなどの積極的な保全策が求められる。

文献： 195. 384. 544.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

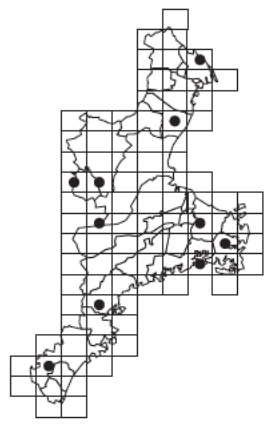
ゲンゴロウ
Cybister japonicus Sharp

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

選定理由： 既知の記録は 11 か所であるが、2000 年以降は 2 か所で記録されているだけである。
種の概要： 体長 34~42 mm. 国内に生息するゲンゴロウ類中最大種。体型は卵型で比較的扁平。背面は緑暗褐色。側縁部は黄色。産卵植物となる水生植物の生育する池沼などに生息する。
分布： 北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国、台湾、シベリアに分布。県内では桑名市、鈴鹿市、伊賀市、名張市、津市、伊勢市、志摩市、南伊勢町、紀北町、熊野市で記録されている。
現況・減少要因： 2000 年以降は、津市美杉町と名張市で記録されているだけである。生息水域への農薬の流入、圃場整備、開発、外来生物による捕食圧などの要因により減少したと考えられる。
保護対策： 生息地およびその周辺環境の適切な管理が必要である。
文献： 194, 215, 309, 440, 443, 493, 541, 544, 551.



(上岡 岳)

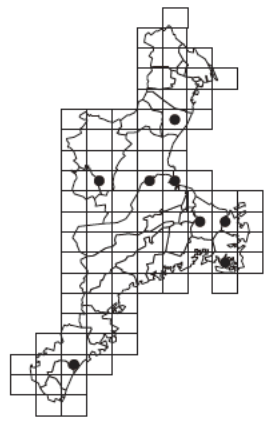
コガタノゲンゴロウ
Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：VU

選定理由： 既知の記録は 9 か所であるが、2000 年以降は 1 か所で記録されているだけである。
種の概要： 体長 24~29 mm. 体型は長卵型で、背面は緑色を帯びた黒色。側縁部は黄色。産卵植物となる水生植物の生息する池沼などに生息する。
分布： 本州、四国、九州、南西諸島、小笠原。国外では台湾、中国、朝鮮半島に分布。県内では鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市、御浜町で記録されている。
現況・減少要因： 2000 年以降は、鳥羽市で記録されているだけである。本種の生息域は、環境破壊や環境汚染の影響を受けやすい平野部であり、生活排水や農薬の流入、池沼のコンクリート護岸化、湿地開発およびオオクチバスなどの捕食圧により減少したと考えられる。
保護対策： 生息地およびその周辺環境の適切な管理が必要である。
文献： 194, 204, 215, 440, 443, 483, 544, 554, 571.



(上岡 岳)

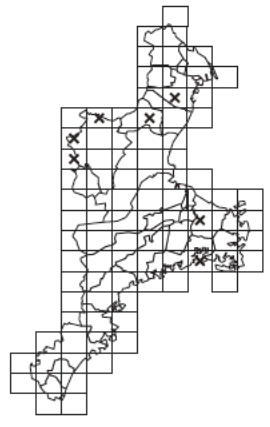
マダラシマゲンゴロウ
Hydaticus therrmonectoides Sharp

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：CR

選定理由： 三重県における近年の確認例はない。全国的にも安定した生息地は知られておらず、日本国内からの絶滅が最も危惧される種の一つである。
種の概要： 体長 9~10 mm. 丘陵地にある小規模な池や、棚田の最上部など浅くて貧栄養な止水域に生息する。
分布： 本州、九州から記録されるが、大半の記録は 1970 年代以前のものである。県内では四日市市、鈴鹿市、伊賀市、伊勢市、南伊勢町で確認されている。他府県に比べ、三重県の記録は群を抜いて多い。国外では朝鮮半島、中国に分布。
現況・減少要因： 宅地、工業団地、ゴルフ場などの開発、産業廃棄物などの埋め立て、耕地整理による水田の乾田化、水田耕作放棄による植物遷移の進行、農薬散布などにより、ほとんどの産地が消滅した。1990 年代初頭に多産していた伊賀市の産地のいくつかはアメリカザリガニの侵入によって絶滅したものと考えられる。すでに絶滅してしまった可能性も否定できない。
保護対策： 新たな生息地の発見に努めることが急務。生息地が発見された場合、極めて積極的な保全策を講じることが求められよう。
文献： 194, 273, 347, 385, 462, 484, 544, 573.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤギマルケシゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Hydrovatus yagii Kitayama, Mori et Matsui

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：NT

選定理由： 現存産地 1. 生息環境の悪化により個体数が激減した。全国的にも既知産地は 10 地点未満である。

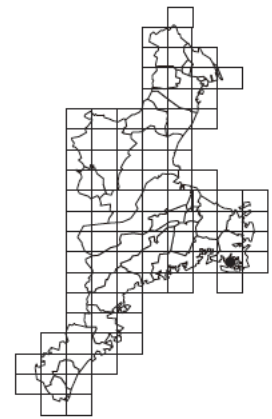
種の概要： 体長 1.7~1.8 mm. 池沼の浅瀬の水生植物の多い水域に見られる。

分布： 京都、兵庫、奄美大島、石垣島、西表島で記録があるが、産地は極めて局地的。三重県では志摩市の海跡湖に唯一の生息地がある。

現況・減少要因： 志摩市の産地では 2005 年までは、比較的個体数が多かった。しかし、その後、アメリカザリガニの侵入、繁殖により、個体数は激減した。アメリカザリガニの直接の捕食のほか、水生植物の減少も大きく影響しているものと考えられる。現在は、ほとんど見る事ができない。

保護対策： アメリカザリガニを駆除することである。2007 年に駆除作業を行ったが、池の規模が大きいこともあって、根絶は不可能であると思われた。生息地である岸辺周辺を目の細かい網で仕切り、その中のアメリカザリガニを除去するなどの積極的な保全策が求められる。

文献： 195. 308. 385.



(秋田勝己)

シャープツブゲンゴロウ (アヤナミツブゲンゴロウ) コウチュウ目ゲンゴロウ科
Laccophilus sharpi Régimbart

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点 10 未満。いずれも 1960 年代以前の記録で、近年の生息情報がない。

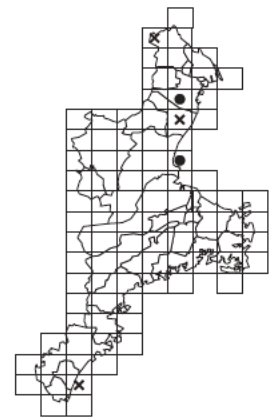
種の概要： 体長 3.5~4.2 mm. 湿地、放棄水田、池沼などの浅い止水域に生息し、灯火などにも飛来する。かつては全国的に普通に見られる種であったらしい。

分布： 北海道、本州、四国、九州、南西諸島。国外では東南アジア一帯からイラン、サウジアラビア、さらにオーストラリアにおよぶ非常に広い分布域をもつ。三重県ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、津市、伊勢市、御浜町などから記録される。

現況・減少要因： 記録自体は少ないが、1960 年代までは、県下各地の水田や浅い池沼にごく普通に見られたものと考えられる。しかし、1970 年代以降の記録や標本を確認することができない。おそらくその主要な生息地が水田であったために、農業散布や耕地整理などが大きく影響したと思われる。県下からは、すでに絶滅してしまっている可能性も否定できない。

保護対策： 生息地の発見に努めることであろう。

文献： 204. 210. 443. 464. 487. 544. 573.



(秋田勝己)

チュウブホソガムシ コウチュウ目ガムシ科
Hydrochus chubu Balfour Brown et M. Satô

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅 (EX)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点が 2. うち 1 はすでに絶滅していることが確認されている。全国的にも産地は極限される。

種の概要： 体長 2.4~2.5 mm. 水質がよく水草の豊富な浅い池に生息する。

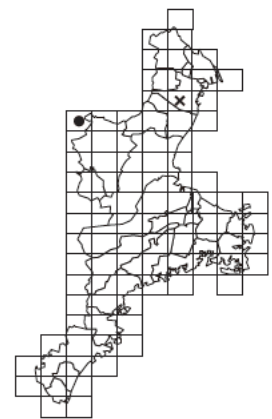
分布： 本州、四国、九州から記録されるが、全国でも現存生息地点は 20 か所未満であると思われる。三重県では、1957 年に四日市市尾平山で採集されたものが唯一の記録であったが、この産地はすでに消失している。県内からは絶滅したものと考えられていたが、2011 年に伊賀市で発見された。

現況・減少要因： 伊賀市にある小規模な池が唯一の生息地である。近接する休耕田では、アメリカザリガニの侵入が確認されており、危機的な状況にあるものと考えられる。他県ではアメリカザリガニの侵入後に池の植生が破壊され、本種が絶滅してしまった例が知られている。

保護対策： 池を含む里山環境の保全。アメリカザリガニやコイ、ブルーギルなどの侵入を阻止し、侵入してしまった場合はすみやかにそれらを駆除すること。

特記事項： 四日市市尾平山は、本種のタイプ産地である。

文献： 205. 533. 537.



(秋田勝己)

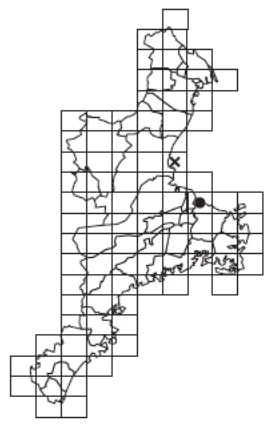
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

セスジマルドロムシ コウチュウ目ガムシ科
Georissus (Nipponogeorissus) granulosis M. Satô

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：情報不足 (DD)

環境省：VU

選定理由： 既知生息地が 2 だが、現存産地は 1。他府県からの記録もない。
種の概要： 体長 1.6 mm。河川下流の感潮域に生息する。干潮時に湿った礫混じりの砂上で活動する。灯火に飛来することがある。
分布： 津市安濃川、伊勢市宮川の下流で記録されている。他府県、国外における記録はない。
現況・減少要因： 津市の記録は 1958 年のもので、2008 年に宮川で再発見されるまでは、これが本種の唯一の記録であった。安濃川には記録地点より下流に潮止堰が作られていることから、本種は生息しえない。宮川の生息地は中洲周辺の河口干潟で、幅数メートル、長さ 20 m ほどの間でのみ確認することができた。今後の河川改修などによって簡単に絶滅してしまう恐れがある。
保護対策： 生息地周辺での河川改修などを行わないことである。また、灯火に誘引されてしまうことから、生息地周辺における照明にも配慮するべきである。
特記事項： 津市が本種のタイプロカリティー。宮川河口干潟が現在のところ世界唯一の現存既知生息地である。
文献： 196. 269. 531. 534.



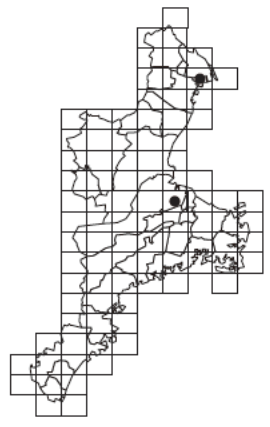
(秋田勝己)

オオクワガタ コウチュウ目クワガタムシ科
Dorcus hopei binodulosus Waterhouse

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点数 5 以下。生息環境の悪化により、危機的な状況に陥っている。
種の概要： 体長雄 30~75 mm, 雌 30~45 mm。5~9 月にかけて夜間クヌギなどの樹液に集まる。幼虫は広葉樹の立ち枯れや部分枯れの内部を食する。
分布： 北海道 (渡島半島南部)、本州、四国、九州、対馬、朝鮮半島、中国。県内では桑名市長島町、松阪市、明和町などから記録されている。津市でも記録されるが、これはペット由来の個体である可能性が高い。
現況・減少要因： 開発や固場整備によって生息に不可欠な台木の消失、生息地周辺の水田地帯への農薬空中散布などにより激減した。近年の確実な生息地は無い。
保護対策： 生息地の詳細な調査を実施して、台木 (クヌギ、エノキなど) の保全を早急に行うべきである。また農薬の空中散布は行うべきではない。
特記事項： 近年のペットブームによって外国産や国内他地域産の個体が大量に飼育されている。そのため逸出した個体との交雑による遺伝子攪乱が強く危惧される。
文献： 189. 194. 209. 381.



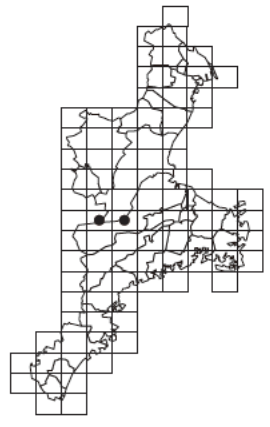
(乙部 宏・秋田勝己)

マグソクワガタ コウチュウ目クワガタムシ科
Nicagus japonicus Nagai

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点が 1 か所。生息環境が悪化し、近年の減少が著しい。
種の概要： 体長 8~9.5 mm。河川の砂地に生息する。4 月下旬から 6 月上旬にかけて出現し、雄は地表近くを日中活発に飛翔する。幼虫は砂中に埋没した朽木を食し、幼虫で 2 回、蛹室内の成虫で 1 回越冬する。
分布： 北海道、本州。分布は局限され、紀伊半島では奈良県の 1 か所と三重県のみ産する。県内では津市美杉町 (雲出川) から記録されるのみ。
現況・減少要因： 雲出川では、1990 年代前半までは数地点で発生が見られたが、河川改修と道路の拡幅工事などによってその多くが破壊された。また、植物遷移がすすみ、同時に砂中の朽木が新たに提供されなくなったことにより、消失した発生地もある。近年発生が確認されているのは 1 地点のみであるが、2012 年、2013 年の調査では発見することができなかった。
保護対策： 生息地周辺では河川改修を行わない。道路工事などを行うときは配慮が必要である。しばしば洪水がおこることによって、幼虫の餌となる埋没木が提供されたり、成虫が活動する砂地が維持される。したがって、生息地上流にダムや砂防ダムを建設しないことである。
文献： 187. 194. 315.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヒメコエンマコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Caccobius brevis Waterhouse

旧県：—

選定理由： 既知の生息地点は 2 か所のみ。1980 年の伊勢神宮の調査後長らく記録が途絶えていたが、2004 年に尾鷲市にて 1 頭採集された。

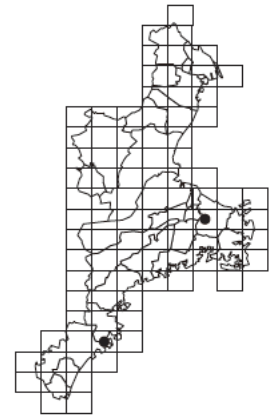
種の概要： 体長 3.5~5.5 mm。平地のオープンランドに生息し、新鮮な鹿、牛、馬、犬糞に集まる。

分布： 本州、四国、九州、対馬、屋久島。県内では伊勢神宮と尾鷲市の 2 地点のみ。

現況・減少要因： 同一産地を調査したが、追加記録は得られなかった。平地の放牧地の消滅が本種の生息を困難にしている。

保護対策： その後の調査によっても生息状況が不明なので、緊急な調査と生息環境の保全が望まれる。

文献： 300, 540.



(稲垣政志)

ヤマトエンマコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：NT

Onthophagus japonicus Harold

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生息地点数は 1。以前は本州各地に分布していたが、現在では滋賀県甲賀市と伊賀市の隣接する地域が全国で数少ない生息地となっている。

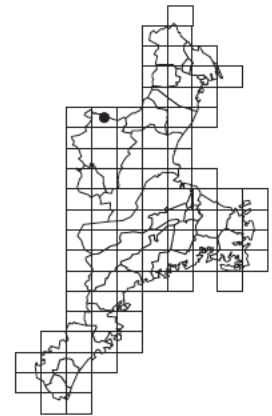
種の概要： 体長 7~11 mm。食糞コガネの仲間では中型種である。春と秋の日中に飛翔し、日当たりの良い動物の糞に集まる。成虫はその糞を地中に運び産卵する。

分布： 本州、佐渡。国外では台湾、濟州島、朝鮮半島、中国。県内では伊賀市阿山に分布。

現況・減少要因： 奈良県春日公園は多産地として知られていたが環境は残っているものの現在では絶滅しており、その要因は不明である。県下では滋賀県で再発見されてからその後の調査で県内でも生息しているのが確認された。しかし、生息地は極めて限られている。

保護対策： 現存する生息地は農山村の環境であるので、開発などせず、今の環境を維持する。それと生息地周辺はアカマツ林が多いことから松枯れ対策目的の農薬空中散布などは配慮が必要である。

文献： 330, 503, 560, 561.



(乙部 宏)

マルエンマコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Onthophagus (Gibbonthophagus) viduus Harold

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点は 5 以下である。南西諸島を除いて、全国的に激滅しており、特に最近の本州の記録は途絶えていて、唯一三重県での記録が知られているだけである。

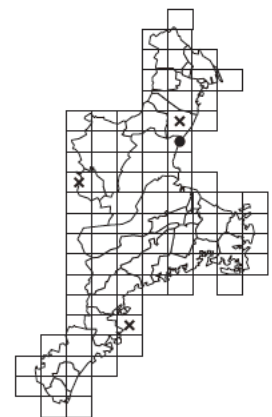
種の概要： 体長 5.0~9.8 mm。河川敷や放牧地などのオープンランドで見つかる。新鮮な牛糞を好み、人、犬の糞や腐敗物にも集まる。

分布： 北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬、屋久島、種子島、沖縄。海外では濟州島、朝鮮半島、中国。県内では、鈴鹿市、名張市、津市、尾鷲市。

現況・減少要因： 平地の放牧地の消滅。河川敷、海岸での犬糞の持ち帰り運動などの環境美化の影響により糞資源が枯渇した。

保護対策： 生息地の保全。適度な糞資源の供給 (特に犬糞)。

文献： 245, 292, 298, 330, 400, 440, 559.



(稲垣政志)

ニセセマルケシマガソコガネ コウチュウ目コガネムシ科
Psammodius maruyamai Ochi, Kawahara et Inagaki

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：—

環境省：—

選定理由： 2011年に種子島の個体を基に新種記載された種で、西日本の自然海岸に分布するが、三重県が現在のこの種の東限の生息地である。唯一の生息地の国府白浜海岸の環境に依存している。

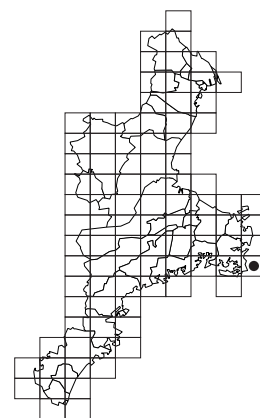
種の概要： 体長 2.3~2.6 mm. 護岸のしていない自然海岸の砂地の植物の根際に生息する。

分布： 種子島, 福岡, 徳島, 京都. 県内では志摩市国府白浜海岸のみで確認されている。

現況・減少要因： 外洋に面した砂地の自然海岸に生息するので、砂浜の狭小化などにより容易に生息状況が悪化する。

保護対策： 必要のない護岸工事などにより、砂礫の流入や補充ができなくなると砂浜が無くなり、本種は生息出来なくなる。

文献： 451, 473.



(稲垣政志)

トラハナムグリ コウチュウ目コガネムシ科
Trichius japonicus Janson

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下である。全国的に広く分布するが、特に西日本では分布が極めて限定されており、県下でも非常に記録が少ない。

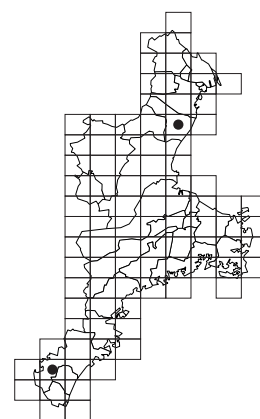
種の概要： 12~14 mm. ハナムグリ類の中では小型種であり、晩春から初夏に出現し活発に飛翔する。飛翔中の本種はハナバチ類によく似ており、各種の花に集まる。上翅の黒紋は変化が多く、一般に暖地の方が黒紋の小さくなる傾向がある。幼虫は河川敷の流木などの朽木で生育する。

分布： 日本固有種で北海道, 本州, 佐渡島, 四国, 九州に分布。県内では鈴鹿市, 熊野市紀和町で確認されている。

現況・減少要因： 自然林の減少と生息環境の乾燥化によって、幼虫の成育に必要な湿潤な朽木の減少したことが要因として考えられる。

保護対策： 河川周辺の自然林の保全と河川の護岸工事の配慮が必要である。

文献： 209, 517.



(乙部 宏)

キンモンナガタマムシ コウチュウ目タマムシ科
Agrilus auropictus Kerremans

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知生息地が 1. 生息基盤が脆弱である。

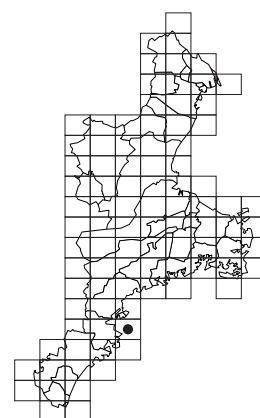
種の概要： 体長 6.0~10.5 mm. 自然度の高い照葉樹林に生息し、6~8月に出現する。タブノキなどの衰弱木に集まることから知られている。

分布： 本州, 四国, 九州, 屋久島, 種子島, 南西諸島. 国外では中国, 台湾, ベトナム, インドに分布する。本州の記録はほとんどなく、三重県では尾鷲市で記録されるのみであり、これが本種の分布東北限である。

現況・減少要因： 良好な照葉樹林に生息するが、そのような樹林は過去の森林伐採によってほとんど残されていない。樹林の伐採は、直接本種生息地の消失に結びつく。

保護対策： 生息地である照葉樹林の伐採をしないことである。

文献： 190, 441.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コクロオバボタル

コウチュウ目ホタル科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

Lucidina okadai Nakane et Ohbayashi

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生息地点数は 2. いなべ市宇賀溪に次いで 2 頭目が 1999 年に伊勢市で記録された。

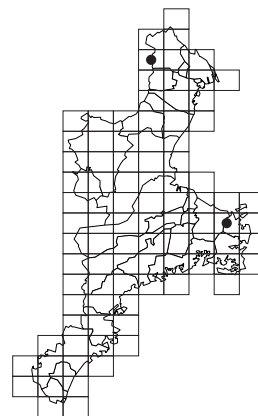
種の概要： 体長 6.5~7.0 mm. 前胸背板の前, 側縁は軽く上反する. 体型は扁平. 雌成虫は後翅が退化している. 通常の動作は緩慢である.

分布： 本州に分布する. 県内では, いなべ市大安町宇賀溪と伊勢市朝熊町で記録されているだけである. 県外では, 埼玉県と岐阜県で記録されている.

現況・減少要因： 生息地は雑草を含む湿地および周辺に広がる草地. 現在, 植生の遷移および周辺での開発が行われており, 環境が悪化しつつある.

保護対策： 生息地と同じ様な環境地域は限られてきたが, 早急な再調査が必要.

文献： 247, 398.



(生川展行)

カタキンイロジョウカイ

コウチュウ目ジョウカイボン科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Themus ohkawai M. Satô

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知生息地点が 5 以下. 生息基盤が脆弱である.

種の概要： 体長 17~20 mm. 湿地に生息する. 成虫は 5~6 月に出現. 昼間活動し, ほかの昆虫を捕食する.

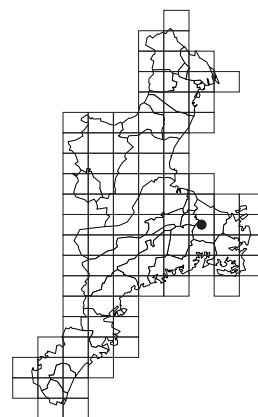
分布： 本州. 県内では伊勢市で記録されている.

現況・減少要因： 里山の谷あいにある放棄水田で 1997 年に記録されているが, その後の発見例は無い. 本種の場合, 湿地の周辺部やある程度植物遷移がすすんだ状態になった放棄水田が好まれるらしい. しかし, 放棄水田はそのままでは乾燥化と植物遷移が進行し, いずれ本種の生息に適した環境ではなくなってしまう. また, 里山にある小規模な湿地なども様々な開発や, 耕地整理などによって消失しつつある.

保護対策： 周辺の樹林を含む湿地の保全が強く求められる.

特記事項： 伊勢市は本種のタイプロカリティーである.

文献： 194, 303, 482, 488.



(秋田勝己)

ニセマグソコガネダマシ

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Trachyscelis sabuleti Lewis

旧県：—

選定理由： 全国的に生息地が限定されており, 三重県での既知の生息地も 1 か所だけで, 自然環境の改変による個体数の減少が危惧される.

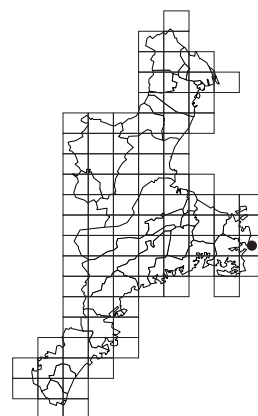
種の概要： 体長 3mm 前後. 褐色から黒褐色で光沢がある. 砂浜海岸の海浜植物の根際の砂の中や, 海岸に打ち上げられた海藻の下の砂の中などに見られ, 灯火にも飛来する.

分布： 本州 (関東以西), 九州. 県内では志摩市阿児町国府白浜海岸で記録されているだけである.

現況・減少要因： 現時点では, 国府白浜海岸での大きな環境の変化はない.

保護対策： 生息地の海岸の保全が急務である.

文献： 451, 452.



(生川展行)

フタスジカタビロハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Brachyta bifasciata japonica (Matsushita)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 生息地点は 1 か所のみ。食草が限定され、生息基盤が脆弱である。生息環境が悪化しており、個体数も減少している。

種の概要： 体長 16~18 mm。成虫は 5~6 月に出現。ヤマシャクヤクの花に集まり、花粉や花弁を食べる。幼虫は、同植物の根を食する。

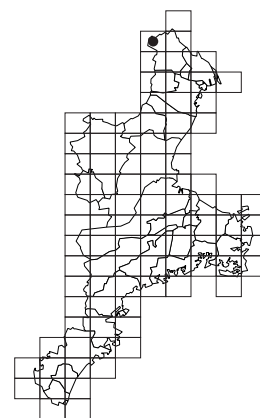
分布： 本州、四国。県内ではいなべ市藤原町に生息する。

現況・減少要因： 生活史のすべてをヤマシャクヤクに依存している。そのため、同植物の個体数の減少は本種個体数の減少に直接結びつく。本種の生息地においてもヤマシャクヤクはしばしば山野草愛好家によって持ち去られるらしく、個体数が減少した。

保護対策： ヤマシャクヤク群落を保全する。

特記事項： ヤマシャクヤクのポリネーターとして重要な種であると考えられる。

文献： 320, 361, 474.



(秋田勝己)

ムナミゾハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Munamizoa maculata (Matsushita et Tamanuki)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 生息地が局限され、既知の生息地は 1 か所にすぎない。生息環境が悪化し、近年個体数が減少している。

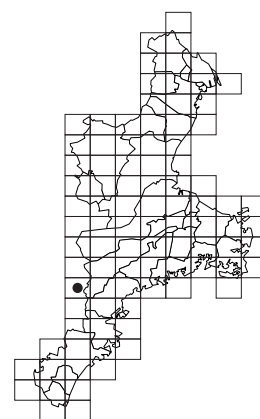
種の概要： 体長 13~16 mm。1 属 1 種の日本固有種。亜高山帯の針葉樹林に生息する。成虫は 7~8 月に出現し、夕方、トウヒやヒノキの古く苔むした立ち枯れに集まる。訪花性は弱い。幼虫はトウヒの古い立ち枯れに食入する。

分布： 本州、四国。近畿では紀伊山地にのみ分布。県内では大台町大台ヶ原の標高 1,500m 以上の地点に生息する。

現況・減少要因： 唯一の生息地である大台ヶ原は、近年ニホンジカの食害による樹木の枯死がめだっており、なかでもトウヒ林においてその被害が著しい。トウヒの枯死により、林内の乾燥化とササ原化がすすみ、本種の生息に適さなくなりつつある。

保護対策： ニホンジカの個体数を調整し、トウヒ林を保全することが重要である。

文献： 220, 264, 361, 474.



(秋田勝己)

オオミネヒメハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Pidonia (Pidonia) ohmiesana Mizuno

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生息地点数 1 以下である。生息範囲が局所的である。

種の概要： 体長 9~12 mm。成虫は 6~7 月に出現する。タンナサワフタギ、オオヤマレンゲなどの花に集まる。幼虫の生態については不明。

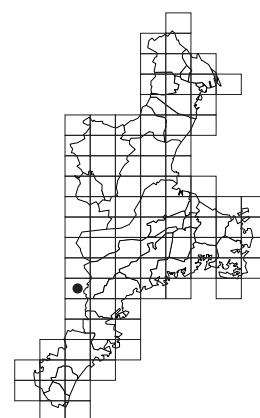
分布： 本州。紀伊半島固有種。大峰山系と大台ヶ原山（大台町）の標高 1,500 m 以上に分布する。

現況・減少要因： 落葉広葉樹から針葉樹林帯にかけて自然林が残された場所に生息。唯一の生息地である大台ヶ原は、近年ニホンジカの食害による樹木の枯死が目立つようになり、乾燥化が進行している。環境の悪化が懸念される。

保護対策： ニホンジカの個体数を管理し、樹木の育成や保全に努めるべきである。また今後も詳細な調査の継続が必要である。

特記事項： 生息地は吉野熊野国定公園の特別保護地区に指定されている。

文献： 351, 474.



(今村隆一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類**
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR**
- EN
- VU
- NT
- DD

ヨツボシカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Stenygrium quadrinotatum Bates

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

選定理由： 既知の生息地点数 100 以下である。県内では、普通にみられたカミキリムシであるが、1980 年代以降の採集記録が極めて少なくなり 10 年以上にわたって生息情報がない。

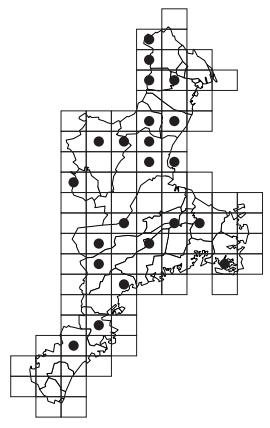
種の概要： 体長 8~14 mm。成虫は 5~8 月に出現し、クリなどを訪花する。また灯火にもよく飛来する。幼虫はクリなど広葉樹の枯枝に食入する。

分布： 北海道 (南部)、本州、伊豆諸島 (新島)、佐渡、隠岐、四国、九州、対馬、壱岐、屋久島、奄美大島、徳之島。国外では台湾、朝鮮半島からインドシナに分布。過去には県内全域にわたって記録されている。

現況・減少要因： 減少の要因は明らかではないが、里山やその周辺環境の衰退が関与していると考えられる。県内のみならず全国的に記録が少なくなっている種である。

保護対策： 減少要因が全く不明であることから、まずそれを探ることが重要で継続的な調査が必要である。

文献： 194. 326. 329. 441. 461. 474. 483. 487. 489. 491. 539. 540. 555. 573. 574.



(今村隆一)

モモグロハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Toxotinus reinii (Heyden)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点は 5 地点以下。20 年以上記録が途絶えている。

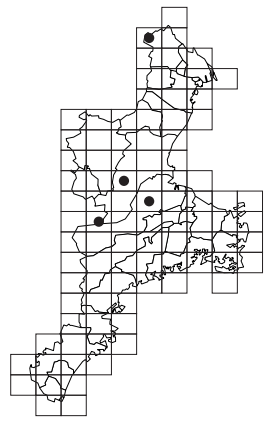
種の概要： 体長 7~15 mm。成虫は 5~7 月頃に山間部の湿潤な草地に出現する。

分布： 北海道、本州、佐渡島、四国、九州。県内ではいなべ市、伊賀市、津市、松阪市で記録されている。

現況・減少要因： 既知産地ではニホンジカの食害による草本類の消失による乾燥化。また食草と思われるショウマ類の減少も著しく現状では絶滅している可能性もある。

保護対策： ニホンジカの駆除、また生息地にはシカ防御用のネット、フェンスなどの設置も有用な手段である。

文献： 329. 489. 556.



(乙部 宏)

ムナコブハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Xenophyrama purpureum Bates

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点は 5 地点以下。近年の記録が途絶えている。

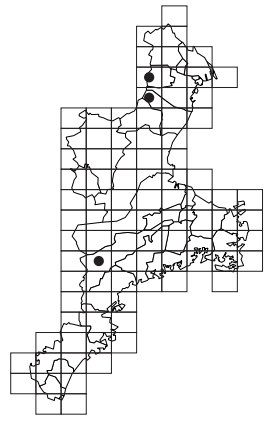
種の概要： 体長 17~20 mm。成虫は 6~7 月頃に温帯性落葉広葉樹林帯に出現。

分布： 本州、九州。全国的にも分布は極限されている。県内では菟野町、亀山市、大台町から記録されている。

現況・減少要因： 本種の幼虫は生木のノリウツギを食すことから個体密度は薄い。近年ニホンジカの増殖によりノリウツギの樹皮が剥ぎ食べられてしまい、多くが枯れ死している。現状では深刻な状況である。

保護対策： ニホンジカの駆除、また生息地のノリウツギの樹木をニホンジカから守る手段が必要である。

文献： 228. 285. 364. 574.



(乙部 宏)

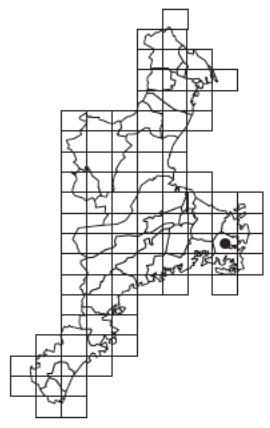
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

セラネクイハムシ コウチュウ目ハムシ科
Donacia akiyamai Komiya

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：—

環境省：DD

選定理由： 2006年に2地点で発見されたが現在では1地点のみしか確認できない。また、希少な植物に依存しているため生息地は10㎡にも満たない危機的な状況である。
種の概要： 体長6~8mm。成虫は7~9月頃にヒメコウホネの生息する限られた止水域の生息地に出現する。成虫は葉を食し幼虫は水没している地中の根を食害する。
分布： 本州のみ。広島、兵庫、静岡、三重の4県でしか確認されていない。県内では志摩市に限られる。
現況・減少要因： 本種の食草であるヒメコウホネがCRに選定されているので一部割愛する。ヒメコウホネは水位が下がり湿った条件でも生息できるが、本種の幼虫は完全に水の浸かった根でないと生育できず、安定した水位も不可欠である。ヒメコウホネよりも遙かに環境選択範囲が限られている。
保護対策： 利水権者の理解を得て環境の保全に取り組むことが急務である。
特記事項： ヒメコウホネは志摩市で天然記念物に指定されている。
文献： 451, 518.



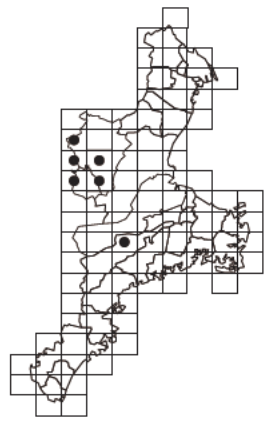
(乙部 宏)

キンイロネクイハムシ コウチュウ目ハムシ科
Donacia japana Chujo et Goecke

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息点数は10以下であり、本種は湿地、池沼などの食草であるミクリ類が繁茂するところに限り生息している。
種の概要： 体長は7.5~9.0mm。成虫は晩春から初夏にかけて出現し、ミクリ類の表面を剥ぎそるよう食害する。日中の気温の高いときは敏感であり活発に飛翔する。幼虫は土中のミクリ類の根を食す。
分布： 北海道、本州、九州。国外では朝鮮半島、中国東北部。県内では伊賀盆地(名張市、伊賀市)と松阪市(移入の可能性もある)。
現況・減少要因： 過去に記録された地点は、湿地の埋め立て、池沼整備などでほとんどが消失している。
保護対策： 本種の生息する湿地およびその周辺を保全し、汚水の流入を防ぐ。しかし、現生息地は私有地であると思われるので、地権者の理解を得ることが必要である。また、生息地周辺はアカマツ林が多いことから、松枯れ対策の農業空中散布などにも配慮が必要である。なお、食草であるミクリ類は植物部門のレッドリストに選定されている。
文献： 224, 472, 569.



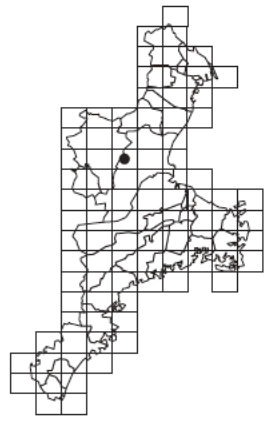
(乙部 宏)

カツラネクイハムシ コウチュウ目ハムシ科
Donacia katsurai Kimoto

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)
 旧県：—

環境省：—

選定理由： 2004年に発見されたがその地点は風力発電開発に伴い埋め立てられ消滅した。
種の概要： 体長6~8mm。成虫は5~6月頃に明るい湿地で見られる。
分布： 本州(愛知県以西)、九州。県内では津市青山高原の1地点のみ。
現況・減少要因： 絶滅している可能性が極めて高い。青山高原では風力発電開発工事により多くの湿地が消失し、残された湿地も地下水脈の流れが変わり環境が激変している。
保護対策： 手遅れの可能性は高いが詳細な調査を実施し、湿地の保全を行うことである。
文献： 515.



(乙部 宏)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イネネクイハムシ

Donacia provostii Fairmaire

コウチュウ目ハムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息点数は 5 以下。低地の水生植物の生育する池沼でしか生息できない。近年そのような池沼は激減している。

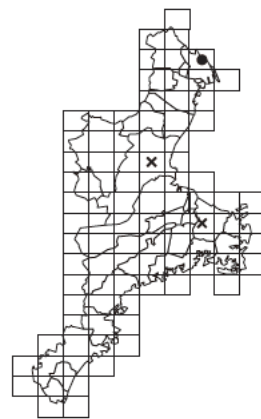
種の概要： 体長 6.0~7.5 mm。成虫は晩春から初秋まで見られ、各種の水生植物（ガガブタ、ヒルムシロ類、ヒツジグサなど）の浮葉を食害する。幼虫は土中のそれらの根を食す。

分布： 北海道、本州、四国、九州。国外では極東ロシア、朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア。県内では四日市市、津市、伊勢市に分布。

現況・減少要因： 池沼の護岸工事による食草となる水生植物の消滅や、池沼の埋めて立てなど開発による生息地の消失。現在生息が確認されているのは 1 か所だけである。

保護対策： 本種が生息する地域の沼およびその周辺部を保全し、汚水などの流入をさせないようにする。現生息地は農業用溜池であるため利水権者の理解を得ることが必要である。

文献： 224, 472, 487, 505.



(乙部 宏)

ババスゲヒメゾウムシ

Limnobaris babai Chujo et Morimoto

コウチュウ目ゾウムシ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 湿地のスゲ類に依存するゾウムシで、既知の生息地は伊賀市の 3 か所である。

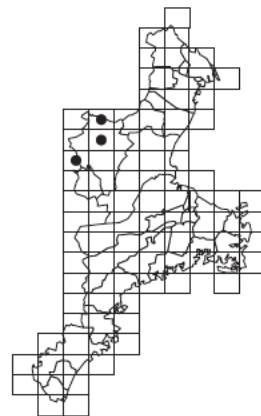
種の概要： 体長 3.8~4.2 mm。艶のある黒色で、縦長楕円形をした種類である。

分布： 本州・九州に分布するが、西日本地域では産地が少ない。県内では、伊賀盆地の伊賀市横山・荒木・法花から記録されている。

現況・減少要因： 1993 年に伊賀市横山の湿地で生息が確認された。伊賀盆地の里山・丘陵地の雑木林に接した湿地や湿地化した放棄田のスゲ類より採集されている。伊賀市法花は環境が維持されており、現在まで生息が確認されている。県内他地域では生息が確認されていない。

保護対策： 生息地域の雑木林に接した湿地環境の保全が必要である。

文献： 206, 338, 585.



(官能健次)

ヤマトヒメナガヒラタハナアブ

Chamaesyrrhus japonicus Shiraki

ハエ目ハナアブ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

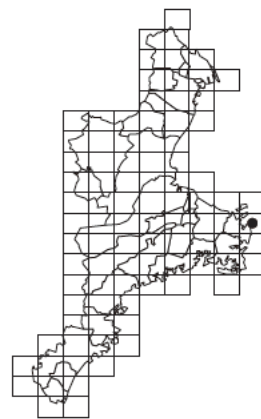
環境省：—

選定理由： 1953 年、大川親雄氏により三重県鳥羽市菅島で 1 雌が採集され、これをもとに素木得一によって新種として記載・発表された。以降 40 年間以上再発見されなかったが、近年になって本州、四国から数か所の生息地が確認された。いずれも、極めて自然度の高い原生の海浜が残る場所である。本種の生息地はこのような環境に限定されるため、極めて減少していることが推測される。さらに三重県では原記載以降、依然として再発見がなされておらず、存続が危ぶまれている。

種の概要： 体長 5~8 mm の小型種。体形は細長く、胸部・腹部は黒色。腹部背板の第 2~4 節にかけては一對の四角形をした黄褐色の斑紋を装う。翅は透明。脚は黄褐色で一部黒褐色となる。一見各地に普通に見られるホソヒメヒラタアブに類似するが、肩瘤に毛を装い、かつ触角刺毛が太く短いことで区別できる。成虫は 10 月より 4 月にかけて見られ、ヤクシソウ等の花に吸蜜のため訪れる。発生のピークは 11 月と思われる。幼虫の生態は不明。自然度の高い海浜の草原および海岸林(松林)に限って見られ、生息の中心は草原であると推察される。年 1 化と思われる。なお本属および近縁の 2 属(うち 1 属は同属ともされる)は旧北区および新北区にわずかな種が知られるのみの特異な一群である。

分布： 日本固有種で本州(茨城県、静岡県)、四国(高知県)の海岸に局所的に分布。県内では菅島の 1 例のみ。

現況・減少要因： 菅島および津市周辺の自然度の高い海浜で調査されたが再発見には至らなかった。調査された範囲では発生の中心となる草原が既に破壊されていて、ごく狭小にしか残存しないため、再発見の可能性は低いと考えら



哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

れる。本種は本来、少なくとも関東から四国にかけて太平洋沿岸の海浜には広く分布していたのであろう。いうまでもなく海浜は最も人為的な改変の進行している環境であり、本種の減少ないし絶滅は、堤防・道路の建設その他によって、特にその生息の中心となる草原的環境自体が失われたことによると考えられ、全く人為的な要因によっている。特に生息地の少なさから推測して、本種は環境の変化に特に敏感であるらしく、存続のためには特に高い自然度が要求され、かつ当然一定の規模も要求されるであろう。

保護対策： 既知の生息地は全国で10か所にも満たない。日本固有種のため、これが本種の生息地の総てであって、このままでは種の存続すら危ぶまれる。生息環境の保全が急務である。県内では、まだ調査が不十分なこともあり、再発見のための早急な調査が必要である。未調査地点も多く、生息の可能性はまだあるのだろうが、小規模な生息地の発見のためには綿密な調査がなされなければならない。

文 献： 609, 615.

(大石久志・篠木善重)

ツماغロキチョウ <i>Eurema laeta betheseba</i> (Janson)	チョウ目シロチョウ科	三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)	環境省：EN
--	------------	---	--------

選定理由： 既知生息地点数は多いが、減少傾向が極めて高い。

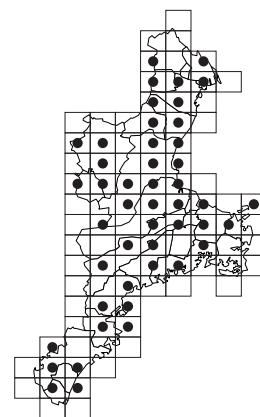
種の概要： 開張 30 mm 程度。黄色に黒い縁取りのあるシロチョウ。近縁のキチョウとは黒い縁取りの形状で区別できる。荒地地的な草原環境に発生。食草はマメ科のカワラケツメイ 1 種。多種のマメ科植物を食べるキタキチョウに比べ普遍的でないのは、食性の狭さによると考えられる。夏から秋に発生、成虫越冬で、翌春にも活動がみられる。

分 布： インド、東南アジア、中国朝鮮半島南部、オーストラリアなど。国内では東北以南の各地。県内ではほぼ全域から記録がある。

現況・減少要因： 1980 年代より徐々に衰退、1990 年代には著しく減少。近年では 2001 年の 1 例しか確認情報はない。全国的な減少傾向の原因は不明。三重県近隣の愛知県、静岡県などでは生息数が多く、宅地造成地に多産することもある。これらの県では大河川の川原や丘陵地湿地などに、コアとなる良好な生息地が温存されていることによると思われる。

保護対策： 河川敷、丘陵地の草地の維持保全。

文 献： 650, 735, 740, 748.



(中西元男)

スジボソヤマキチョウ <i>Gonepteryx aspasia nipponica</i> Bollow	チョウ目シロチョウ科	三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)	環境省：—
---	------------	---	-------

選定理由： 既知の生息地点は 10 以下であり、40 年以上記録されていない。

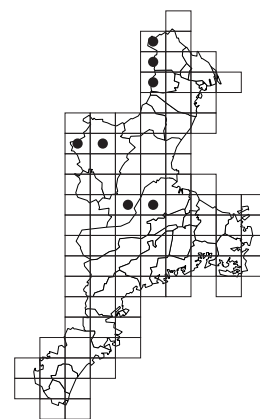
種の概要： 開張 65 mm 内外。年 1 回 6 月中旬から下旬に出現する。夏には休眠し、秋に一時活動したあと冬眠し、翌春産卵する。湿地に群れを作って給水することがある。

分 布： インドから中国大陸、朝鮮半島、台湾に広く分布。国内では本州、四国、九州に分布。県内では、藤原岳・御池岳を中心とする北勢地方、伊賀市、津市美杉町、松阪市堀坂山周辺で記録されている。

現況・減少要因： いずれの生息地においても 40 年以上確認されていない。もともと個体数も少なかったと思われる。食樹のクロウメモドキがあるところでも確認できず、減少要因の主たるものは、長い成虫活動期を支えるための蜜源の豊富な山地環境の消失と考えられる。

保護対策： 既知生息地周辺および類似環境において生息確認調査を行う必要がある。

文 献： 650, 733.

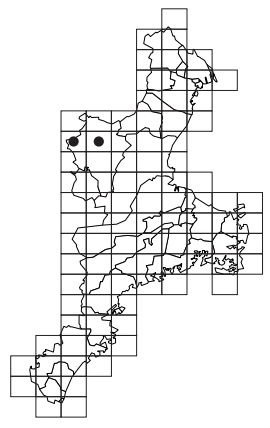


(後藤 勇・中西元男)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

キマダラルリツバメ チョウ目シジミチョウ科 三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 環境省：NT
Spindasis takanonis (Matsumura) 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

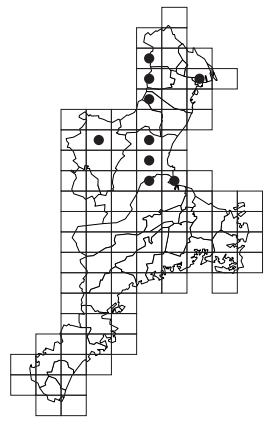
選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、30 年近く生息が確認されていない。
種の概要： 開張 30 mm 内外。幼虫はサクラなどの古木の樹皮下に巣を作るシリアゲアリ類と共生して生活している。アリの巣内でアリから養分をもらって成長し、6 月ごろ羽化する。
分布： 中国大陸北部、朝鮮半島。国内では本州に分布。県内では、60 年前に伊賀市三田で記録され、1980 年代に伊賀市西高倉および一之宮で記録された。
現況・減少要因： 30 年近く生息が確認されていないが、減少要因は明らかでない。
保護対策： 本種はシリアゲアリ類の生息する古木との関係が深いので、古木が多い社寺林を含む里山、山村環境全体を広く保全をすることが大切である。また、生息確認調査の実施も急務である。
文献： 662, 686.



(後藤 勇)

シルビアシジミ チョウ目シジミチョウ科 三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 環境省：EN
Zizinaotis emelina (Fabricius) 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

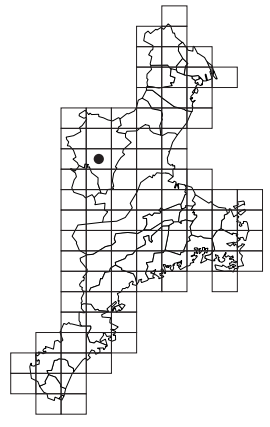
選定理由： 既知の生息地点数は 10 地点前後であり 30 年以上記録がない。
種の概要： 開張 20~25 mm である。河川や池の堤防、田や畑の周辺など背丈の低い草地に生息している。成虫は 5~11 月にかけて出現する。幼虫の食草はミヤコグサ。幼虫で越冬する。
分布： チベットと日本に分布。国内では、栃木県を北限とし広く分布するが、各県とも減少傾向にある。県内では桑名市、いなべ市藤原町、菰野町、亀山市、伊賀市上野、津市安濃町・津・一志町・香良洲町で記録がある。
現況・減少要因： 生息記録の大部分は 1960 年前後であり、1970 年代に津市津で再発見されたが、ここでも 30 年以上記録がない。津市の生息地は環境的には目立った変化はみられないが、孤立化による個体集団の衰弱崩壊が消滅原因と考えられる。
保護対策： 生息可能な環境の精細な継続調査が必要である。
文献： 738, 742.



(後藤 勇)

シンテイトビケラ トビケラ目シンテイトビケラ科 三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR) 環境省：—
Dipseudopsis collaris McLachlan 旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息地点は 1 か所であり、その生息環境の悪化が進んでいる。
種の概要： 成虫の体長は約 14~16 mm、前翅長 15~17 mm、雄は全体に褐色で雌はやや大きく翅の色は薄い褐色。幼虫は体長約 30 mm、頭部は黄色で明瞭な斑紋はなく腹部は白色、中胸、後胸と腹部の第一節の腹側に指状の鰓がある。泥中に y 字型の細長い筒状の巣を作る。
分布： 近年の記録は滋賀県（琵琶湖）と三重県（伊賀市）のみである。
現況・減少要因： 生息地である伊賀市の溜池は、最近になりオオクチバスやコイの捕食圧により個体数が減少しており絶滅の可能性が極めて高い。この生息地周辺に溜池は多く見られるが、自然度が高く、水質が良好で本種の幼虫が好む底質の溜池は見当たらないのが現状である。
保護対策： オオクチバスの駆除を行うなど積極的な保護対策が求められる。
文献： 823, 827.



(森田久幸)

スジトビケラ

トビケラ目エグリトビケラ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Nemotaulius brevilinea (McLachlan)

旧県：—

選定理由： 既知の生息地点数は 10 以下である。1950 年代の記録を最後にその後 50 年以上再発見されていない。

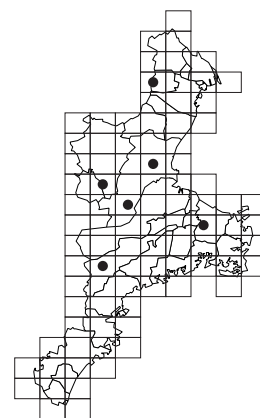
種の概要： 成虫の体長は 15~20 mm, 前翅長 20~25 mm. トビケラの中では大型で特徴的な翅の形と斑紋が見られる。幼虫は不明。

分布： 近年の記録は、北海道、青森、秋田県でのみ確認されている。県内では、菰野町、津市、名張市、多気町、大台町から記録がある。

現況・減少要因： 幼虫は未発見であり生態は不明であるが、おそらく幼虫は湖沼や湿地などの止水水域に生息すると考えられ、その生息地である止水環境の悪化が要因と考えられる。

保護対策： 50 年前、本種は山地から平地まで広く分布しており、県内の山地の止水水域から再発見される可能性が考えられるため、現状把握のための生息調査と止水水域環境の保全、保護が必要である。

文献： 818. 826.



(森田久幸)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

ナシアシブトハバチ

ハチ目コンボウハバチ科

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：—

Palaeocimbex carinulata Konow

旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、県内での記録が 1 か所しか無い。

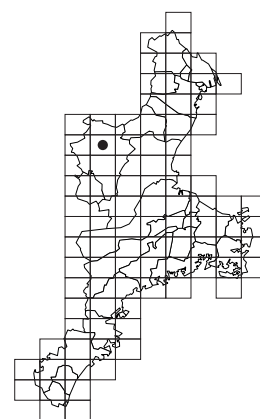
種の概要： 成虫の体長 2 cm ほどの黄色地に黒縞のハチ。年 1 回発生で 4 月に発生。幼虫は、ナシ、サクラ、オウトウなどの葉を食べる。

分布： 本州、九州、朝鮮半島。県内では、伊賀市から記録されている。

現況・減少要因： 1961 年上野市(現伊賀市)で採集されて以降、記録されていない。もともと県内では、生息地に限られ、数も少なく、開発による生息環境の消滅により、減少したと考えられる。

保護対策： 幼虫の餌となるサクラなどが生える環境を保全する。

文献： 850.



(西田悦造)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒヌマイトトンボ

トンボ目イトトンボ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：EN

Mortonagrion Hirosei Asahina

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知生息地点数は 10 以下で、生息域は河口付近や海水の流入する汽水沼沢等、限られた環境下に生息する。

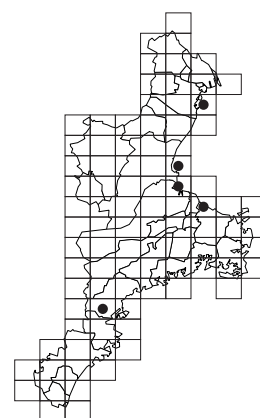
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 22~25 mm, 性によって体色斑紋が著しく異なる。雄は黄緑色の地に黒い条斑があり、頭頂の後縁の 4 個の黄緑色をした眼後紋と翅胸前面に 4 個の黄緑色のスポットがある。雌は全身が明るい橙色で頭頂に五角形の黒斑がある。成熟すると地色が汚褐色になる。成虫は県内では 6 月初旬から 9 月まで見られるが、7~8 月に多い。羽化したばかりの若い個体もほとんど羽化水域を離れず、挺水植物の間で生活していて、シーズン半ばまでは同一場所で未熟個体から老熟個体までが入り混じって見られる。比較的草間の低い部位を好み、追うと茂みの中へ潜り込むように身を隠す。

分布： 国外では香港。国内では、宮城県以南の本州、九州に分布する。県内では、川越町、四日市市、津市、松阪市、伊勢市、紀北町から記録されている。

現況・減少要因： 生息地が汽水域に限られているため、特に海岸近くまで市街地が広がる伊勢湾沿岸中北部の生息地は、都市再開発や道路拡張工事などで多くの生息地が消滅した。わずかに残る生息地でも環境の遷移が進行しつつあり、少し保護の手を緩めるといつ消滅するか予断できない状況が続いている。

保護対策： 現在残っている海岸の汽水性池沼について、できる限り開発を抑制し、現状の環境を保全することが重要である。

文献： 5. 7. 14. 16. 22. 25. 34.



(石田昇三・刀根定良)

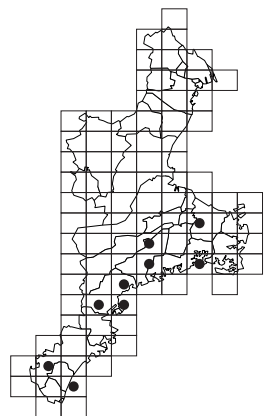
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

コサナエ トンボ目サナエトンボ科
Trigomphus melampus (Selys)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点数は 10 程度。埋め立てや環境悪化により生息地が消滅している。
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 27~32 mm。黒地に黄色の反復模様をもつややスリムな小型サナエ。雄は尾部付属器の背面が滑らかなこと、雌は産卵弁が深く切れ込んで先端が V 字型に開くことが特徴。
分布： 日本固有種で、北海道および本州に分布。北海道と東北地域では普遍的に生息するが、西南日本では特殊な地域に限られる。県内では伊賀盆地と南勢、紀州地域を中心に生息地が点在している。
現況・減少要因： 伊賀地域で地元研究者によって新しい産地がいくつか発見されたが、県内最大の生息地であった南伊勢町の押淵では湿原下流部の埋め立てと河川改修で湿原が消滅して絶滅した。他にも生息地の乾燥化や利用放棄による荒廃が懸念されている。
保護対策： 生息地への環境影響評価をさらに徹底して行い、何らかの変化が生じるおそれがあるときには適切な手立てを講じ、放置による環境悪化を防止する必要がある。
文献： 1. 2. 7. 14. 36. 42. 46.



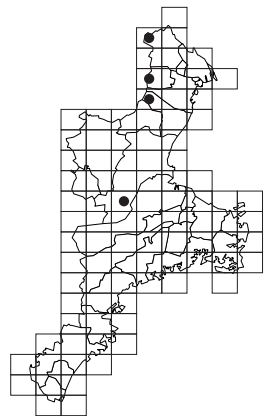
(石田昇三・刀根定良)

ルリボシヤンマ トンボ目ヤンマ科
Aeschana juncea (Linnaeus)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点数は 5 以下で、生息域が著しく限定的である上、個体数も極めて少ない。
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 54~61 mm。複眼の大きい黒褐色の地に黄緑色とルリ色の小紋を散りばめた大型ヤンマ。同属のオオルリボシヤンマに酷似しているが、雄では尾部上付属器の外縁にまるみがあって先端部背面に鋸歯状の小突起がないこと、雌では尾毛がやや幅広で外縁が丸いこと等で識別できる。
分布： 国外では両北区の北より寒冷地に広く分布する。国内では北海道、本州、四国（徳島県）に分布。県内では主に北勢地域の高標高地を中心に生息するが、いなべ市藤原町などでは山麓の池沼や湿原でもしばしば観察されている。しかし生息地は著しく局所的で、個体数も極めて少ない。
現況・減少要因： 生息域の湧水や環境悪化に伴い減少傾向にあり、生息環境がしばしば脅かされる状況が多発する傾向にある。
保護対策： 本種が生息する湿原的要素の多い浅めの池沼の枯渇に注意を払い、保護の観点からも留意する必要がある。
文献： 2. 7. 14. 16. 35. 46. 47.



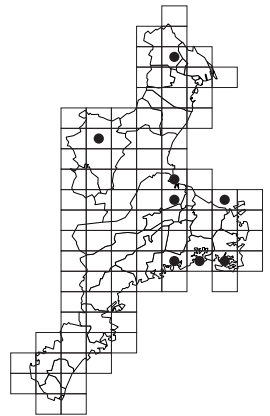
(石田昇三・刀根定良)

アオヤンマ トンボ目ヤンマ科
Aeschnophlebia longistigma Selys

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知生息地点数は 10 以下であり、生息域の埋め立てや環境悪化が顕著に進み、個体数の減少が著しい。
種の概要： 全身がやや青みを帯びた黄緑色に黒い条斑がある特異なヤンマで、腹長雄 49~53 mm、雌 45~51 mm、腹部の第 3 節がまったくくびれず、全体がほぼ円筒形をしたずん胴形の大型種。特異な体色によって一目で識別できる。
分布： 国外では朝鮮半島、中国、ロシアに分布。国内では北海道の一部、本州、九州に分布するが、個体数は減少傾向にある。県内では、桑名市、伊賀市、明和町、鳥羽市、志摩市、南伊勢町などに点在し記録されている。
現況・減少要因： 県内では 1990 年代頃から急速に産地の減少と環境悪化に伴い個体数も激減した。特に桑名市、伊賀市、明和町からは最近の報告はなく絶滅した可能性が高い。他の地域も著しく減少し、比較的多く見られた押淵湿地からは、現在確認できない。
保護対策： 本種の好む湿地または湿原においてアシやマコモが繁茂する状態を維持し、既知生息域の保全が必要である。
文献： 2. 4. 11. 16. 17. 25. 35.



(石田昇三・刀根定良)

キトンボ トンボ目トンボ科
Sympetrum croceolum (Selys)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

選定理由： 県内各地の丘陵地を中心に点在するが、一生息地での個体数が極めて少なく、記録も途切れがちである。

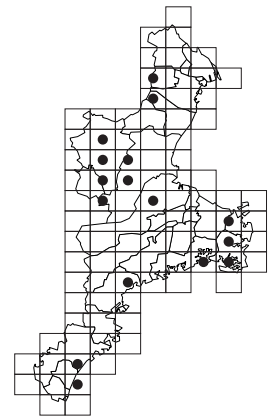
種の概要： 成虫は雌の腹部がやや太く、腹長 22~29 mm. 翅の基半部と翅端までの前縁が鮮やかなオレンジ色をしたやや太身のずんぐりしたアカトンボ (アカネ)。体全体が橙黄色をしていて斑紋がなく、成熟しても背面の赤みが少し増すだけで顕著な色変わりをしないのが特徴である。主に丘陵地や低山地の森林に囲まれた停水植物の繁茂するやや深めの池沼や溜め池などに生息する。

分布： 国外では朝鮮半島、中国東北部から中部に分布。国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内ではかなり広範に見られるが、生息地は局所的である。

現況・減少要因： かつて四日市市や松阪市に多産地したが、近年の都市膨張やそれに伴う環境悪化により各地で生息域の大半が消滅し、個体数が著しく減少した。

保護対策： 本種の好む湿地または湿原においてアシやマコモが繁茂する状態を維持し、既知生息地の保全が必要である。

文献： 2. 4. 10. 29.



(石田昇三・刀根定良)

タイリクアカネ トンボ目トンボ科
Sympetrum striolatum imitoides Bartenef

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点数は 3 以下で、生息地が海岸断崖の大時化の時にのみ海水を被るようなタイトプールという特殊な環境であるが、近年次第に規模が縮小しつつある。

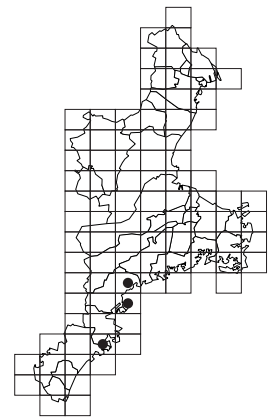
種の概要： 成虫は雄雌ほぼ同大。腹長 26~30 mm. アキアカネに酷似するが、脚の脛節の外側に細い黄色条があること、下唇中片が濃褐色をしていること、翅の基半部に橙黄色斑が広くあることなどで区別できる。

分布： 国外では朝鮮半島、中国東北部からウスリーにいたる極東アジア。国内では北海道、青森、岩手、宮城、福島、石川、富山、三重、和歌山、及び兵庫県以西の本州、四国、九州に分布。県内では熊野市楯ヶ崎と紀北町海跡湖で記録されている。

現況・減少要因： 近年、熊野市の楯ヶ崎ではタイトプールの縮小並びに水位低下により年々減少傾向にある。しかし、紀北町海跡湖ではほぼ毎年確認されるようになったのは朗報である。

保護対策： 本種の未熟個体は水域から離れ広範囲に移動するので、現状で対策は難しい。生息域の環境変化の推移を注意深く留意する必要がある。

文献： 7. 13. 14. 25. 39.



(石田昇三・刀根定良)

ハマスズ バッタ目ヒバリモドキ科
Dianemobius csikii (Bolivar)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点は 5 以下であり、生息地は分断されている。

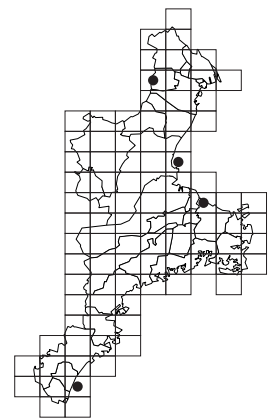
種の概要： 体長約 6~9 mm. 体色は白っぽい褐色、後肢は白黒斑で、砂地に対する保護色。海浜、河原の砂地に生息し、ジー、ジーと鳴き、チョン、チョンと合の手を入れる。年 2 化、成虫は 6~10 月に出現する。

分布： 韓国、ウスリー、中国、モンゴル、インド、スリランカ、ビルマ。国内では、北海道、本州、四国、九州、淡路島、奄美大島に局所的に分布し、県内では菰野町 (朝明川)、津市、松阪市、伊勢市、紀宝町の記録がある。

現況・減少要因： 1959 年の伊勢湾台風以降に生息環境が大きく変化し、再確認できない地点が多い。自然災害、護岸工事などにより生息地が狭められ、個体数が減少している。

保護対策： 自然海岸の消失に伴い、生息範囲が狭められているため、安定した生息地環境の保全が求められる。

文献： 49. 51. 58. 66. 84. 86. 87. 88. 89.



(村井俊郎)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

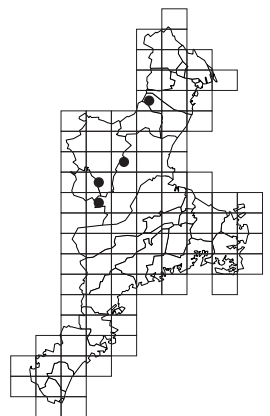
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ダイリフキバツ バッタ目バッタ科
Callopodisma dairisama (Scudder)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は 10 以下。確実な生息地は 3 か所。
種の概要： 体長雄 19.6~22.4 mm, 雌 26.7~30 mm, 鮮黄緑色。黒側条は頭部と前胸背の前縁のみ。後腿節の下面は鮮紅色。前翅は側生し小さく細い。雄の尾肢は強く曲がり、先端は細い。幼虫の形態は特異で *Parapodisma* 属とは異なる。生息地は山間のキャンプ場、スキー場など人工的な明るくやや開けた環境で、灌木が繁った林床、林縁など。卵越冬年 1 化。
分布： 本州（東海、和歌山を除く近畿地方、中国地方東部、東限は長野）。分布域が狭い。県内では伊賀地域とその周辺部。
現況・減少要因： 布引山地では山頂部やキャンプ場などの低木林層を主とした高原状の明るい環境に生息するが少ない。伊賀の低山地も同様の環境が多く、生息地が点在していたが、植林の拡大や里山の荒廃による林床、林縁の植生の遷移、ニホンジカの被害などによる植物群落の消失により個体数は激減し、ほとんどの生息地が消滅している。
保護対策： 津市美杉町大洞、桔梗平キャンプ場などの環境を現状維持する。
文献： 57. 59. 61. 79. 84.



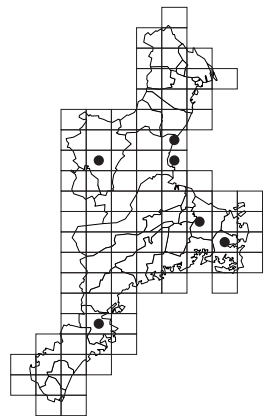
(加納康嗣)

イトアメンボ カメムシ目イトアメンボ科
Hydrometra albolineata (Scott)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 既知生息地が 10 以下であり、かつ生息範囲は極めて局所的である。
種の概要： 体長 11~14 mm で、体色は黒色から暗褐色、褐色とさまざまである。長翅型と短翅型が出現する。小動物を捕食する。低地の休耕田等を好むといわれている。
分布： 本州、四国、九州、対馬、奄美大島に分布するといわれている。県内では鈴鹿市、津市、伊勢市、鳥羽市、伊賀市、尾鷲市での記録がある。
現況・減少要因： 過去には県内全域に広く生息していたと考えられるが、近年の記録はない。かなり前から生息範囲は極めて局所的であったと考えられ、現状既知の産地でも生息は確認できていない。生息に適した環境は、水田土地改良等の人為的影響を受けやすく脆弱であったと考えられる。土地改良に伴う湿性休耕田の減少、用排水の隔絶、湧水の枯渇などが減少要因となったと考えられる。
保護対策： 生息地及びその周辺の土地改良を極力回避し、湧水を確保するために生息地及び後背丘陵地の森林を保全する。
文献： 127. 130. 135. 138. 168.



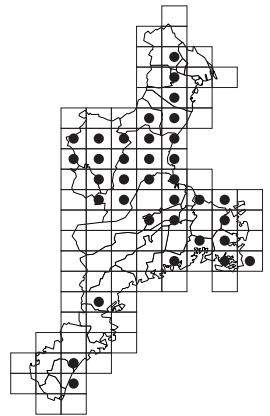
(鈴木 賢)

オオミズスマシ コウチュウ目ミズスマシ科
Dineutus orientalis Modeer

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知の生息点数は 100 地点以下。かつては水田や池、沼で普通に生息していた。しかし、近年は著しく減少している。
種の概要： 体長 10 mm ほど。ミズスマシの仲間は全身黒色だが、本種は側縁に黄色の筋がある。成虫は水面を旋回しながら泳いでいる。
分布： 日本全土。県内では、鈴鹿市、伊賀市、多気町、伊勢市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、御浜町で記録されている。
現況・減少要因： 近年は水環境および周辺の環境悪化により全国的に激減している。侵略的外来種の侵入や海面活性剤（洗剤）、育苗箱施用剤などの流入の影響も大きい。
保護対策： 自然度の豊かな水質および周辺環境へ復元する。生息地には外来種（オオクチバス、ミシシッピアカミミガメ、アメリカザリガニなど）なども入れない。
文献： 204. 260. 272. 308. 441. 443. 451. 483. 488. 540. 542. 557. 569. 572. 575.



(乙部 宏)

ヒメミズスマシ

コウチュウ目ミズスマシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：EN

Gyrinus gestroi Régimbart

選定理由： 既知生息地が 5. 生息基盤が脆弱である。

種の概要： 4.6~5.2 mm. 抽水性植物が多い池沼や緩やかな流れの水路に生息する。

成虫は水面を巡回するが、解放水面にはほとんど出てこない。驚くと水中に潜る。

分布： 本州，四国，九州。県内では伊勢市，志摩市，尾鷲市，御浜町で記録されるほか，紀北町，南伊勢町で確認されている。

現況・減少要因： もともと生息地が局限される種である。1960 年の御浜町の生息地については再確認ができていないが，他の生息地については，現在も生息を確認している。

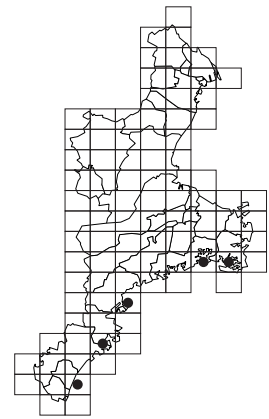
ただし，いくつかの生息地についてはアメリカザリガニの侵入が確認されており，直接的な捕食圧のほかに抽水植物の減少や水質悪化などによる生息地の荒廃が心配される。

保護対策： 生息地である池沼とその周辺の改変を行わないことである。アメリカザリガニの駆除などより積極的な保全策がのぞまれる。

特記事項： 生息が確認されている池沼はいずれも他に希少な水生甲虫が生息している。

同属のミズスマシと混生する産地は見つかっていない。

文献： 195. 204. 308. 552.



(秋田勝己)

ミズスマシ

コウチュウ目ミズスマシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Gyrinus japonicus Sharp

選定理由： かつては普通に見られたものの，近年激減し，現在の生息確認地点は 10 以下。

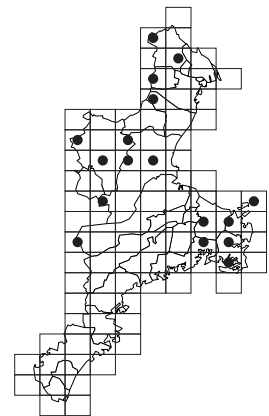
種の概要： 体長 6.0~7.5 mm. 池沼や水田，流れが緩やかな水路に生息する。砂防ダムのたまり水などごく狭い水域で見られることもある。成虫は解放水面を好んで巡回し，驚くと水中に潜る。落下昆虫などを捕食する。

分布： 北海道，本州，四国，九州。県内では，菰野町，鈴鹿市，伊賀市，津市，松阪市，伊勢市，鳥羽市，志摩市，南伊勢町で記録されているが，熊野灘沿岸地域における記録は確認されていない。

現況・減少要因： 記録は少ないが，かつては人家周辺の池沼や水田，水路にごく普通に見られた種である。しかし，激減し，2000 年以降に確認されているのは，鈴鹿市，津市，志摩市，伊賀市の数地点だけである。農業散布や圃場整理などの影響は非常に大きかったものと考えられるが，それだけでは近年の急激な減少は説明できない。近年の減少は，本種の感受性が高い農薬(育苗箱施用殺虫剤など)が使用されるようになったなどの要因があるのかもしれない。

保護対策： 生息地周辺での農薬使用には十分な配慮が必要である。

文献： 215. 272. 443. 451. 539. 540. 543. 563. 569. 570. 573. 575.



(秋田勝己)

シロヘリハンミョウ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Callytron yuasai yuasai Nakane

選定理由： 既知生息点数は 10 地点以下。旧志摩郡和具 (1933 年)，賢島 (1954 年) の 2 例しか記録されていなかったが，1990 年に志摩市浜島町で再発見された。その後，幾つかの地点で確認されている。

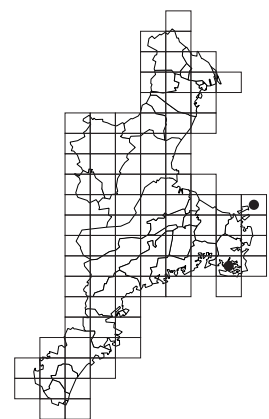
種の概要： 体長 9~12 mm. 海岸部の岩礁地帯に生息し，成虫，幼虫共に肉食で昆虫などを捕食する。盛夏に出現し，成虫は通常歩き廻って捕食活動を行うが，人の動きなどに敏感に反応し，すぐに飛ぶ。幼虫は崖や岩礁の粘土質の表面に穴をあけて潜み，近寄る昆虫などを待ち伏せて捕食する。

分布： 本州 (関東以南の太平洋沿岸部)，四国，九州，沖縄。国外では朝鮮半島，台湾。県内では鳥羽市答志島，神島，志摩市。

現況・減少要因： 県下には岩礁地帯が広く存在するにもかかわらず，現生息地は限られている。このような局所的分布を示す原因は不明である。

保護対策： 現生息地の保全と局所的分布の要因を探索する詳細な調査が必要である。

文献： 213. 265. 506.



(乙部 宏)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ホソハンミョウ コウチュウ目オサムシ科
Cicindela gracilis Faldermann

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、現存する標本の調査では 2 か所の記録しか確認できていない。最も新しい記録は 1996 年の報告である。

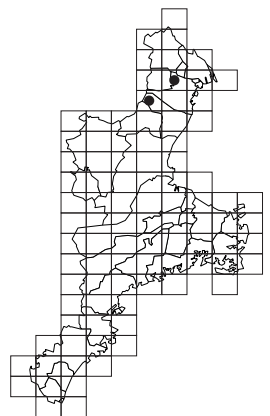
種の概要： 体長 10~12 mm。粘土質の裸地がある草原、疎林、畑の周辺などに生息し、小動物を捕食する肉食昆虫である。県外での観察によれば、クロオオアリに混じって地表を歩き回っていることが多い。また、ハンミョウ類は飛翔することが多いが、本種は歩行するだけで飛ぶことはない。

分布： 国内では北海道、本州、四国、九州、国外ではロシア、モンゴル、中国、朝鮮半島、県内では四日市市、鈴鹿市に分布。

現況・減少要因： 四日市市と鈴鹿市の既知生息地は環境の大きな変化がそれほどないにも関わらず、その後の調査では再発見されていない。全国的にも減少の傾向があり、畑の周辺の生息地での減少は農薬の影響が考えられるが、草原、疎林における減少要因は不明である。

保護対策： 生息地の詳細な調査と減少要因の探索が必要である。

文献： 239, 265, 352.



(乙部 宏)

セアカオサムシ コウチュウ目オサムシ科
Hemicarabus tuberculatus (Dejean et Boisduval)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点数は 10 以下。安定した生息地は知られていない。

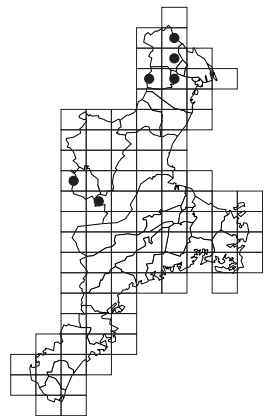
種の概要： 体長 16~22 mm。肉食性。野外での主食などは不明な点も多い。草原、疎林などの開放的な環境を好む。他県では河川敷等での採集例もある。

分布： 全国的に記録はあるが、西南日本では少ない。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、津市美杉町、名張市で記録されている。国外では東アジア地域に分布する。

現況・減少要因： 自然草原の少ない県内での記録は局地的で、山間の牧場、疎林、平地の畑の脇などで採集されている。しかし多産した地点でも長期間にわたって連続的に発生した例は知られていない。本種は洪水などの自然攪乱や人為的な攪乱を受けた環境に適しているようで、そのような不安定な環境を好むことが、本種の発生状況にも影響している可能性がある。2000 年代以降の確実な記録はなく、減少傾向が著しい。

保護対策： 本種の保護には、植物遷移を妨げる人為的の介入も必要となる場合もあり得る。生態的に不明な点が多く、今後の調査研究が望まれる。

文献： 331, 366, 373, 399, 457, 550.



(久保田耕平)

ムロウオサムシ コウチュウ目オサムシ科
Carabus iwawakianus muro Ishikawa et Kubota

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 分布が局限され、域内でも局地的にしかみられない。採集地点は数地点程度と思われる。

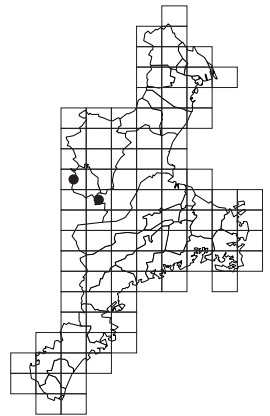
種の概要： 体長 20~24 mm。主食はフトミミズ類と推定され、主として樹林内に生息する。イワキオサムシ *Carabus iwawakianus* (Nakane) の亜種で、他の地域個体群とは交尾器や外部形態に差が認められる。

分布： 日本固有亜種で、名張市南部から津市(旧美杉村)にかけての室生山地の限られた地域に分布する。同じ山域でも生息地は点在している。隣接する奈良県でも本県との境界付近では分布する可能性が高い。他の国内外の地域には分布しない。

現況・減少要因： 近縁各種より自然度の高い森林を好み、森林内で生息密度が高い。攪乱を受けた環境下では近縁のヤコンオサムシに置き換わっているような地点もある。

保護対策： 人為的攪乱によって生息環境の悪化や近縁競争種の侵入を招く可能性が考えられるため、分布域内の環境改変をできるだけ避ける必要がある。

文献： 314.



(久保田耕平)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

タキハラオサムシ コウチュウ目オサムシ科
Carabus maiyasanus takiharensis (Katsura et Tominaga)

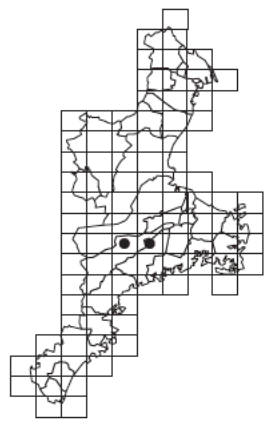
三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 県内特産で分布域が局限される。採集地点は連続的だが、既知生息地点数は 10 以下と考えられる。

種の概要： 体長 21~26 mm。主食はフトミズ類と推定され、樹林内や林縁に生息する。北陸地方を中心に分布するマヤサンオサムシ *Carabus maiyasanus* Bates の亜種で、主たる分布域から著しく隔離されている。交尾器形態はウガタオサムシに比較的似ているが、特化が認められる。小型の亜種で、外見は周囲に分布するシマオサムシ *Carabus iwawakianus shima* Ishikawa & Kubota によく似ており、区別はむずかしい。

分布： 日本（三重県）固有亜種で、大台町、大紀町の限られた地域に分布する。
現況・減少要因： 分布域には樹林帯も多く、本亜種は人工林にも生息できるため、差し迫って絶滅や激滅の恐れはない。しかし 1980~90 年代と比較すると生息環境が破壊された地点も多く、個体密度も減少傾向にある。
保護対策： 分布域内の環境改変をできるだけ避ける必要がある。
文献： 313. 344.



(久保田耕平)

カワラゴミムシ コウチュウ目オサムシ科
Omophron aequalis Morawitz

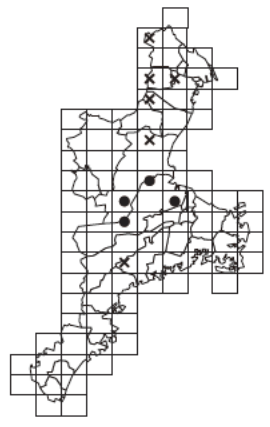
三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点が 10 以下。生息地の環境が悪化しており、近年見られなくなった産地が多い。

種の概要： 体長 5.5~6.5 mm。主に河川中流域の水辺の砂地に生息する。日中は水際の砂中に潜み、夜間活動する。灯火によく飛来する。

分布： 北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国。県内ではいなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、大台町で確認されている。
現況・減少要因： 記録の多くは 1970 年代以前のものである。1970 年代には員弁川や安濃川沿いの灯火に普通に見られたが、最近は全く見られない。近年は、2000 年に雲出川、2010 年に櫛田川で確認されているのみである。直接的な河川改修のほか、生息地上流にダムなどが建設されると、本種の生息に適した砂地が維持されにくくなる。灯火に誘殺される個体も多い。
保護対策： 生息地周辺では河川改修や照明の設置などに配慮するべきである。
文献： 194. 248. 264. 432. 438. 485. 573.



(秋田勝己)

スズカヌレチゴミムシ コウチュウ目オサムシ科
Apatrobus narukawai Morita

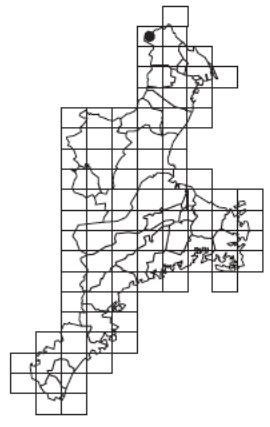
三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下で、生息環境は限定されている。

種の概要： 体長 8.5~10 mm。体は黒色で後翅は退化しており、驚かすと死んだ真似をする。鈴鹿山脈北部石灰岩地帯の、標高約 700 m 以上の普段は水の流れない沢の源流部の石や、落ち葉の下に生息している。

分布： 鈴鹿山脈北部石灰岩地帯の固有種で、県内ではいなべ市藤原町コグルミ谷と坂本谷で確認されている。
現況・減少要因： 藤原岳は以前から石灰岩の採掘が行われており、分布域が狭められている。タイプロカリティーの坂本谷や、藤原岳周辺の谷は 1998 年の土石流により谷の様相が一変してしましたが、隣接地域では大きな環境の変化は見られない。
保護対策： 鈴鹿山脈北部石灰岩地帯の自然環境の保全が急務である。
文献： 389.



(生川展行)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ダイミョウアトキリゴミムシ コウチュウ目オサムシ科

Cymindis daimio Bates

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知の生息点数は 5 地点以下。近年の記録は乏しい。

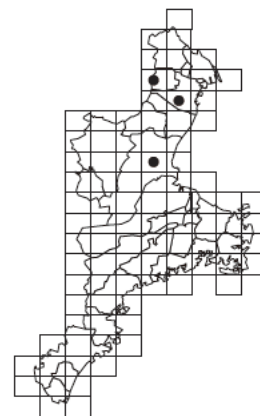
種の概要： 体長 8~9 mm。平地から低山地に生息する。

分布： 北海道、本州、四国、九州など全国的に分布するが近畿地方では少ない。県内ではいなべ市、四日市市、津市で確認されている。

現況・減少要因： 比較的乾燥している草原や粘土質の荒地、耕作地などで発見されている。そのような環境は開発されやすく減少した。

保護対策： 生息地の状況調査を行い生息地の保全が必要である。

文献： 269, 519.



(乙部 宏)

アリスアトキリゴミムシ コウチュウ目オサムシ科

Lachnoderma asperum Bates

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

旧県：—

環境省：DD

選定理由： 既知の生息点数は 5 地点以下。近年の記録は乏しい。

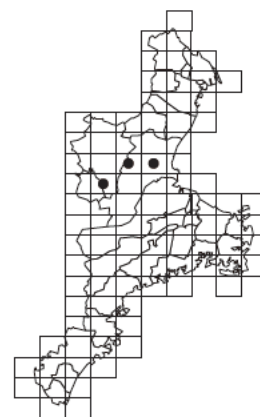
種の概要： 体長 7.5~8 mm。河川敷や高原に生息する。アリ類の巣の中で発見されることが多い。

分布： 本州のみ。生息地は限られている。県内では津市と名張市で記録されている。

現況・減少要因： 河川敷や高原の草地に生息する特定のアリ類の巣中で生息しているのが極めて不安定な状態である。またそのような環境は開発の影響を受けやすい。

保護対策： 高原や河川敷の開発工事は事前に精査して生息地に配慮すべきである。

文献： 440, 519.



(乙部 宏)

キイロコガシラミズムシ コウチュウ目コガシラミズムシ科

Haliphus eximius Clark

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点が 5 以下。生息環境の悪化により、近年の確認例はほとんどない。

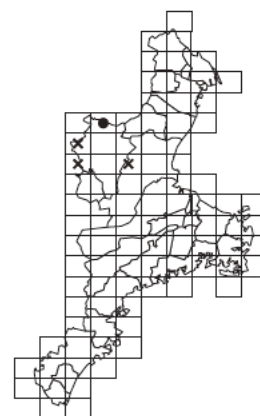
種の概要： 体長 3.2~3.5 mm。水草の豊富な池沼に生息する。

分布： 本州、四国、九州、朝鮮半島、中国。県内では伊賀市上野・阿山、津市白山町（四季の里公園）で記録されている。

現況・減少要因： 伊賀市阿山町湯舟にあった小規模な溜池では 1994 年には非常に多数の個体がみられた。当時はヒツジグサが水面を覆う美しい池であったが、現在は、造成工事の土砂が流入したらしく、水は濁ってヒツジグサもなくなり、本種もみられなくなった。法花の溜池は、水が一度干上がって以来、本種の生息を確認できない。三軒屋の池は埋め立てられた。四季の里公園の池では 1996 年に 1 頭が採集されたのみで、その後は発見されていない。2011 年に伊賀市で再発見されたが、その生息地も既にアメリカザリガニが侵入している。

保護対策： 周辺の樹林を含む池の保全とアメリカザリガニの駆除が強く求められる。

文献： 194, 394.



(秋田勝己)

クロホシコガシラミズムシ コウチュウ目コガシラミズムシ科
Haliplus basinotatus latiusculus Nakane

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点 5 以下。もともと全国的に記録が少ない種であったうえ、生息環境の悪化により、現存する生息地は 1 地点のみである。

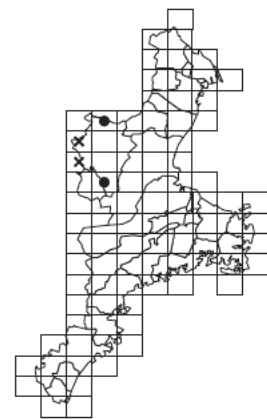
種の概要： 体長 3.2~3.5 mm。水草の豊富な池沼に生息する。

分 布： 本州，九州。県内では伊賀市上野で記録されている。

現況・減少要因： 2005 年までに知られていた生息地は，造成工事による土砂の流入と土地の埋立てにより全て破壊された。2011 年に発見された生息地もアメリカザリガニが侵入している。

保護対策： 周辺の樹林を含む池の保全とアメリカザリガニの駆除が強く求められる。

文 献： 194, 394.



(秋田勝己)

マルガタゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Graphoderus adamsii (Clark)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 生息環境の悪化で，近年著しく減少した。現存する生息地は 10 以下。

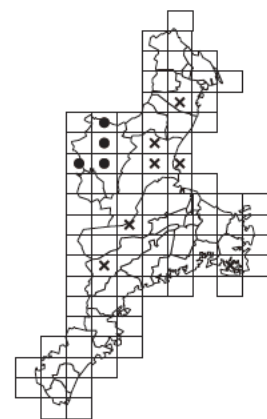
種の概要： 体長 12~14.5 mm。池沼や水田などに生息する。秋に新成虫が出現し，初夏まで生存する。灯火に飛来する。

分 布： 北海道，本州，四国，九州，朝鮮半島，中国。県内では鈴鹿市，津市，伊賀市，名張市，志摩市，大台町で確認されている。

現況・減少要因： かつては県下全域の池沼や水田に普通に生息していたものと思われる。鈴鹿市や志摩市の記録は 1950 年代のものである。伊賀市では，1990 年代前半まで多産した多くの地点では，再発見することができなかった。耕地整理によって水田の乾田化が進んだこと，放棄水田の植物遷移が進み開放水面がなくなってしまったこと，農業散布などにより，多くの生息地が消滅した。生息地周辺に照明が設置されると誘殺される。また，アメリカザリガニが侵入すると，本種を含む多くの水生甲虫が著しく減少することが確認された。

保護対策： 残された生息地では耕地整理を行わないこと。また，放棄水田の除草，アメリカザリガニの除去など積極的な保護対策が求められる。

文 献： 194, 264, 272, 307, 324, 385, 438, 443, 483, 487, 542, 544, 575.



(秋田勝己)

オオマルケシゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Hydrovatus bonvouloiri Sharp

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 現存産地 1。生息環境の悪化により個体数が激減した。

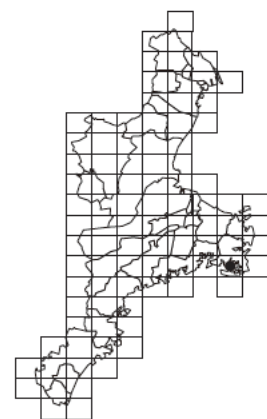
種の概要： 体長 3.0~3.8 mm。池沼の浅瀬の水生植物の多い水域に見られる。

分 布： 本州，四国，九州，南西諸島。国外では東南アジアに広く分布する。国内の産地は極めて局地的で個体数も少ない。三重県では志摩市の海跡湖に唯一の生息地がある。

現況・減少要因： 志摩市の産地では 2005 年までは，比較的個体数が多かった。しかし，その後のアメリカザリガニの侵入，繁殖により，個体数は激減した。アメリカザリガニによる直接の捕食のほか，アメリカザリガニの摂食などによる水生植物の減少も大きく影響しているものと考えられる。

保護対策： アメリカザリガニを駆除することである。2007 年に駆除作業を行ったが，池の規模が大きいこともあって，根絶は不可能であると思われた。生息地である岸辺周辺を目の細かい網で仕切り，その中のアメリカザリガニを除去するなどの積極的な保全策が求められる。

文 献： 199, 195, 308, 451.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マルケシゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Hydrovatus subtilis Sharp

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知生息地点が 5 以下である。生息環境の悪化により激減している。

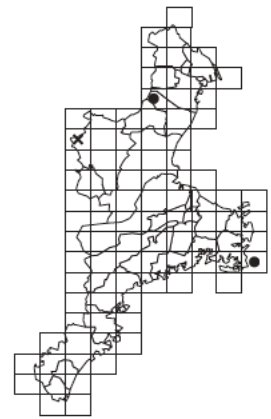
種の概要： 体長 2.4~2.7 mm。池沼の浅瀬や湿地、放棄水田など水草の多い浅い止水域に生息する。

分布： 本州、四国、九州、南西諸島。国外では台湾、タイ、インドなどに分布する。三重県では鈴鹿市、伊賀市、志摩市で記録されている。

現況・減少要因： 伊賀市では 2 か所の生息地が知られていたが、1 か所は池が埋め立てられたことによって生息地が消失した。もう 1 か所は、池の水が一度干上がり、その後の生息確認ができない。志摩市の海跡湖は個体数が非常に多い良好な生息地であったが、アメリカザリガニの侵入に伴い、個体数は激減した。鈴鹿市の記録は 2006 年のものであり、現在も生息しているものと思われるが、確認はしていない。

保護対策： 生息する池およびその周辺環境の適切な管理とアメリカザリガニの駆除が必要である。

文献： 194. 195. 307. 385. 441. 443.



(秋田勝己)

ケシゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Hyphydrus japonicus Sharp

旧県：

選定理由： 山地を除く県下全域にかつては普通に見られたものの、近年はほとんど見られなくなった。

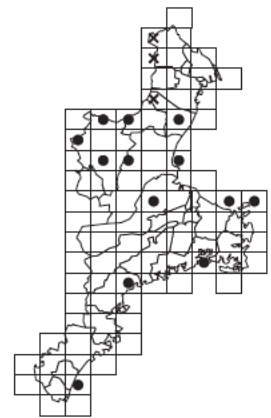
種の概要： 体長 3.8~5.0 mm。池沼、水田など浅い止水域に生息し、周年水域で発見される。灯火に飛来する。

分布： 北海道、本州、四国、九州、南西諸島。国外では朝鮮半島、中国に分布する。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、津市、伊勢市、鳥羽市、紀北町、御浜町で記録がある。

現況・減少要因： 少なくとも 1980 年代までは、県内各地の水田、休耕田、浅い池沼などに普通に見られた種である。近年、急速に減少し、2000 年以降は、鈴鹿市、津市、伊賀市、鳥羽市などでわずかに確認されているのみである。農業散布、耕地整理、アメリカザリガニなど捕食性外来生物の侵入などがその要因として考えられるが、近年の急激な減少はそれ以外の要因、もしくは本種の感受性が高い農業(育苗箱施用殺虫剤など)が使用されるようになったなどの要因があるのかもしれない。

保護対策： 生息地が休耕田の場合は、除草など植物遷移が進行しないような手だてが必要であろう。また、生息地周辺での農業使用には十分な配慮が求められる。

文献： 272. 273. 441. 443. 487. 542. 544. 553. 555. 569. 570. 573. 574.



(秋田勝己)

ヒメケシゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：VU

Hyphydrus laeiventris Sharp

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点が 10 以下。生息環境が悪化している。

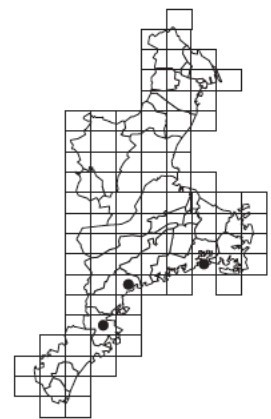
種の概要： 体長 4.3~5.0 mm。池沼、放棄水田、湿地などの止水域に生息する。

分布： 本州、四国、九州。県内では伊賀市上野、南伊勢町南勢、紀北町紀伊長島区、尾鷲市で確認されている。

現況・減少要因： 伊賀地方で唯一生息が確認された伊賀市の池は、埋め立てにより消失した。南伊勢町押淵には多産したが、湿地の消失により絶滅したと思われる。県南部の現在の生息状況は不明である。今後、アメリカザリガニや外来魚の侵入、生活排水の流入、埋め立て、護岸工事などによる生息環境の悪化が心配される。

保護対策： 生息が確認された池沼は、周辺の樹林を含めてそのままの形で保全することが望ましい。外来魚やアメリカザリガニの侵入は大きな脅威となりえるので、侵入した場合は駆除するなどの対応が求められる。

文献： 273. 385. 544.



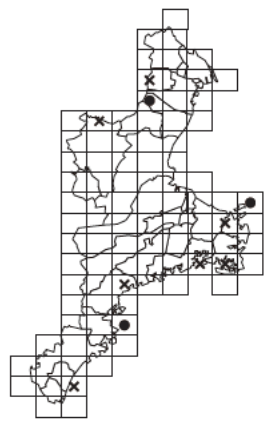
(秋田勝己)

キベリクロヒメゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Ilybius apicalis Sharp

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 近年の減少傾向が著しい。
種の概要： 体長 8.0~10.0 mm. 泥深く、ヨシやガマなどが生えた池沼に生息する。灯火に飛来する。
分布： 北海道、本州、四国、九州、トカラ列島、国外では朝鮮半島、中国に分布。県下では平地から丘陵地にかけて広く分布していたものと思われ、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、伊勢市、南伊勢町、鳥羽市、志摩市、紀北町、尾鷲市、御浜町で記録がある。
現況・減少要因： 2000 年以降の生息情報があるのは、鈴鹿市、志摩市、鳥羽市（答志島）、尾鷲市である。比較的規模の大きな池沼を好むが、その多くは埋め立てられたり、護岸が改修されたりした。また、生活排水などの流入による汚染も進んだ。南伊勢町の生息地は乾燥化がすすんだことによって本種は絶滅した。志摩市の海跡湖や伊賀市の溜池では、アメリカザリガニの侵入後に生息が確認できなくなった。
保護対策： 生息地におけるアメリカザリガニの駆除が望まれる。また、未侵入の生息地には新たに侵入しないような方策が必要であろう。
文献： 195. 204. 252. 268. 273. 282. 441. 443. 553. 555.



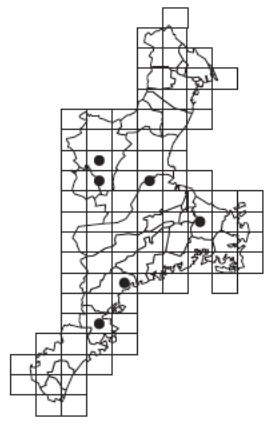
(秋田勝己)

ルイスツブゲンゴロウ (タテナミツブゲンゴロウ) コウチュウ目ゲンゴロウ科
Laccophilus lewisius Sharp

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：VU

選定理由： 既知産地 10 未満。近年の記録は少ない。
種の概要： 体長 3.9~4.7 mm. 低地の池沼、湿地、放棄水田などに生息する。
分布： 本州、四国、九州。国外では中国に分布。県内では鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、名張市、伊賀市、紀北町、尾鷲市で確認されている。
現況・減少要因： 2000 年代以降は、鈴鹿市、松阪市、伊賀市で確認されている。津市では河川堰のよどみに多かったが、近年は見られない。伊賀市では 1 つの溜池にのみ多産するが、この溜池には現在アメリカザリガニが侵入している。河川改修などが進んだこと、開発などにより低地の池沼が少なくなったこと、また、アメリカザリガニの侵入増加も本種の減少に関係があろう。
保護対策： 現在、県内で唯一本種が多産する伊賀市の溜池では、アメリカザリガニの徹底した駆除が望まれる。また、池の改修などにも配慮が求められる。
特記事項： 伊賀市の個体群は、当初、酷似するニセルイスツブゲンゴロウ *L. lewesoides* Brancucci であると考えられた。しかし、その後の検討によって、今のところルイスツブゲンゴロウに含めておくのが妥当であろうという結論に達した。斑紋が特異な個体群である。
文献： 276. 440. 441. 443. 488. 527. 540. 555. 575.



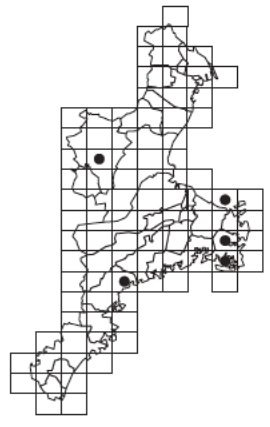
(秋田勝己)

マルチビゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Leiodytes frontalis (Sharp)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知生息地 5 以下。減少傾向にある。
種の概要： 体長 1.5~2.0 mm. 池沼、放棄水田などの浅く、水生植物の豊富な止水域に生息する。
分布： 本州、四国、九州。県内では、伊賀市、鳥羽市（答志島）、志摩市、紀北町で確認されている。
現況・減少要因： 伊賀市の産地は、アカマツ林に囲まれた小規模な浅い池であったが、現在は水がなくなっており、生息が確認できない。紀北町の記録は 1970 年代のもので現況は不明。志摩市の海跡湖では 2005 年までは個体数が多かったが、アメリカザリガニの侵入後には激減した。答志島の放棄水田にはアメリカザリガニが侵入しておらず、今のところ生息している。しかし、周辺の水田は耕作しておらず、そのままでは植物遷移の進行、乾燥化とともに生息地はいずれ消失してしまうものと思われる。
保護対策： 志摩市の生息地では、岸辺周辺を目の細かい網で仕切り、その中のアメリカザリガニを除去するなどの積極的な保全策が求められる。答志島の生息地では、除草などを行うことによって保全は図られるものと思われる。
文献： 195. 451. 488. 555.



(秋田勝己)

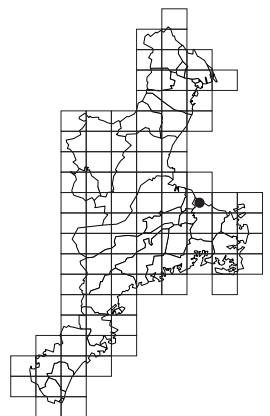
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

クロシオガムシ コウチュウ目ガムシ科
Horelophopsis hansenii Satô et Yoshitomi

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知生息地点が 1. 生息基盤がきわめて脆弱である。
種の概要： 1.6~1.8 mm. 河川下流の感潮域に生息する。干潮時に湿った礫混じりの砂上で活動する。砂が乾燥してくると砂中に潜り、そのまま満潮時を過ごす。夏から秋にかけて成虫が出現し、初夏まで生存する。
分布： 本州 (三重, 兵庫), 四国 (愛媛, 高知), 奄美大島, 沖縄島. 全国的にも既知産地は 10 地点未満である。三重県では伊勢市の宮川河口から記録される。比較的良好的な河口干潟をもつ櫛田川や雲出川からは未発見。三重県は分布の東限にあたる。
現況・減少要因： 宮川河口中洲周辺の干潟に生息する。生息地における個体密度は非常に高いものの、生息が確認できた範囲は、長さにして 30 m ほどと非常に狭い。したがって、生息地周辺におけるちょっとした河川の改修などが直接生息地の消失につながる。
保護対策： 生息地周辺での河川改修を行わないことである。
特記事項： セスジマルドロムシと混生している。
文献： 200. 536.



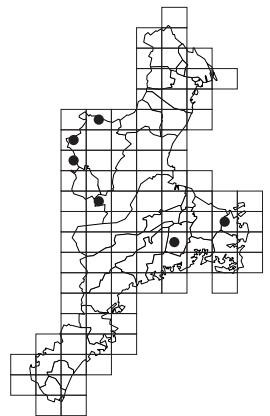
(秋田勝己)

エゾコガムシ コウチュウ目ガムシ科
Hydrochara libera (Sharp)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

選定理由： 既知の生育地点が 5 以下で、個体数も少ない。近年生息環境が悪化している。
種の概要： 体長 16~18 mm. 泥深い湿地や放棄水田などのごく浅い水域に生息する。
分布： 北海道, 本州, 九州. 朝鮮半島, 中国. 北海道では広く分布するが、本州以南の分布は局限され、三重県より西では岡山県, 広島県, 佐賀県で記録があるのみ。県内では伊賀市, 津市, 鳥羽市, 度会町で確認されている。
現況・減少要因： 多くの生息地は植物遷移と乾燥化が進みつつあり、近い将来、本種は生息できなくなるものと思われる。また、アメリカザリガニが侵入した水域では本種を発見することができなかった。アメリカザリガニは本種にとって非常に強力な天敵となっている可能性が高い。
保護対策： 生息地である湿地だけでなく周辺の樹林の保全が必要である。また、放棄水田の除草やアメリカザリガニの駆除などより積極的な保護対策が求められる。
文献： 194. 546. 586.



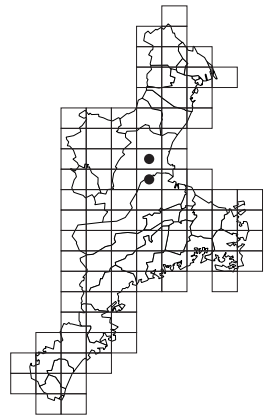
(秋田勝己)

アラメエンマムシ コウチュウ目エンマムシ科
Zabromorphus punctulatus (Wiedemann)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知の生息点数は 5 地点以下。大型のエンマムシ類は全国的にも減少傾向である。
種の概要： 体長 8~9 mm ほど。黒色で前胸と上翅会合部以外は全面に点刻されている。
分布： 本州, 九州. 県内では、津市で記録されている。
現況・減少要因： 河川敷や草地で見られアリ類と関連していると思われる。広い河川敷の草地部は開発を受けやすく生息地を圧迫している。
保護対策： 河川敷の草地の保全が必要である。
文献： 194. 509.



(乙部 宏)

ムツコブスジコガネ コウチュウ目コブスジコガネムシ科*Trox (Trox) mutsuensis* Nomura

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点は 5 以下である。本種は標高が高く、自然度の高い森林環境に生息しており、県内では生息数が非常に少ない。

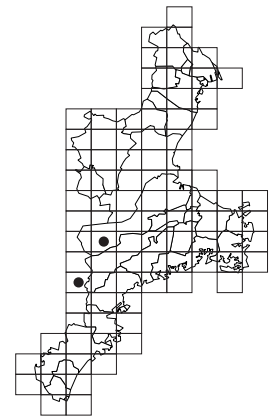
種の概要： 体長 6.8~8.8 mm。動物遺体の最終分解者であり、野生鳥獣の羽、毛、骨などを餌とする。

分布： 北海道、本州、四国。県内では台高山脈の標高 1000 m 以上の自然林に生息する。

現況・減少要因： 台高山脈も、そのほとんどがスギ、ヒノキが植林されており、尾根筋にわずかに残る自然林が生息地となっている。今後も自然環境の保全がこの種の生息の鍵となる。

保護対策： 生息地の保全が必要である。

文献： 289. 521.



(稲垣政志)

コブナシコブスジコガネ コウチュウ目コブスジコガネムシ科*Trox (Trox) nohirai* Nakane

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点 5 以下。極めて生息数の少ないコブスジコガネの仲間である。

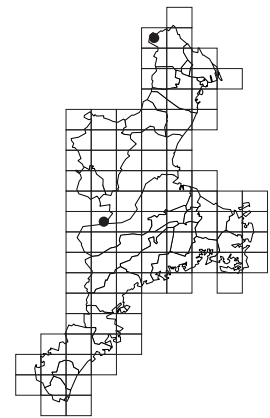
種の概要： 体長 5.5~7.2 mm。近年この種の生態が解明された。それによると、この種はフクロウの巣穴の中のフレークの中にまとまって生息し、フクロウの幼鳥の吐き出すペリットを餌にしていることが解明された。フクロウが生息し、なおかつ営巣できる大木の存在が生息条件となる。

分布： 北海道、本州、四国、九州、対馬。県内では津市美杉町といなべ市藤原町の 2 地点のみで採集されている。

現況・減少要因： フクロウの生息数が減少しており、このために本種の生息も非常に限られる。

保護対策： フクロウが生息し、営巣できるような環境の保全が望まれる。特に洞のある大木が必要である。

文献： 193. 297. 301. 305. 562.



(稲垣政志)

ツヤハダクワガタ (ミヤマツヤハダクワガタ) コウチュウ目クワガタムシ科*Ceruchus lignarius monticola* Nakane

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点数は 5 以下、台高山系の限られた地域に生息し、個体数も少なく、生息環境の変化で絶滅してしまうおそれ大きい。

種の概要： 体長 11~14 mm。ブナ帯で見られる。幼虫は褐色腐食菌に犯されたブナ、ミズナラ、カツラなどの太い倒木や立ち枯れなどの朽ちた部分を食すため、生息環境条件は極めて限定される。

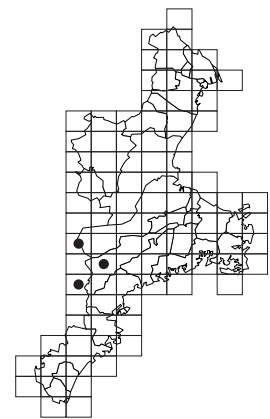
分布： 日本固有種で北海道、本州、四国、九州に分布。県内では、松阪市飯高町、大台町宮川などの台高山系での数例しか報告がない。

現況・減少要因： 本種は標高 1,000 m 以上の自然度の高いブナ林内の多湿な環境でしか生息できないため、自然林伐採によるブナ林の減少とニホンジカの食害などによる林内の乾燥化が減少要因として考えられる。

保護対策： 本種が生息する自然林の保全が急務である。

特記事項： 紀伊半島の個体はミヤマツヤハダクワガタと呼ばれる亜種であり、中部、近畿地方に隔離分布し、遺存個体群として極めて貴重である。四国、九州には別亜種ミナミツヤハダクワガタ ssp. *nodai* が分布する。

文献： 187. 209. 494.



(乙部 宏)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マメクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Figulus punctatus Waterhouse

旧県：—

選定理由： 県内の産地は本州における分布の東限であり、既知産地は 1 地点のみである。

種の概要： 体長 8~12 mm. 本州南岸、四国、九州、南西諸島や周辺離島の、主として海岸近くの照葉樹林に生息する。種としての分布は広いが、いずれの産地も局地的である。国外では台湾に分布する。

分布： 県内では熊野市榑ヶ崎周辺の極めて限られた地域のみで記録されている。周辺地域でも精力的な調査が行われているが、現時点では他の産地は発見されていない。

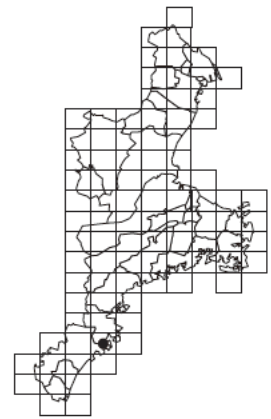
現況・減少要因： 榑ヶ崎周辺では比較的硬い広葉樹の腐朽木（白色・褐色腐朽）に穿孔している。特に樹皮が多く残存し、直径 5~15 cm 程度の接地材を好むようである。

分布域が極めて狭いため、台風等の自然災害を含め、局地的な環境の変化でも深刻なダメージを受けることが懸念される。

保護対策： 分布域周辺の環境変化をできるだけ避ける必要がある。

特記事項： 生息範囲は全域、吉野熊野国立公園に含まれる。

文献： 353.



(久保田耕平)

ヌバタママグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Aphodius (Agrilinus) brevisculus (Motschulsky)

旧県：—

選定理由： 既知の生息地点は 5 以下である。これまでに県内で 1 か所で 1 頭が採集されただけである。

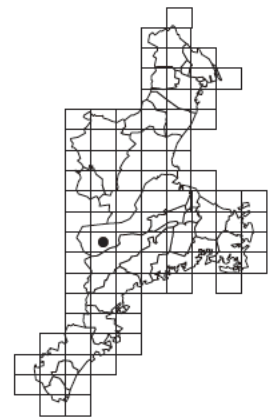
種の概要： 体長 4~6 mm. 山地から平地にかけての林内からオープンランドにかけて幅広く生息する。新鮮な牛・鹿・サルなどの糞に集まる。春季に個体数を増す。

分布： 北海道、本州、四国、九州、対馬。県内では松阪市飯高町の 1 か所のみで採集されている。

現況・減少要因： 隣県である奈良県奈良公園や岐阜県などでは、春季に多くの個体が観察できるが、当県での生息密度は極めて少ない。

保護対策： 生息地の保全と自然林の保護が必要である。

文献： 294.



(稲垣政志)

オオフトホシマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Aphodius (Aphodius) elegans elegans Allibert

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点は 10 以下である。かつては各地で記録されていたが、現時点では激減し、ほとんど生息が確認できない。

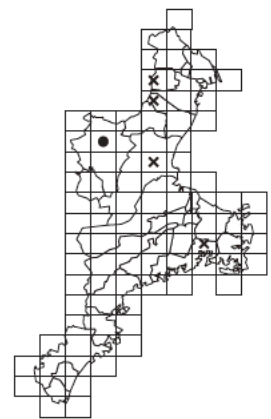
種の概要： 体長 11~13.5 mm. 平地から低地の放牧地に生息することが多い。新鮮な牛・馬などの糞に集まる。放牧地以外で確認できることは稀である。春・秋に個体数を増す。

分布： 北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬、奄岐、沖縄に分布。国外では済州島、朝鮮半島、中国、インドシナ半島。県内ではいなべ市、四日市市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市、伊賀市、志摩市。

現況・減少要因： 平地の放牧地の減少、また牛に投与される駆虫剤により、糞に薬剤が残留し、この糞を食べる幼虫や成虫に害を及ぼす。

保護対策： 生息地の保全と平地の放牧地の維持、ならびに駆虫剤を使用しないことである。

文献： 245. 330. 573. 584.



(稲垣政志)

コツヤマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Aphodius (Paulianellus) maderi Balthasar

旧県：—

選定理由： 既知の生息地点は 5 以下である。全国的にも非常に生息は局所的である。

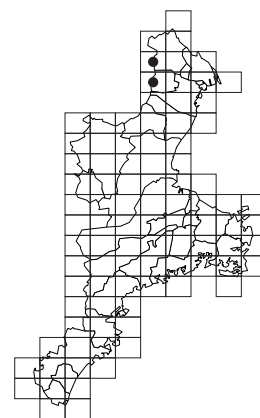
種の概要： 体長 4.6~6.0 mm。林内の新鮮な鹿糞から見つかることが多く、平地から山地にかけて生息する。春と秋に個体数を増す。

分布： 本州、九州、屋久島。本州では奈良公園と三重県のみ。九州でも大分県と宮崎県、屋久島というように分布は非常に限られた種である。県内ではいなべ市大安町で初記録の後、いなべ市藤原町と三重郡菰野町で採集されている。

現況・減少要因： 本来は局所的な生息を示す種であるが、近年の鹿の生息域の拡大に伴って、一時的に生息範囲が広がっている。

保護対策： 現在の生息域拡大は一時的な現象と思われるので、適正な鹿の生息数の調整と自然林の保護が必要である。

文献： 293, 303.



(稲垣政志)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キマダラマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Aphodius (Chilothorax) punctatus Waterhouse

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息点数は 5 地点以下。国内での分布の北東限にあたる。

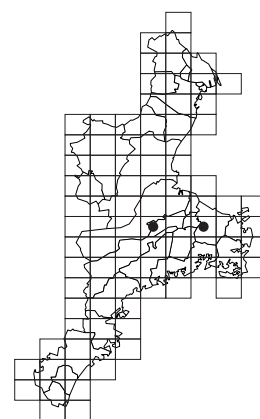
種の概要： 体長 4~6 mm ほど。冬季に出現する。黒色で上翅は黄褐色で黒紋を持つがセマダラマグソコガネと似る。

分布： 本州(紀伊半島)、四国、九州。県内では、大台町と伊勢市で記録されている。

現況・減少要因： スダジイやツブラジイがある自然純度の高い照葉樹林帯のイノシシの糞を食している。イノシシは増えているが本種の生息できる地点は極めて限られている。

保護対策： 生息地での照葉樹林の保全を行う。イノシシの冬季の餌となるスダジイやツブラジイのドングリが沢山実る豊かな森を維持する。

文献： 383, 512.



(乙部 宏)

アイヌケシマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Petrovitzius ainu (Lewis)

旧県：—

選定理由： 既知の生息地は 5 以下である。1 か所で 1 頭が採集されただけである。

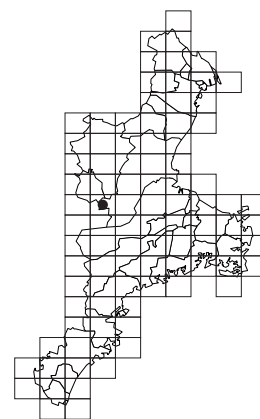
種の概要： 体長 2.0~3.1 mm。内陸部から海岸までの河川敷や海岸砂丘、畑地に生息し、イネ科などの植物の根際や堆積した落ち葉下などで見られる。

分布： 北海道、本州、四国。県内では津市美杉町の 1 か所のみ。

現況・減少要因： 県内での生息密度は非常に少ないために詳しい状況は不明である。山地の溪流脇のピットホールトラップで 1 頭が採集されたのみである。河川敷の粒子の細かい砂地に生息するため、このような砂地の減少が本種の生息を困難にしている。

保護対策： 生息地の保全。自然溪流、護岸のない河川敷などの環境保全。

文献： 304.



(稲垣政志)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イチハシホソカタムシ

コウチュウ目ムキヒゲホソカタムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Antibothrus ichihashii Narukawa

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 全国的に記録は非常に少なく、三重県でも既知の生息地は 1 か所であり、個体数も少ない。

種の概要： 体長 2.2~2.5 mm. 黄褐色から褐色で、シイ、カシなどの照葉樹林に生息している。

分布： 本州 (三重県, 奈良県), 九州 (長崎県), 石垣島, 西表島. 県内では、大紀町錦で記録されているだけである。

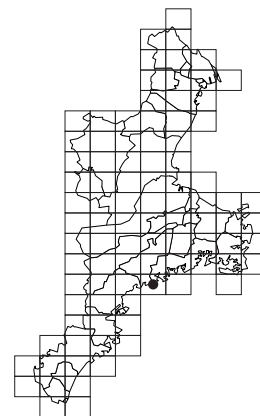
現況・減少要因： 錦の照葉樹林は、特に大きな変化はみられない。

保護対策： 錦の生息地を保全していく必要がある。

特記事項： 三重県度会郡大紀町錦で得られた標本に基づき、2002 年に新種記載された。

錦の生息地は、三重県自然環境保全条例により錦自然環境保全地域に指定されている。

文献： 423, 436, 437.



(生川展行)

イセテントウ

コウチュウ目テントウムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Chujochilus isensis (Kamiya)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 全国的に生息地が限定されており、三重県での既知の生息地も 1 か所だけで、個体数も少ない。

種の概要： 体長 3.6~4.0 mm. 体全体は黄褐色で、頭頂部と後胸背板は黒褐色. 半球形で背面は強く盛り上がる. イチイガシの樹冠部に生息している。

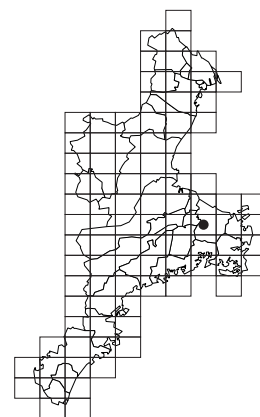
分布： 本州 (三重県, 奈良県, 和歌山県), 九州 (熊本県). 県内では伊勢市外宮で記録されているだけである。

現況・減少要因： 三重県の生息地は、神宮林として保全されているため、生息環境に変化はないと思われる。

保護対策： 生息地は神宮林として保全されている。

特記事項： 三重県伊勢市倉田山で採集された雌 1 個体に基づいて、1966 年に新種として記載された。

文献： 317.



(生川展行)

アバツツヤナガヒラタホソカタムシ

コウチュウ目コブゴミムシダマシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Pycnomerus sculpturatus Sharp

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 全国的に記録は少なく、県内の既知の生息地点数は 5 以下である。

種の概要： 体長 2.9~4.3 mm. 体は光沢のない黒褐色で、マツやシイの倒木や立枯木の樹皮下に生息している。

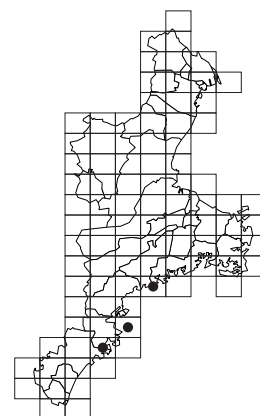
分布： 本州 (青森県, 神奈川県, 福井県, 三重県, 島根県, 山口県), 四国 (香川県), 九州 (大分県, 熊本県), 三宅島, 御蔵島, 対馬. 県内では大紀町錦向井, 尾鷲市桃頭島, 九木崎, 熊野市二木島で記録されている。

現況・減少要因： 大紀町錦向井では、1999 年に熊野灘沿岸の照葉樹の自然林内に点在するマツの倒木より多数の個体が記録されたが、その後マツの倒木が古くなるとともに、個体数も激減した。

保護対策： 熊野灘沿岸の照葉樹の自然林とマツの保全が必要である。

特記事項： 近似種のツヤナガヒラタホソカタムシとは、背面に光沢がなく、前胸背の側縁が前方に向かって幅広くなる点などで区別できる。

文献： 270, 417, 419, 431, 436, 441.



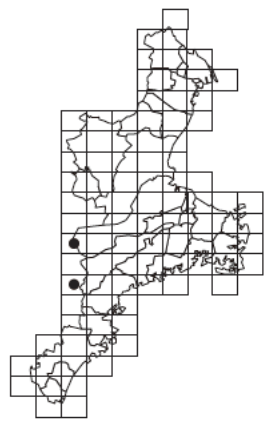
(生川展行)

オオダイヨコミソコブゴミムシダマシ コウチュウ目コブゴミムシダマシ科
Usechus ohdaiensis Sasaji

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 紀伊半島特産種で、台高山脈や大峰山脈の約 1,000 m 以上のブナ原生林で記録されているだけである。県内の既知の生息地点数は 5 以下である。
種の概要： 体長 2.2~2.5 mm。後翅は退化しており飛ぶことができない。前胸背側縁部には触角を収める溝がある。ブナの原生林内の枯木や倒木、朽木に生息している。
分布： 本州（紀伊半島）に分布。県内では松阪市飯高町明神岳、大台町大台ヶ原で記録されているだけである。
現況・減少要因： 台高山脈の中でも、特に広範囲に残されたブナの原生林にのみ生息している。
保護対策： 台高山脈のブナの原生林の保護が急務である。
文献： 422, 448.



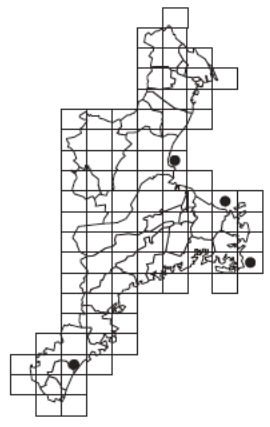
(生川展行)

クロズハマベゴミムシダマシ コウチュウ目ゴミムシダマシ科
Epiphalaria atriceps Lewis

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点が 5 以下。生息環境が悪化し、近年の減少が著しい。
種の概要： 体長 4.5~5 mm。海浜の砂浜に生息する。漂着物の下などから見出される。乾燥した魚の死骸などを食する。
分布： 本州、四国、九州。県内では津市、伊勢市二見町、志摩市、熊野市の海岸で確認されている。
現況・減少要因： 護岸工事や侵食による砂浜の狭小化が進行しており危機的な状況にある生息地が多い。また、生息地への車両の乗り入れ、漂着物の除去は、本種の生息にとって脅威となっている。
保護対策： 生息地に車両の乗り入れができないように手立てを講じることが急務である。残された生息地では新たな開発行為を行わない。堤防のかさ上げなども砂浜環境の変化を招くことから、本種の生息にとって脅威となりえる。また、漂着物の下に生息するため、これらの除去にも配慮が必要である。
文献： 194, 263, 414, 441, 451, 455, 480, 865.



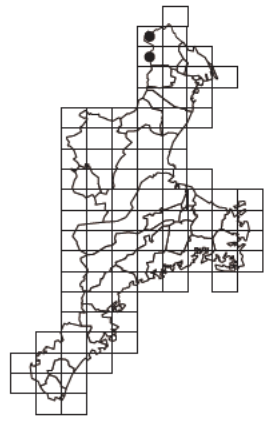
(秋田勝己)

ヒサゴゴミムシダマシ コウチュウ目ゴミムシダマシ科
Misolampidius rugipennis Lewis

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

選定理由： 県内の既知の生息地点数は 2 地点であり、生息環境が限定され、生息密度も低い。
種の概要： 体長 11~16 mm。後翅が退化しており、飛ぶことはできない。倒木や立枯木の樹皮下に生息している。
分布： 本州、四国、九州、佐渡に分布。県内ではいなべ市藤原町白船峠、藤原岳で記録されている。県内では遺存的に鈴鹿山脈北部の標高 1,000 m 前後の広葉樹林に分布しているだけである。
現況・減少要因： 1961 年以降は記録がないが、御池岳から藤原岳一帯の標高 1,000 m 以上の既生息地では大きな環境の変化はないため、個体数は少ないものの現在も生息しているものと思われる。
保護対策： 御池岳から藤原岳一帯の保全が必要である。
文献： 194, 405.



(生川展行)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キイカズクビナガムシ

コウチュウ目クビナガムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Nematoplus yamato Nakane

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 本州では紀伊半島山岳地帯にのみ分布しており、三重県での生息地は大台ヶ原周辺に限定されており、自然環境の改変による個体数の減少が危惧される。

種の概要： 体長 10~12 mm. 前胸は橙黄色で、上翅は暗褐色から黒色。

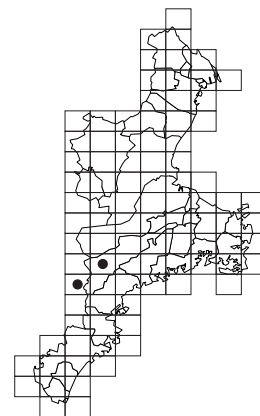
分布： 本州 (三重県, 奈良県), 四国 (高知), 九州 (熊本). 県内では大台町父ヶ谷, 三津河落山, 大台ヶ原で記録されている。

現況・減少要因： 台高山脈のブナの自然林の減少に伴い、生息範囲が狭められている。

保護対策： 台高山脈のブナ林の保全が必要である。

特記事項： 大台ヶ原周辺は、吉野熊野国立公園に指定されている。

文献： 194, 283.



(生川展行)

マルクビツチハンミョウ

コウチュウ目ツチハンミョウ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Meloe corvinus Marseul

旧県：—

選定理由： 既知の生息点数は 10 地点以下。かつては里山の手入れされた草地や河川堤防の法面などで見られたが、近年の記録は乏しく、全国的にも同様の傾向である。

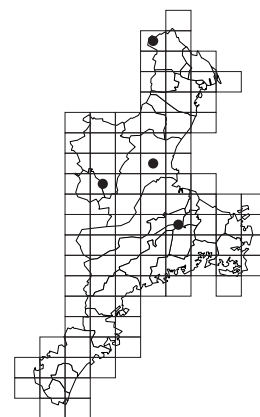
種の概要： 体長 7~27 mm. 幼虫はハナバチ類に寄生し、成虫は早春から出現する。体内には有毒であるカンタリジンを含む。

分布： 北海道, 本州, 四国, 九州, 伊豆大島, 対馬. 県内では、いなべ市, 伊賀市, 津市, 多気町などで確認されている。

現況・減少要因： 1970 年代から強力な農薬を使用することによりヒゲナガハナバチ類が減少したことや法面など草本植生が外来植物種に遷移したことが考えられる。

保護対策： 生息地である堤防の法面や土手などの外来植物の除去とヒゲナガハナバチ類と現状使用されている農薬との影響を究明すべきである。

文献： 272, 573.



(乙部 宏)

タナカホソアリモドキ

コウチュウ目アリモドキ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Stricticollis tobias (Marseul)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 全国的に記録は少なく、三重県での既知の記録は 1 か所だけであり、自然環境の改変による影響が危惧される。

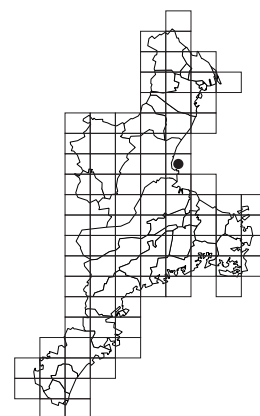
種の概要： 体長 2.7~3.2mm. 体はオレンジ色で、上翅後半は黒褐色、翅端部にオレンジ色の紋が 2 個ある。灯火に飛来することもある。

分布： 本州, 四国, 九州, 世界各地. 三重県では津市白塚海岸で記録されているだけである。

現況・減少要因： 津市白塚海岸では、特に大きな環境の変化はみられない。

保護対策： 少なくとも、生息地である白塚海岸の保全が急務である。

文献： 424.



(生川展行)

ヨコヤマヒゲナガカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Dolichoprosopus yokoyamai (Gressitt)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

選定理由： 既知の生息地点が 10 以下。もともと個体密度の低い種である。食樹が限定され生息基盤が脆弱なうえ、生息環境が悪化している。

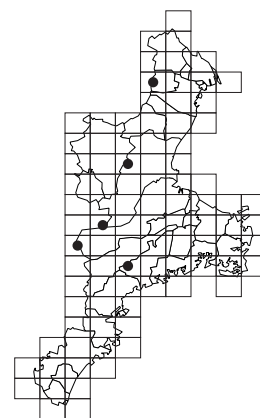
種の概要： 体長 25~35 mm. 落葉広葉樹林に生息する。成虫は 7~9 月に出現。夜間にブナ、イヌブナの 1 年枝の樹皮を後食する。幼虫はこれらの生きた幹部に食入する。しばしば灯火に飛来する。

分布： 本州、四国、九州。県内では鈴鹿山脈（菰野町）、布引山脈（伊賀市）、紀伊山地（津市、松阪市、大紀町）で確認されている。

現況・減少要因： 生活史の全てをブナ（一部イヌブナ）に依存しているため、森林の伐採は直接生息地の消失につながる。鈴鹿山脈や布引山脈ではブナは山頂部にわずかに残存するのみである。しかも、最近の温暖化の影響からか種子が殆ど実らず、稚樹も育っていない。青山高原の生息地は、風力発電施設やそれにとりもなう作業用道路の建設により、大きなダメージを受けた。紀伊山地でもニホンジカによる食害によってブナの稚樹がほとんど見られない状況である。

保護対策： ニホンジカの個体数管理をふくめた落葉広葉樹林の保全が求められる。

文献： 194, 258, 329, 361, 498, 514.



(秋田勝己)

サツマヒメコバネカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Epania dilaticornis dilaticornis (Hayashi)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知の生息地は 1 か所。食樹が限定され、生息基盤が脆弱である。

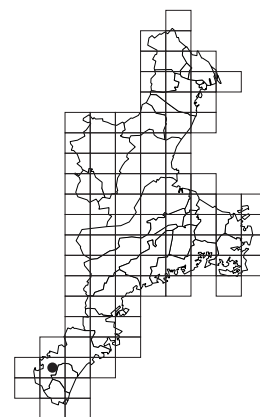
種の概要： 体長 5.5~9.5 mm. 成虫は 6 月に出現し、クマノミズキに訪花した個体が採集されている。幼虫は、トキワガキの枯れ枝に食入する。

分布： 本州、九州南部。琉球に別亜種が産する。県内では熊野市の 1 か所で記録されるのみで、現在のところ、ここが本州唯一の生息地である。九州でも鹿児島県大隅半島で生息が確認されているのみである。

現況・減少要因： 原生林に近い常緑広葉樹林に生息する。川に面した急斜面にはえたトキワガキの枯れ枝に幼虫が確認された。しかし、過去の森林伐採によって、そのような常緑広葉樹林はほとんど残されていないのが現状である。したがって生息地は非常に狭く、トキワガキの個体数も多いものではない。樹林の伐採は、直接本種生息地の消失に結びつく。

保護対策： 生息地およびその周辺の樹林を伐採しないことである。

文献： 194, 202, 361, 474.



(秋田勝己)

クロサワヒメコバネカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Epania septentrionalis Hayashi

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地点が 1。生息基盤が脆弱で、近年の記録がない。

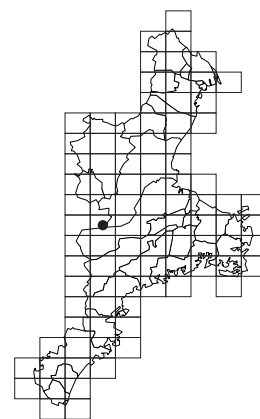
種の概要： 体長 8~11 mm. 成虫は 6~7 月に出現する。幼虫はクマノミズキの衰弱木、新しい立ち枯れの樹皮および樹皮下辺材部を食べる。

分布： 本州、四国、九州。三重県では津市美杉平倉（三重大学演習林）で 1960 年に 1 例記録されるのみである。

現況・減少要因： 天然林の伐採を盛んに行っていた時代に、切り出された薪材に飛来した個体が記録されるのみである。生息地では 1960 年代から 1990 年代にかけて、精神的な昆虫の調査が行われてきたが、再発見されていない。三重大学演習林には狭いながらも原生林が保存されているが、クマノミズキの本数は数えられるほどである。まだ生息しているとしても、その生息基盤は非常に脆弱なものであると言わざるを得ない。本種が生息しえる自然度の高い樹林は過去の伐採によってほとんど残されていない。

保護対策： 生息地でのクマノミズキの伐採を行わないことである。

文献： 329, 403.



(秋田勝己)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Konoa granulata (Bates)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地が 1. 近年の生息情報がない。

種の概要： 体長 15~23 mm. 自然度の高い森林に生息する。6~8 月に出現し、ノリウツギやリョウブに訪花する。また、ブナやモミの大木の立ち枯れに飛来する。

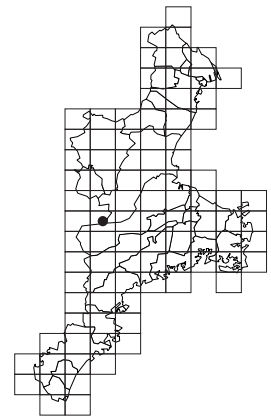
分布： 北海道, 本州. 県下では、津市美杉平倉(三重大学演習林)における 1955 年の採集例が唯一のものである。

現況・減少要因： 1950 年代から 1960 年代にかけて三重大学演習林では天然林の伐採を盛んに行っていた。その時代に採集された 1 例が知られるのみである。生息地は 1960 年代から 1990 年代にかけて、非常に精力的な昆虫の調査が行われてきたが、再発見されていない。三重大学演習林には狭いながらも原生林が保存されており、本種が好むモミやブナの大木は多いことから、本種もまだ生息している可能性が高い。

保護対策： 生息地の森林伐採をしないことである。

特記事項： 1 属 1 種の日本固有種である。

文献： 474, 489.



(秋田勝己)

フタスジゴマフカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Mesosa cribrata Bates

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 確認されている生息地は 1 か所のみである。食樹が限定され、生息基盤が脆弱である。個体数も非常に少ない。

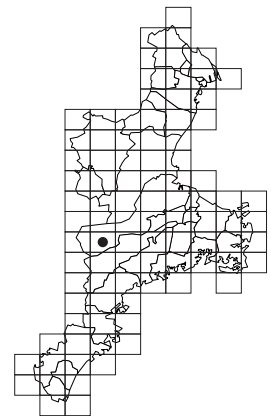
種の概要： 体長 7~9.5 mm. 成虫は 5~8 月に出現し、オニグルミの枯れ枝に集まる。幼虫もオニグルミの細い枯れ枝に食入する。

分布： 北海道, 本州, 四国. 紀伊半島では奈良県の 2 か所と三重県のみ。県内では松阪市飯高町から記録されるのみである。

現況・減少要因： 山地渓谷の明るい斜面に形成されるオニグルミ林に生息する。しかし、このような環境は県内にはほとんど存在しない。したがって、生息地のオニグルミ林の伐採は直接本種の絶滅に結びつく。

保護対策： 生息地およびその周辺の樹林を伐採しないことである。

文献： 191, 361, 474.



(秋田勝己)

カスリチビカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Mimectatina variegata Kusama et Takakuwa

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地が 1. 生息基盤が脆弱である。

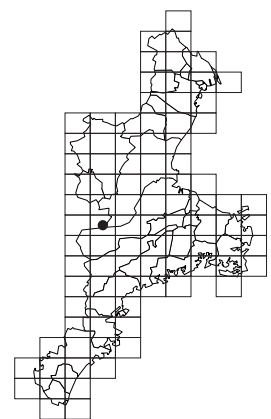
種の概要： 体長 5.2~8.1 mm. 新成虫は 9 月に出現し、成虫で越冬し、初夏まで生き残る。モミの新しく細い枯れ枝に集まり、樹皮を後食する。幼虫はモミの枯れ枝の樹皮を食べる。

分布： 本州 (紀伊山地), 四国. 三重県では津市美杉平倉 (三重大学演習林) で記録されるのみである。

現況・減少要因： 本種は自然度の高い樹林のモミに依存する種である。モミを含む自然林の多くは、過去の森林伐採によってすでに消失している。県下唯一の既知産地である三重大学演習林は、狭いながらも自然林がよく保存され、モミの本数も多いことから、安定した生息地であると考えられる。しかし、近年は演習林への立ち入りが厳しく制限されていることから、現状は不明である。

保護対策： 生息地である自然林の伐採をしないことである。

文献： 212, 361, 438, 474.



(秋田勝己)

エゾトラカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Oligoenoplus rosti rosti (Pic)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点が 5 以下。生息環境が悪化している。

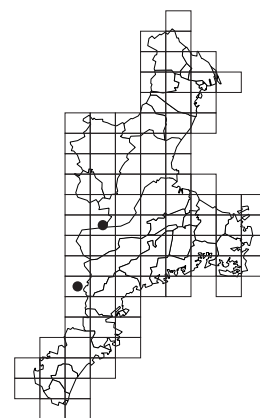
種の概要： 体長 6~9 mm。成虫は 5~6 月に出現する。幼虫はサワグルミ、センノキなどの樹幹生木コルク層に食入する。

分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では紀伊山地（津市、大台町）で確認されている。

現況・減少要因： 三重県の本種はほぼサワグルミに依存している。幼虫は、樹皮にコルク層が発達する大木でないとは成長することができないため、本種はサワグルミ大木の多い良好な落葉広葉樹林にのみ生息する。しかし、そのような森林は過去の伐採によりわずかしか残されていないのが現状である。

保護対策： 生息地である落葉広葉樹林の伐採をしないことである。

文献： 342, 361, 474.



(秋田勝己)

ヒゲブトハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Pachypidonia bodemeyeri (Pic)

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点 1。もともと個体密度の低い種である。生息基盤が脆弱なうえ、生息環境が悪化している。

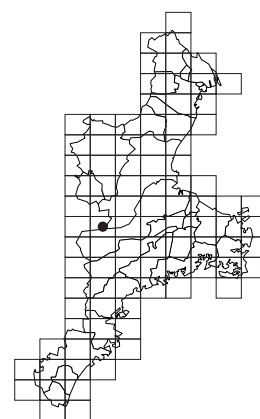
種の概要： 体長 13~15 mm。落葉広葉樹林に生息する。成虫は 7~8 月に出現。トチノキ、イタヤカエデ、ヒメシャラなどの大木にできた樹洞内部で生活し、ほとんど洞外に出ない。幼虫は樹洞内壁の腐朽部に食入する。

分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では紀伊山地（津市）で確認されている。

現況・減少要因： 本種の発生が認められる樹洞をもつ木の密度はきわめて低い。したがって本種の生息には、まとまった面積を持つ大木が多い落葉広葉樹林が必要不可欠である。しかし、過去の森林伐採によってそのような森林はほとんど残されていないのが現状である。

保護対策： 生息地の森林を伐採しないことである。

文献： 194, 361, 474.



(秋田勝己)

キイロアラゲカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Penthides rufoflavus (Hayashi)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地が 1。生息基盤が脆弱である。

種の概要： 体長 5~9 mm。成虫は 6~7 月に出現し、カラスザンショウの葉を後食する。幼虫は同植物の枯れ枝に穿孔する。

分布： 本州（静岡県以西）、伊豆諸島、四国、九州、対馬、トカラ列島、奄美大島。本州の既知産地は数か所にすぎない。三重県では津市美杉平倉（三重大学演習林）で記録されるのみである。

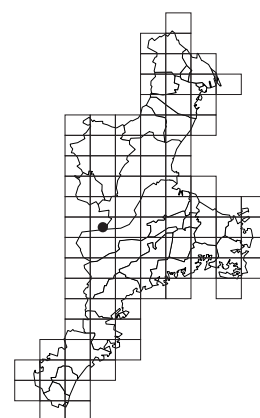
現況・減少要因： 食樹であるカラスザンショウは伐採跡地や崩落地などに普通に見られる植物であるが、本種は自然度の高い樹林林縁部の大木に限って発見される。三重大学演習林において、本種が発生しえるカラスザンショウは数本にすぎない。しかし、近年は演習林への立ち入りが厳しく制限されていることから、現状は不明である。

保護対策： 生息地である自然林の伐採をしないことである。

特記事項： 三重大学演習林が本種のタイプロカリティーである。当初、「平倉」に因み、

Hirakura rufoflavus Hayashi として、新属新種で記載された。

文献： 329, 335, 489.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イガブチヒゲハナカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Stictoleptura igai (Tamanuki)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は 1 であるが、生息状況が十分に把握されているとはいえない。

種の概要： 体長 18~25 mm. 成虫は 7~8 月に出現し、ノリウツギやリョウブなどを訪花する。幼虫は、トウヒ、サワラから知られている。

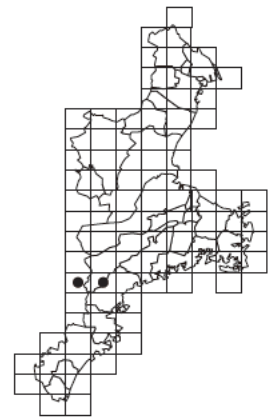
分布： 日本固有種で本州、四国、九州の山地に局地的に分布。県内では大台町大台ヶ原山で記録されているだけである。

現況・減少要因： 生息場所は針葉樹林帯の自然林が残された地域である。しかし生息場所では、ニホンジカの増加にともなう樹皮の食害により樹林が衰退し、乾燥化している。そのため生息環境の悪化が進行している。

保護対策： 早急にニホンジカの生息数調整対策と樹木の保護および育成が必要とされる。また今後も詳細な調査の継続が必要。

特記事項： 大台ヶ原の生息地一帯は吉野熊野国立公園の特別保護地区に指定されている。

文献： 195. 481.



(今村隆一)

ツヤネクイハムシ

コウチュウ目ハムシ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Donacia nitidior (Nakane)

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 既知の生息点数は 10 以下である。本種は湿地に依存した生活史をもち、全国的にも分布が限られ、生息地はきわめて狭い範囲に限られている。

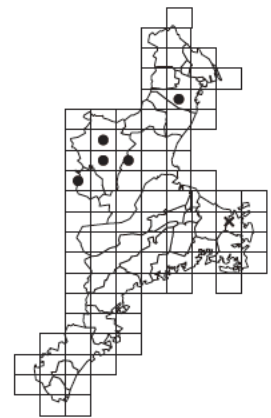
種の概要： 体長 5~6.5 mm. 成虫は 4 月下旬から 5 月にかけて日当たりの良いスゲ類の花に集まり、その花粉を好んで食し、刺激を与えると落下する。幼虫は土中のスゲ類の根を食す。

分布： 国内では本州（宮城県以南）、県内では青山高原（津市美里町から伊賀市大山田）、伊賀市、名張市、伊勢市。近年四日市市でも確認された。

現況・減少要因： 伊勢市の産地は開発によって消滅。他の既知産地も湿地の消失に伴い、生息地が激減している。青山高原は最も安定していた生息地であったが、近年の風力発電設置工事に伴い点在する湿地の数か所が埋め立てられた。

保護対策： 本種が生息する湿地とその周辺環境保全。特に青山高原の現存する湿地は早急に保護すべきである。

文献： 224. 268. 272. 472. 505.



(乙部 宏)

ヒラタムシヒキ

ハエ目ムシヒキアブ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：—

Clinopogon nicobarensis (Schiner)

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 海浜性の種で、自然度の高い海岸に局所的に生息するが、既知の生息地点数は 3 地点のみ。個体数は激減している。

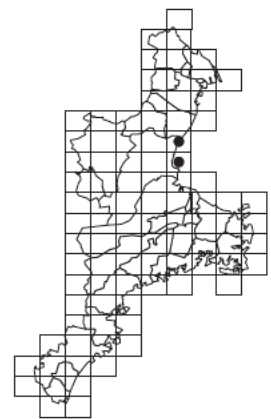
種の概要： 体長 14~17 mm 程度。体は黒色で灰白色の微粉に覆われる。翅は透明。成虫は捕食性、海浜のゴミや藻類の上に見られる。幼虫の生態は不明だが、捕食性で砂地に生息すると考えられる。ムシヒキアブのうち最も海水に近い波打ち際に生息する特徴的な生態の種。年 1 化、盛夏に出現。

分布： 本州、四国、九州、沖縄、国外では台湾に分布。県内では津市の記録がある。

現況・減少要因： 本州には古い記録があるが、2000 年に県内でも発見され、本州での生息が再確認された。未発表を含めても本州の生息地はごくわずかで、非常に自然度の高い海浜に限定されている。県内の生息地は範囲が狭く、また堤防工事や生態系を無視したマツ植樹が行われており、種の存続はけっして楽観できない状況にある。

保護対策： 生息地を現状のまま保全すること。成虫の生息域だけではなく、より内陸の環境もこの種の存続には大きく関係していると考えられるので、広い範囲での環境の保全が重要である。

文献： 601. 619.



(大石久志・篠木善重)

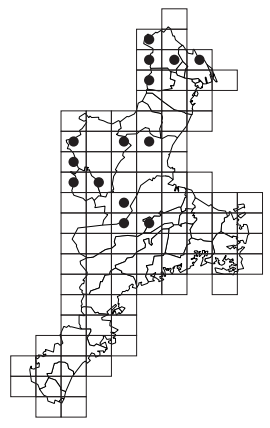
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ギフチョウ チョウ目アゲハチョウ科
Luehdorfia japonica Leech

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 既知生息地点数は 10 程度で、減少傾向が著しい。また、生息地の分断傾向は高く、生息地間の個体の交流がないと考えられる。
種の概要： 開張 50~60 mm のアゲハチョウとしてはやや小型の種。黄色と黒の縞模様で後翅には赤、青、橙色の紋がある。年 1 回、春に発生する。
分布： 本州固有種。北限は秋田県、太平洋側東限は東京都、西南限は山口県。県内では北勢山地から丘陵、伊賀地方、中勢丘陵の一部に生息地が知られるが、伊賀地方以外では長期間生息確認情報がない。
現況・減少要因： 里山の雑木林、日当たりのよい幼齢の植林地、棚田の畔などに自生するカンアオイ類に発生するため、雑木林の消失、管理放棄による荒廃、植林地の高齢化によるうっ閉、耕作機械化に伴う地形変更などによる生息地の消失が著しい。一部地域では採集者集中による捕獲圧も減少要因となっている。全国的な衰退傾向から、元来分布辺境域であった南部の生息地は既に絶滅している可能性が高い。
保護対策： 従前の農山村経営形態による里山環境の利用、復活。
文献： 650. 671. 720. 740. 750. 756. 772. 794. 798.



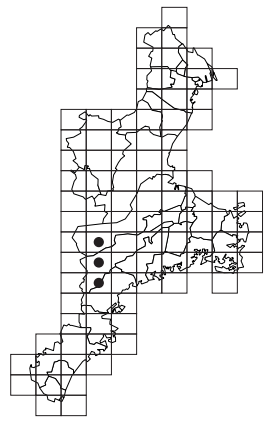
(中西元男)

ベニモンカラスシジミ チョウ目シジミチョウ科
Fixenia iyonis (Ota et Kusunoki)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：NT

選定理由： 既知生息地点数 5 以下、新たな生息地が追加される可能性は極めて低い。生息地は分断されており、個体の交流はないと考えられる。
種の概要： 開張 30 mm 弱の褐色のシジミチョウ。雄雌とも翅表に橙色紋があるが、雄の紋の方が大きい。渓谷の崖地に生えるコバノクロウメモドキを食樹とし、年 1 回 5 月下旬に発生する。
分布： 日本固有種。県内では宮川と櫛田川上流域の渓谷地帯にのみ分布。
現況・減少要因： 生息地の立地条件上、特に減少傾向は認められない。食樹の生える環境が不安定のため、風水害による打撃を受けやすく、生息状況が不安定である。
保護対策： 生息地の現状保全。
文献： 739. 757. 782. 783. 787. 788. 792. 793. 799. 800. 801. 802.



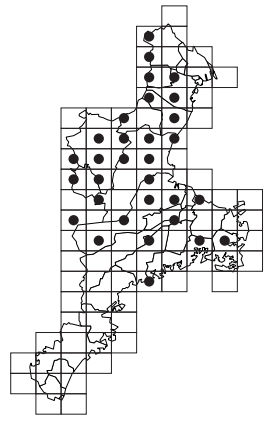
(中西元男)

ウラギンスジヒョウモン チョウ目タテハチョウ科
Argyronome laodice japonica (Menetries)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 既知生息地点数は多いが、減少傾向が大きい。
種の概要： 開張 60~70 mm 程の中型のタテハチョウ。橙色の地色に黒い斑紋を散らした"豹紋"チョウの 1 種。後翅の裏面中央に、縦に銀白色の筋紋があるのが特徴。年 1 回、5 月下旬~6 月に発生し、明るい草原で活動する。食草はスミレ類。
分布： ヨーロッパからユーラシア、中国大陸西部、朝鮮半島、サハリンなど。北海道、本州、四国、九州。県内では南部の紀州地域を除くほぼ全域。
現況・減少要因： 主として湿地性の草原に発生する。広域に生息していた頃は市街地周辺の多様な環境にみられたが、現在は中勢平野部から全く記録されていない。伊賀地域の湿地周辺でのみ安定的にみられる。平野部の市街地周辺農耕地の利水形態の変化により減少した可能性が高い。
保護対策： 湿地環境の保全。分断化しつつある生息地間を回廊的に整備する必要がある。
文献： 723. 731. 746. 774. 778.

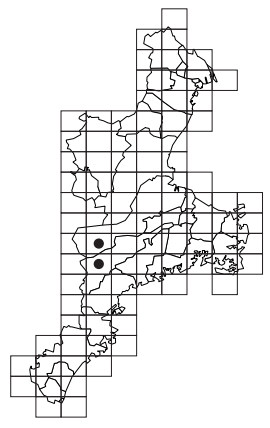


(中西元男)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

ホシミスジ チョウ目タテハチョウ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：—
Neptis pryeri kiiensis Fukuda, Minotani et Shnkawa 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

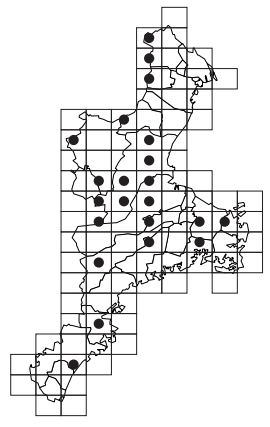
選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下、現在確認されているものは 1 以下。出現範囲は 100 平方キロメートル以内で、一つの亜個体群への個体集中度が極めて高い。
種の概要： 開張 50～60 mm 程度。黒地に白い 3 本の筋があり、翅裏の根元に小さな黒点模様がある。山岳渓谷地帯にみられ、現地では 6 月頃から発生。食樹はユキヤナギ類だが県内では未知。
分布： 種 *pryeri* はウスリー、アムール、中国、朝鮮、台湾、本州、四国、九州に分布。国内の個体群に地域差があることが近年明らかになり、県内の個体群は紀伊山地亜種 *ssp. kiiensis* とされる。宮川上流域の渓谷地帯に生息、榊田川水系でも 1 例の確認例がある。中勢、志摩でも散発的な古い記録があるが、由来は不明。庭園栽培樹依存の人為的移入の可能性もある。
現況・減少要因： 渓谷の露岩地に生息。生息地の立地条件から、特に減少傾向は認められない。
保護対策： 生息地の現状保全。本種は、京阪神地域で庭園栽培樹依存の人為的分布拡大現象が知られ、すでに伊賀、北勢地域への侵入が認められる。亜種を異にする個体群侵入の可能性があり、遺伝子汚染についても注意が必要である。
文献： 643. 644. 666. 739. 747. 795.



(中西元男)

ウラナミジャノメ チョウ目タテハチョウ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：VU
Ypthima motschulskyi nipponica Murayama 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

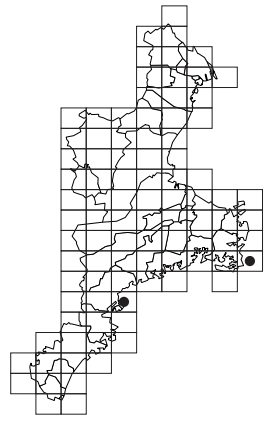
選定理由： 既知生息地点数は多いが、既存するものはおそらく 5 以下。
種の概要： 開張 35～40 mm。翅表は褐色、裏面は褐色と白で細かい縞模様になっており、後翅に 3 個の蛇ノ目様の紋がある。近似のヒメウラナミジャノメはこの紋の数が多く、年 2 回、6 月と 9 月頃発生する。イネ科植物を食草とするが、幼虫期など県内での野外の状態はよく分かっていない。
分布： 中国大陸、朝鮮半島、関東以南の本州から屋久島。対馬産は別亜種。県内では、ほぼ全域に生息地が散在するが、いずれの地でも局地的。
現況・減少要因： 一般的な農耕地山環境に生息する。1980 年代から急速に生息地点数が減少。農耕形態、里山管理の変化が減少原因と思われるが、具体的な因果関係はよく分からない。活動空間がよく似ていて、環境選択性に差異を認められないように見えるヒメウラナミジャノメは広域分布の普通種で、減少傾向が認められない。
保護対策： 里山環境の保全とともに、減少原因の特定が急務である。
文献： 650. 721. 722. 729. 741.



(中西元男)

ミサキツノトビケラ トビケラ目ヒゲナガトビケラ科 三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN) 環境省：—
Tripletides misakianus (Matsumura) 旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息地点は 2 か所で、生息環境の悪化が進んでいる。
種の概要： 成虫の前翅長は約 12 mm で黄褐色、幼虫は体長約 20～22 mm でアシヤガマなどの茎をくり貫いた巣を作る。成虫は卵胎生で触角が長いのが特徴的で蛹はその長い触角を腹部に巻きつける様にして納めている。
分布： 本州、九州。近年の記録は、青森、千葉、三重県（志摩市、紀北町）のみである。
現況・減少要因： かつては日本に広く分布していたと思われるが、平地の溜池など止水環境の悪化により減少したものと考えられる。県内の生息地である 2 か所の池の内、紀北町の池は水位が下がり幼虫が利用する抽水植物が減少している。志摩市の池においてはアメリカザリガニによる捕食圧が懸念される。
保護対策： 池沼などの水辺環境の保全管理と外来種の積極的な除去が求められる。
文献： 819. 821. 828.



(森田久幸)

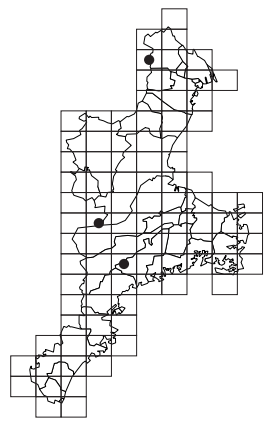
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

バイケイソウハバチ ハチ目ハバチ科
Aglaostigma amoorensis (Cameron)

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、生息地域が食草の分布に制限され環境変化の影響を大きく受けやすい。
種の概要： 成虫の体長 10 mm ほどの黒色地に腹部中央部が黄褐色のハバチ。年 1 回 5 月頃発生。バイケイソウ、コバイケイソウに産卵する。
分布： 本州。県内では、北勢、中勢、南勢から記録されている。
現況・減少要因： いなべ市、松阪市、大紀町で確認されている。中部山岳地帯では普通に見られるが、紀伊半島では、珍しい種で、分布が限られる。
保護対策： 食草のバイケイソウが生育する山地の環境を保全する。
文献： 842, 856.



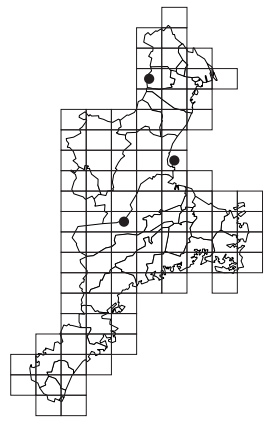
(西田悦造)

マイマイツツハナバチ ハチ目ハキリバチ科
Osmia orientalis Benoist

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：DD

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、特異な生活史のため生息環境の変化に大きく影響を受けやすい。
種の概要： 成虫の体長 10 mm ほどの腹部が青緑色のハチ。春にカタツムリの空殻に花の花粉を集めて巣を作る。
分布： 日本固有種。本州、四国、九州。県内では、北勢、中勢から記録されている。
現況・減少要因： 1961 年に採集されて以降、記録されていない。県内では、もともと個体数の少ない種。
保護対策： 営巣に使うカタツムリの殻と餌源の花粉が確保できるように環境を保全する。
文献： 841.



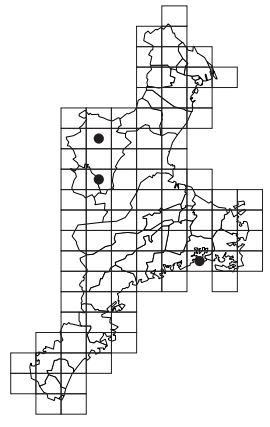
(西田悦造)

ニッポンハナダカバチ ハチ目ドロバチモドキ科
Bembix niponica F.Smith

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)
 旧県：

環境省：VU

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、特異な生活史のため生息環境の変化に大きく影響を受けやすい。
種の概要： 成虫の体長 20 mm ほどでのハチ。ハエ目昆虫の成虫を狩り、本種の幼虫の餌にするため、砂地に穴を掘って巣を作り、その穴に餌を保存する。
分布： 日本固有種。本州、四国、九州。県内では、伊賀地域、志摩地域から記録されている。
現況・減少要因： 伊賀市、名張市、志摩市で確認されている。県内では、もともと個体数の少ない種。
保護対策： 営巣場所となる砂質裸地の環境を保全する。
文献： 832, 845, 855.



(西田悦造)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ウマノオバチ

ハチ目コムユバチ科

三重県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

環境省：NT

Euurobracon yokahamae Dalla Torre

旧県：—

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、特異な生活史のため生息環境の変化に大きく影響を受けやすい。

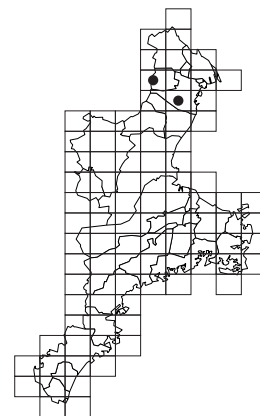
種の概要： 成虫の体長 20 mm ほどであるが、体長の数倍ある長い産卵管が特徴のハチ。シロスジカミキリの幼虫に寄生している。

分布： 日本固有種。本州、四国、九州。県内では、北勢から記録されている。

現況・減少要因： 2010 年に四日市市で 60 年ぶりに再確認され、菰野町でも確認されている。県内では、もともと個体数の少ない種。

保護対策： 宿主のシロスジカミキリが生息できる環境を保全する。

文献： 830.



(西田悦造)

ベニイトトンボ

トンボ目イトトンボ科

三重県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：NT

Ceragrion nipponicum Asahina

旧県：絶滅危惧 IA 類 (EN)

選定理由： 既知生息地点数は 5 以下で、近年生息地の多くで個体数の減少傾向が著しい。

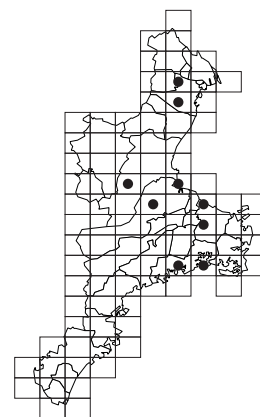
種の概要： 成虫は腹長雄 27~31 mm, 雌 29~33 mm. 朱色みがかった赤っぽいやや太身のイトトンボである。雄は全身が朱赤色で無斑。雌は地色がややくすんだ橙褐色をしている。

分布： 国外では中国中部。国内では本州、四国、九州に分布する。県内では主に松阪市を中心とした中南勢地域や名張市、伊勢市、南伊勢町などに分布するが、局所的で個体数は少ない。時に人工池や養鯉池にも生息する。

現況・減少要因： 丘陵地や平野部の生息域は人の生活圏に隣接しているため、開発や環境汚染により消滅もしくは悪化の一途をたどっている。南伊勢町の押淵の湿地帯の多産地は埋め立てにより消滅、松阪市の多産地は土砂の流入により生息域の環境が一変し消滅した。ただ近年、伊勢市から新産地の報告が朗報としてあげられる。

保護対策： 本種の好む生息条件の一つである挺水植物や浮葉植物、沈水植物の繁茂する生息水域の保全と推移を注意深く見守る必要がある。

文献： 1. 4. 7. 14. 16. 22. 25. 27. 34.



(石田昇三・刀根定良)

モートンイトトンボ

トンボ目イトトンボ科

三重県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：NT

Mortonagrion selenion (Ris)

旧県：—

選定理由： かつては県内に比較的普遍的に生息していたが、生息域の減少、枯渇や開発による圧迫要因により近年激減した。

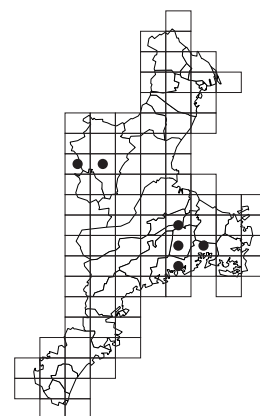
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 18~21 mm. 雌雄により体色斑紋が著しく異なる。雄は体の前半が黄緑色の地に黒斑があり、眼後紋が弧状をしているのが特徴である。雌は羽化したばかりの頃は全身があざやかなオレンジ色の無斑であるが、成熟するにつれて鮮緑色に変わり、腹部の背面に黒い縦条が現れる。

分布： 国外では朝鮮半島、中国中部、沿海州などに分布。国内では北海道南部から本州、四国、九州南部の半島に生息するが、産地は局所的である。県内では北勢や南部においては産地が少なく稀、他の地域も局所的で個体数も少ない。

現況・減少要因： 生息域の環境悪化や消滅により北部は壊滅的な状況、他の地域も個体数の減少傾向が著しい。比較的多産していた南伊勢町の湿地においても枯渇や埋め立てに伴い個体数が減少している。

保護対策： 生息域の環境維持と枯渇を防ぎ、なおかつ保全対策が必要である。

文献： 2. 9. 11. 16. 22. 25. 34. 40. 47.



(石田昇三・刀根定良)

アオハダトンボ

Calopteryx japonica Selys

トンボ目カワトンボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

旧県：—

選定理由： 主に平地や丘陵地の水生植物が繁茂する比較的流れの緩やかな清流に生息するが、産地は局所的に限られる。

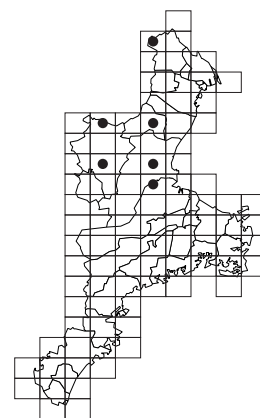
種の概要： 成虫は、腹長雄 41~48 mm, 雌 40~45 mm. 頭・胸部が強い金属光沢がある緑色をした翅の黒いカワトンボ。雄の翅は地色が紺色で、縦脈が金緑色、横脈が紫紺色をしており、翅を開閉する度に翅表が青藍色にきらめく。雌の翅は概ね淡褐色で、前翅の半ばより先の色が淡く、翅端に近い前縁に乳白色をした偽緑紋がある。

分布： 国外では朝鮮半島、中国東北部、アムール川以東のシベリアなどに分布。国内では、本州、九州に生息するが局所的である。県内では、近年大紀町以南の生息域は消滅しており、他の地域では局所的に分布する。

現況・減少要因： 清流を好む性質が強く、近年、生活排水・工場排水の流入や河川整備に伴い、減少もしくは絶滅した産地も少なくない。ただ河川整備に伴う環境調査により新たな生息域も見つかっている。

保護対策： 河川の清流域の環境保全と水質安定及び水生植物の存続が不可欠である。

文献： 2, 4, 12, 29, 32, 47.



(石田昇三・刀根定良)

キイロサナエ

Asiagomphus pryeri (Selys)

トンボ目サナエトンボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

旧県：—

選定理由： かつては県内の平地、丘陵地の流れの緩やかな小川に同属のヤマサナエとほぼ混生するように比較的広範囲に生息していたが、圃場整備や灌漑水路付け替えと水田の乾田化に伴い個体数は激減した。

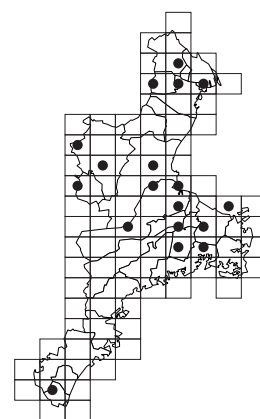
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 43~49 mm. 黒地に黄色い反復模様があるやや大きめの中型のサナエトンボ。同属のヤマサナエに酷似するが、上唇に2個の小さな黄斑のある個体が多く、翅胸側面の第1側縫線沿いの黒条が途中で消失する傾向があるので識別できる。

分布： 日本固有種で、新潟、長野、埼玉、栃木、茨城以西の本州、四国、九州と大隅諸島の種子島に分布している。県内では、比較的広く生息するが個体数は少なく、南伊勢町より以南では紀宝町の熊野川支流・相野谷川だけに限り生息している。

現況・減少要因： 近年、生息域の灌漑水路の浚渫工事やU字溝への移行により減少傾向にある。

保護対策： 生息域の保全と環境変化に留意する必要がある。

文献： 2, 4, 12, 16, 22, 25, 29, 35, 47.



(石田昇三・刀根定良)

ナゴヤサナエ

Stylurus nagoyanus (Asahina)

トンボ目サナエトンボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

旧県：—

選定理由： 既知産地は、木曾三川の長良川下流域の伊勢大橋付近の比較的水深が深くヨシなどの背丈の高い挺水植物群落に接した泥底域に限られ、幼虫、羽化殻が得られているに過ぎず、成虫の記録は無い。

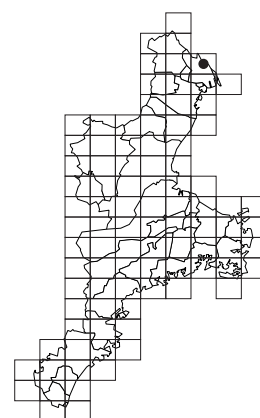
種の概要： 成虫は、腹長雄 42~47 mm, 雌 43~46 mm. 同属のオオサカサナエに疑似した黒地に黄色い反復模様がある中型のサナエトンボ。オオサカサナエよりわずかに大きく、腹部第4~6節の黄色斑が環状をして第9節のものが小さいことで識別できる。

分布： 日本固有種で、宮城、山形両県より南西の本州と四国の徳島県、熊本、宮崎以北の九州に分布する。県内では、桑名市から記録されている。

現況・減少要因： 河川中流から下流域の護岸改修などによりヨシ原の減少や河川環境の変化により減少が懸念されている。

保護対策： 羽化場所の環境変化に留意し、ヨシ原保全に努める必要がある。

文献： 18, 35, 43.



(石田昇三・刀根定良)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オグマサナエ

トンボ目サナエトンボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Trigomphus ogumai (Asahina)

旧県：—

選定理由： 既知の生息地点数は10以上であるが、溜池の荒廃、埋立等により生息域が消滅し個体数が激減している。

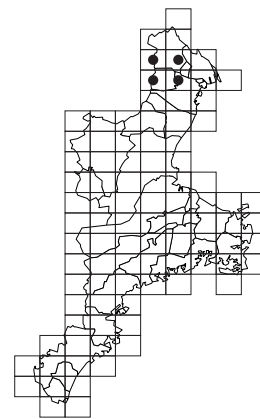
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長34~36 mm。黒地に黄色の反復模様があるサナエトンボ科に共通した特徴を持つ小型種。コサナエ等の同属中では一番大きい。同属種とは雄の尾部付属器、雄の副性器、雌の産卵弁の形状等で識別できる。

分布： 日本固有種で、石川県、長野県、愛知県以西の本州、四国、九州に分布するが、産地はやや限られる。県内では北勢地域と伊賀市の一部に分布するが、局所的で個体数も少ない。

現況・減少要因： 近年、生息域の池沼の埋め立てと環境悪化に伴い減少傾向にある。

保護対策： 生息域の確保と共に周囲の環境保全に努め、今後は本種の推移に注意深く留意する等の対策が不可欠である。

文献： 4, 12, 36, 47.



(石田昇三・刀根定良)

ネアカヨシヤンマ

トンボ目ヤンマ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Aeschnophlebia anisoptera Selys

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数が10程度で、生息域が局所的で個体数も少ない。

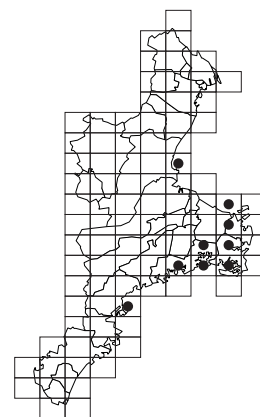
種の概要： 成虫は腹長雄54~59 mm, 雌55~63 mm。同属のアオヤンマと同様、腹部の第3節がまったくくびれず、全体がほぼ円筒形をしたずん胴形の大型種。アオヤンマより一回り大きく、腹部の背面のほぼ全体が黒っぽいことなどから識別できる。

分布： 国外では中国南部に分布。国内では、茨城、千葉、埼玉、新潟各県より西の本州と四国、宮崎県から北の九州に産する。県内では、津市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、紀北町、紀宝町などに分布する。

現況・減少要因： 本種の生息する湿地や水域の減少や荒廃により減少、多産地であった南伊勢町の押淵湿地は埋め立てと乾燥化により激減した。他の地域も同様に減少や激減している。

保護対策： 生息域の環境保全と湿地の乾燥化を防ぐ必要がある。

文献： 4, 10, 11, 16, 25, 35.



(石田昇三・刀根定良)

キイロヤマトンボ

トンボ目ヤマトンボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Macromia daimoji Okumura

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点数が10程度で、生息域が著しく局所的で、個体数も少ない。

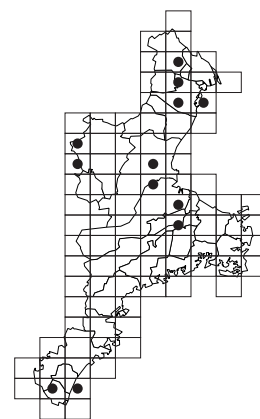
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長54~64 mm。黒地に黄色の反復模様を持つ、同属のコヤマトンボに酷似するが、腹部が細身で、黄色みが強い。他に腹部第3節の黄色斑が背面と腹部に2分され、第7節背面の黄色斑が大きく、後縁が矢尻状に伸びることが識別される。

分布： 国外では朝鮮半島に分布。国内では、福島県以南の本州と四国、九州に産する。県内では、員弁川、海蔵川、木津川、雲出川、櫛田川、宮川、熊野川などの各水系に分布する。

現況・減少要因： 員弁川、海蔵川からは近年記録が無く、消息は不明である。他の地域も局所的で開発圧迫要因で減少傾向にある。また、国内唯一の汽水域での生息が確認されている熊野川支流の相野谷川は、学術的にも貴重な場所であるが、近年河川反乱が幾度となく起こり生息が危惧されている。

保護対策： 生息域である中流域の環境保全と河床の安定を維持する必要がある。

文献： 2, 4, 7, 14, 16, 22, 23, 25, 37.



(石田昇三・刀根定良)

タンボオカメコオロギ

Loxoblemmus aomoriensis Shiraki

バッタ目コオロギ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 1か所のみで確認されている。

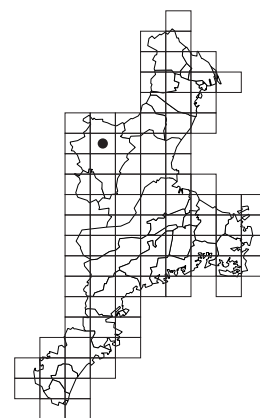
種の概要： 体長雄 11.9~13.1 mm, 雌 11.8~16.2 mm. 中型. 黒褐色. ハラオカメコオロギやモリオカメコオロギに酷似し, 形態での区別は難しい. 鳴き声の音色はハラオカメコオロギに似るが, 鳴き方はむしろモリオカメコオロギに近い. 通常田圃, 水路の縁, 湿田など林に近い湿った農耕地等に多いが, 北地では乾燥したところにも生息する. 卵越冬年 1 化.

分布： 北海道, 本州, 四国, 九州. 中部地方では広く生息し, 個体数は多い. 県内では伊賀市でのみ確認されている.

現況・減少要因： 生息範囲が狭く, 分布が限られ, 個体数が少ない. 農耕地を中心として, 林縁にも生息する. 農耕地の休耕, 植林, 農業以外の用途への転用などで, 生息地の環境変化が進んでいる. また周辺森林が放置され, 林床が暗くなり, 生息可能な環境が少なくなっている.

保護対策： 従来と同様の農業経営が行われることが望まれる.

文献： 76. 84. 90.



(加納康嗣)

カワラバッタ

Eusphingonotus japonicus (Saussure)

バッタ目バッタ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点は 10 以下であり, 安定した生息地は熊野川と宮川中流域だけである. 生息地は分断されている.

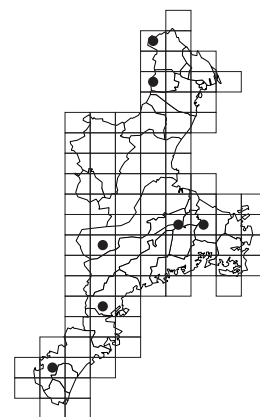
種の概要： 体長 35~45 mm. 中型のバッタ. 灰褐色で, 暗褐色の斑紋が点在し砂礫地に対する保護色となっている. 後翅は暗褐色の弧状の紋があり, 内側は鮮やかな青色. 河川の砂礫に生息し, 年 1 化, 成虫は 7~10 月に出現する.

分布： 本州, 四国, 九州において局所的に分布する. 県内ではいなべ市, 菰野町, 紀北町, 松阪市, 大台町, 多気町, 度会町, 伊勢市, 熊野市から記録されている.

現況・減少要因： 河川改修による河原環境の喪失と河川の植物群落の遷移により, 生息地と個体数が減少している.

保護対策： 河川改修にあたっては, 本来の河原環境への影響を極力避け, 改修後の植物の遷移について十分配慮するべきであり, できれば, 生息地の河川改修工事は止めるのが望ましい.

文献： 72. 81. 83. 84. 93. 95.



(河北 均)

アカエゾゼミ

Tibicen flammatus (Distant)

カメムシ目ゼミ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

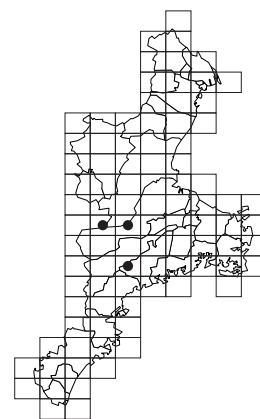
選定理由： 既知生息地が 5 以下であり, かつ, 生息範囲が局所的である.

種の概要： 体長 (翅端まで) 62 mm 内外. 前胸背と中胸背の W 字状紋は赤味が強く, 翅は透明で基部に近い所の翅脈は橙色を呈する. 雄の腹弁は第 3 腹板に達しない. 成虫は 7 月下旬から 8 月下旬に出現する.

分布： 北海道, 本州, 四国, 九州, 国外では朝鮮半島, 中国に分布. 県内ではこれまでに津市美杉町および大台町宮川での記録がある.

現況・減少要因： 美杉町では三重大学演習林の西俣および東俣のブナ林を中心に, やや下部にあたる標高 650 m ほどまでの自然林に生息する. また, 宮川では総門山付近のブナ帯下部の自然林で記録されているが, 生息範囲は局所的なようである. 過去から行われてきた自然林の造林地化および台風などの自然災害が, 元来分布の局所的な本種の生息基盤に影響を与えているものと推察される.

文献： 97. 114. 121. 139. 144.



(富田靖男)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

エサキアメンボ

カメムシ目アメンボ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Limnporus esakii (Miyamoto)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知生息地が 10 以下。河川の改修、池沼周辺の水辺環境の悪化などによる減少が危惧されることから VU にランク変更された。

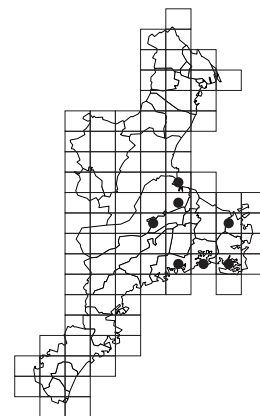
種の概要： 体長 8~11 mm ほどの小型種。背面は褐色で側面には銀白色の毛がある。触角は第 4 節が最長で黒色を呈する。本種は近年減少しつつある水生植物の豊富に生育する止水域を指標する種の一つである。

分布： 北海道、本州、四国、九州、対馬、国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では、松阪市、多気町、伊勢市、志摩市大王町、南伊勢町などで記録されている。

現況・減少要因： 松阪市の雲出川および榑田川下流部のワンド、志摩市大王町および南伊勢町押淵などの既知生息地の環境は、平地のヨシやガマなどの抽水植物が繁茂する池沼やワンドなど低湿地である。いずれの地域も環境改変を受けやすく、生息地の基盤が脆弱である。

保護対策： 抽水植物が豊富に繁茂する池沼や河口部の周辺も含めた保全、管理。池沼の埋め立て、開発等の抑止ならびに種の継続的調査が必要である。

文献： 109. 112. 160. 167. 168.



(富田靖男・石田和男・矢崎充彦)

ヒメミズカマキリ

カメムシ目タイコウチ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Ranatra unicolor Scott

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知生息地は 10 か所以上あるが、近年生息地の環境悪化が懸念される。

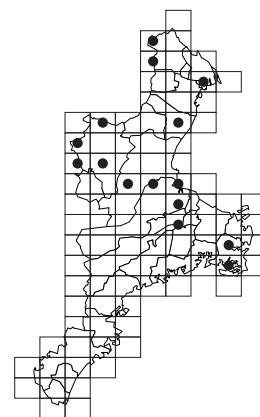
種の概要： 体長 25 mm 内外で、体は長形で褐色である。前脚はやや太く捕獲脚となっている。

分布： 北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では、いなべ市、川越町、鈴鹿市、津市、伊賀市、多気町、鳥羽市、志摩市などで記録がある。

現況・減少要因： 生息範囲は広いが、いずれの既知生息地においても、近年生息地点、個体数が減少している。本種は低地の池沼や河川の静水域等に生息するため、周辺環境の水路や圃場の整備が進み、用排水分離が進んだためと思われる。

保護対策： 本種が生息可能な水辺環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

文献： 112. 127. 134. 138. 152. 167. 168.



(鈴木 賢・大川親雄)

オオコオイムシ

カメムシ目コオイムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Appasus major (Esaki)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知生息地が 5 以下で、いずれの場所も生息湿地の基盤が脆弱であることから VU にランク変更された。

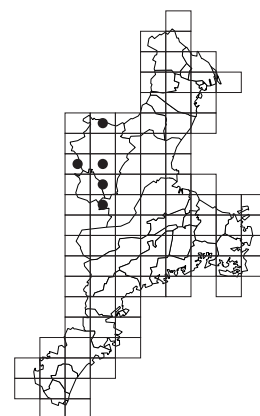
種の概要： 体長 23~26 mm ほどで、コオイムシ (17~20 mm) よりひと回り大きい。5 月下旬から 6 月頃に雌は雄の背面に卵を並べて産み付ける。高層湿原や谷地などに生息する。

分布： 北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、ロシアに分布。県内では伊賀市の数か所および津市美杉町俱留尊山での記録がある。

現況・減少要因： 伊賀市の旧上野、阿山、青山地域および津市美杉町俱留尊などで記録されている。本種は山間部の高層湿原や浅い池沼に生息しているが、法花の湿原では近年湿原の遷移が進んでおり、将来的には粘土層の採掘など諸開発により、生息地の消滅あるいは水源枯渇など直接的、間接的に影響を受けるおそれがある。また、他の地域も生息地の基盤が脆弱である。

保護対策： 高層湿原や池沼周辺の開発抑止、里山も含めた湿地環境の保全、管理および種の継続的な調査が必要である。

文献： 138. 152. 153. 168.



(富田靖男)

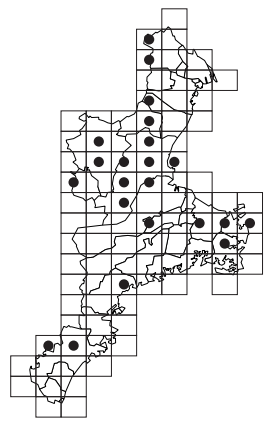
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

タガメ カメムシ目コオイムシ科
Lethocerus deyrolli (Vuillefroy)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

選定理由： かつては県内に広く生息していたが、近年生息地、個体数ともに減少している。
種の概要： 体長 50~67 mm で、体は長楕円形で灰褐色あるいは褐色をしている。前脚は太く強力な捕獲脚となっている。成虫は灯火に飛来する。本州産最大のカメムシ類の一種である。
分布： 北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では北勢地域から東紀州地域まで広く生息していると考えられる。
現況・減少要因： 生息範囲は広いが、いずれの既知生息地においても、近年生息地点、個体数が激減している。本種は低地の池沼、湿性休耕田、河川の静水域に生息するため、池沼周辺環境の水路や圃場の整備が進み、用排水分離が進んだためと思われる。
保護対策： 本種が生息可能な水辺環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。
文献： 127. 134. 135. 138. 141. 147. 150. 151. 152. 156. 157. 159. 162. 166. 168.



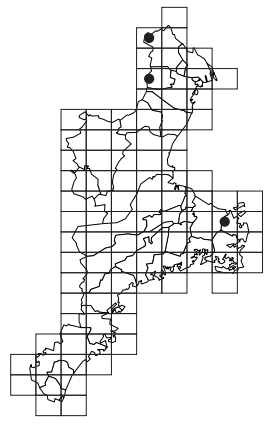
(鈴木 賢・大川親雄)

ニシキキンカメムシ カメムシ目キンカメムシ科
Poecilocoris splendidulus Esaki

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知生息地が 5 以下で、県中北部に分布するが、生息範囲が限定されている。
種の概要： 体長 16~20 mm で、体色は金属光沢のある緑青色地に赤色の帯紋を有し、大型で美しいカメムシである。
分布： 本州、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市、菰野町、伊勢市から記録がある。
現況・減少要因： 生息範囲は広いと考えられるが、幼虫がツゲで育つために、生息地が限定される。近年の産業開発により生育環境が激変していると考えられる。
保護対策： 本種が生息可能な環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。
文献： 107. 118. 138.



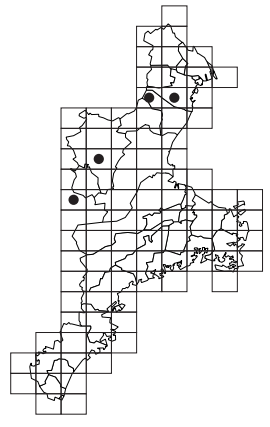
(鈴木 賢)

キバネツノトンボ アミメカゲロウ目ツノトンボ科
Ascalaphus ramburi MacLachlan

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知生息地が 10 以下で、それらの地域でも近年確認されていないところが多い。
種の概要： 体長 18~23 mm, 前翅長 20~27 mm. 前翅は透明なのに対し、後翅は黄色と褐色のまだら模様を呈する。成虫は 5~6 月頃に出現する。
分布： 日本固有種で本州、九州に局所的に分布。三重県では北勢、中勢、伊賀地域で記録がある。
現況・減少要因： 北勢地域では菰野町および四日市市で 1940~1950 年代に記録されているが、1960 年以降生息情報がない。また、伊賀地域では赤目・香落付近として 1940 年以前の報告および才良から下神戸における 1975 年の報告が見られる。近年は伊賀市北中部、名張市北部および津市久居における記録を見るだけである(近年のメッシュ図は非公表)。本種の生息環境は丘陵地や低山地の主としてススキなどの草地であり、生息地の諸開発および遷移などによる環境変化により減少あるいは消滅したものと推察される。
保護対策： ススキなどの草原環境の保全、復元が必要である。
文献： 170. 175. 181. 183.



(富田靖男)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

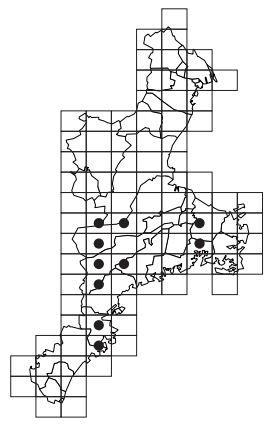
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キイオナガミズスマシ コウチュウ目ミズスマシ科
Orectochilus regimbarti odaiensis Kamiya

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知生息地点が10未満。生息環境が悪化している。
種の概要： 体長8.5~10.0 mm。河川上流下部の清流に生息する。昼間は岸辺の岩から垂れ下がったナルコスゲなどの根の間に潜んでいる。夜間には水面を旋回する。
分布： 紀伊半島に分布。三重県では、津市、松阪市、大台町、大紀町、伊勢市、尾鷲市で確認されている。
現況・減少要因： ダム建設、河川改修などによる生息地の消失、生息地上流の森林伐採や道路工事などともなう水質汚濁などが本種の生息にとって脅威となるものと思われる。
保護対策： 生息が確認された地点、およびその上流では河川改修などを行わないこと。森林伐採や道路工事などにも配慮が必要である。
特記事項： 本州、四国、九州に分布するオナガミズスマシの紀伊半島亜種とされるが、形態差は大きい。
文献： 264. 371. 488. 489. 539. 540. 574. 576.



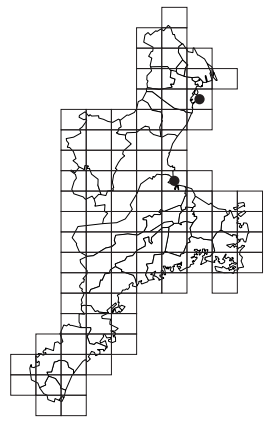
(秋田勝己)

キバネキバナガミズギワゴミムシ コウチュウ目オサムシ科
Bembidion aestuarii (S. Uéno et Habu)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：VU

選定理由： 既知生息地点が5以下。生息基盤がきわめて脆弱である。
種の概要： 体長約4.5 mm。生息環境は水質良好な河川下流の感潮域干潟で、満潮時には完全に水没する。表層が砂泥で、その下が厚い砂礫層、常に高密度のチゴガニのコロニーを伴う。干潮時に砂泥上で活動し、チゴガニの巣穴や砂泥のひび割れをシェルターとして利用している。満潮時には主にチゴガニの巣穴中で過ごす。冬季は砂泥層の下に厚く堆積した砂礫層の中に見いだされる。
分布： 本州、四国、九州。三重県では四日市市(鈴鹿川派川)、鈴鹿市(千代崎海岸)、津市(雲出川、雲出古川)、松阪市櫛田川で記録される。鈴鹿市の記録は漂着によるものである。
現況・減少要因： 鈴鹿派川では生息の確認ができなかった。雲出川、雲出古川の個体密度は高いものの、生息条件が限定されることから、生息地は非常に狭い。
保護対策： このような環境は水質汚染や河川改修、堤防や河口堰の建設などで容易に破壊されることから、十分な配慮が必要である。
文献： 201. 434. 443.



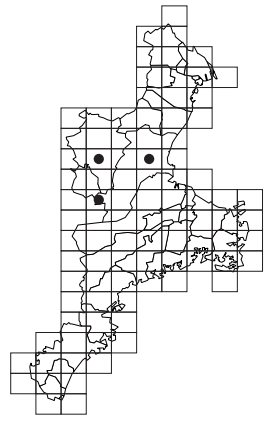
(秋田勝己)

クロカタビロオサムシ コウチュウ目オサムシ科
Calosoma maximowiczi (Morawitz)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の採集地点は3地点のみである。
種の概要： 体長22~31 mm。全体的に黒色で光沢をもつ。後翅は発達してよく飛翔する。主にチョウ目の幼虫を捕食する。
分布： 北海道、本州、四国、九州と周辺離島に分布するが、西南日本では局地的となる。県内では1980年代までに津市長谷山、旧美杉村で採集され、その後長らく記録がなかったが、2013年になって伊賀市で記録された。同地では2014年に入っても採集されている。国外では東アジア地域に分布する。
現況・減少要因： 元来は自然度の高い広葉樹林との結びつきが強いと考えられるため、人工林や二次林の増加が負の影響をもたらした可能性が考えられる。東北地方などでは従来から周期的な大発生が知られており、近畿地方でも最近になって本種の大発生が初めて報告され始めたため、県内での記録も一過性のものなのかどうか今後のモニタリングが必要である。
保護対策： 山地の樹林帯を中心に生息地の確認や生態調査が必要。またそのような環境を保全することが、潜在的な本種の生息地を保護することにもなるだろう。
文献： 199. 318. 344. 349. 382.



(久保田耕平)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

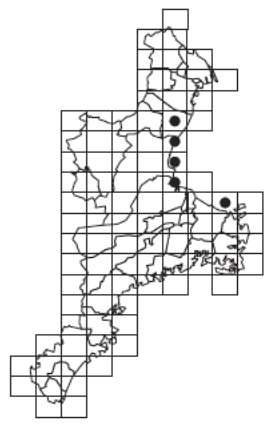
オオヒョウタンゴミムシ
Scarites sulcatus Olivier

コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点が10以下。生息環境が悪化し、近年の減少が著しい。
種の概要： 体長28~38 mm。海浜の砂浜およびその後背のクロマツ林に生息する。夜行性で地表を歩行し、他の昆虫などを捕食する。昼間は砂中に深いトンネルを掘り、その中に潜んでいる。
分布： 本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア、インド。県内では鈴鹿市、津市、名張市、伊勢市で記録がある。
現況・減少要因： 海岸にコンクリート堤防が建設されたことにより、その生息地の多くが消失した。現在生息が確認されている地点の多くは、堤防内陸側に残されたクロマツ林であるが、海水浴客向けの駐車場や宅地、港湾施設になることにより消失しつつある。クロマツ林も堤防によって海浜と分断されたことや、陰樹の侵入と落葉の堆積により、本種の生息に適さなくなった。薬剤散布や排水溝の設置なども本種の生息にとって脅威となっている。
保護対策： 生息地周辺での新たな海浜開発を中止することが第一である。薬剤散布の禁止、排水溝の除去などが考えられる。
文献： 184, 194, 249, 362, 368, 443, 458, 545.



(秋田勝己)

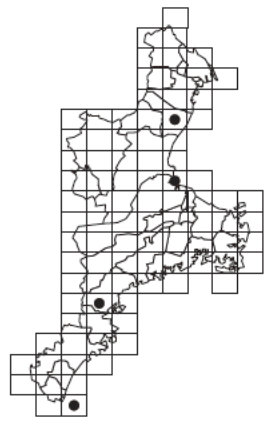
ウミホソチビゴミムシ
Perileptus morimotoi S. Uéno

コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点が5以下。生息基盤が脆弱である。
種の概要： 1.8~2.3 mm。河川下流の感潮域で、満潮時には完全に水没する岩石や礫が堆積した間隙や石下に生息する。
分布： 本州（静岡以西）、四国、九州、奄美大島に分布する。鈴鹿市、津市、松阪市、紀北町、紀宝町で確認されている。
現況・減少要因： 洪水後の漂着ゴミの下から採集された鈴鹿市の例を除くと、いずれも良好な河口干潟で得られている。河口付近の河川改修などがおこなわれると、本種の生息に大きな影響を与えるものと思われる。
保護対策： 生息地周辺での河川改修を行わないことである。
文献： 229, 388, 441, 443.



(秋田勝己)

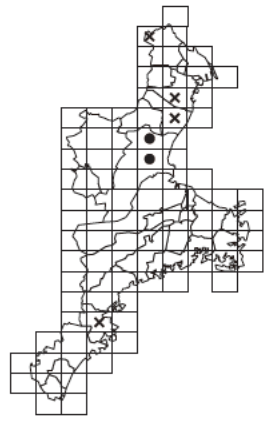
ヒトツメアオゴミムシ
Chlaenius deliciosus Bates

コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点が5以下。生息環境が悪化し、近年の減少が著しい。
種の概要： 体長10~11 mm。水田の畦、雑木林の林床などを夜間歩行しており、灯火にも飛来する。崖などの土中で越冬する。
分布： 本州、四国、九州、対馬。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、津市、志摩市、尾鷲市で確認されている。
現況・減少要因： いなべ市藤原町、鈴鹿市などの里山では1970年代までは灯火に普通に飛来したという。しかし、最近ではみられず、1998年以降は志摩市で記録されているだけである。多くの水田で耕地整理がなされ、里山の開発が進んだ。雑木林も手入れがされなくなったことにより、遷移が進んだり、林床がネザサに覆われてしまって本種が生息できる環境ではなくなった。
保護対策： 生息の確認が急務である。生息地では水田の耕地整理を行わないこと、雑木林の下刈りなど維持管理が必要であろう。
文献： 194, 252, 263, 357, 432, 443, 545.



(秋田勝己)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオトックリゴミムシ

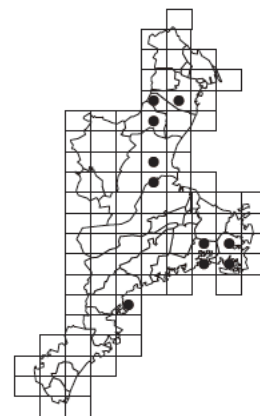
コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Oodes vicarius Bates

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点が10以下。生息環境が悪化し、近年減少している。**種の概要：** 体長12~13.2 mm。平地の池沼の水際に生息する。夜行性。昼間は池畔に堆積した濡れた落葉下に潜んでいる。**分布：** 本州、九州。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、伊勢市、志摩市、南伊勢町、紀北町で記録されている。**現況・減少要因：** 生息地は、一つの池沼中のせいぜい10数mにわたる水際に過ぎない。したがって、各個体群の大きさはきわめて小さい。また、現在それぞれの生息地は分断、孤立しているため、個体群間の交流は全くないものと考えられる。**保護対策：** 生息地である池沼の埋め立てや改修をしないことである。**文献：** 194, 273, 378, 443, 449, 451, 526, 540.

(秋田勝己)

オオヨツボシゴミムシ

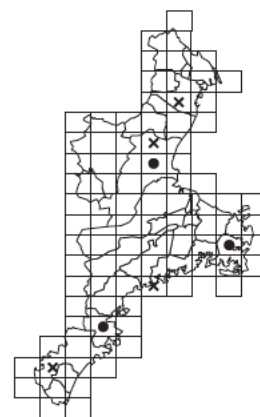
コウチュウ目オサムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Dischissus mirandus Bates

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点10以下。生息環境が悪化し、近年個体数が減少している。確実な生息地点は1か所のみである。**種の概要：** 体長17~19 mm。アカマツ林や明るい雑木林の林床などを夜間歩行しており、灯火にも飛来する。崖などの土中で越冬する。**分布：** 本州、四国、九州、琉球、台湾。県内では鈴鹿市、津市、志摩市、大紀町、尾鷲市、熊野市などで確認されている。**現況・減少要因：** 聞き取りによると、1970年代までは平地の灯火に普通に飛来したという。残された生息地の多くは宅地などに開発され、アカマツ林や雑木林も手入れがされなくなったことにより、遷移が進んだり、林床がネザサにおおわれてしまって本種の生息に適さなくなった。2000年以降確認されたのは津市と志摩市だけである。**保護対策：** 生息地の開発をしないこと。アカマツ林や雑木林の下刈りなど維持管理が必要であろう。**文献：** 194, 263, 270, 357, 443, 449, 451, 541.

(秋田勝己)

マダラコガシラミズムシ

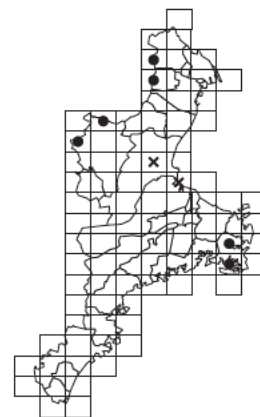
コウチュウ目コガシラミズムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

Haliphus sharpi Wehncke

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点が20以下。生息地が局地的で個体数も少ない。生息環境の悪化により、近年の減少が著しい。**種の概要：** 体長3.3~3.8 mm。水草の豊富な池沼、水田や水路、放棄水田、河川敷の湿地などに生息する。**分布：** 本州、四国、九州、朝鮮半島、中国。県内では菰野町、鈴鹿市、津市、伊賀市、志摩市で確認されている。**現況・減少要因：** 1952年に津市中央で記録されていることから、かつては平地の水田などにも広く分布していたものと思われる。生息地の多くは、耕地整理、河川改修、宅地造成、産業廃棄物の埋め立てなどにより消失した。伊賀市にはまだわずかに生息地が残されているものの、その生息地にも近年アメリカザリガニが侵入している。**保護対策：** 生息地では耕地整理など土地の改変を行わない。薬剤の散布などにも配慮が必要である。アメリカザリガニの駆除など積極的な保全策も必要であろう。**文献：** 194, 272, 306, 443, 449, 451, 487, 557, 581.

(秋田勝己)

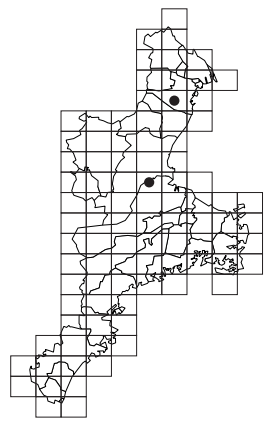
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

テラニシセスジゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Copelatus teranishii Kamiya

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：

選定理由： 既知生息地点が5以下。近年の確認記録が2例のみである。
種の概要： 体長4.8~5.5 mm。河川敷などの荒地に一時的にできた水たまりなど、不安定な水域に生息する。
分布： 本州、九州。三重県では四日市市、津市、紀北町で記録がある。
現況・減少要因： 2000年以降の記録は四日市市の1例のみである。荒地的な環境は、基本的に維持されることがない。河川敷の荒地は河川が頻繁に洪水を起こすことによって維持されるものであるが、近年は、上流にダムが作られて、洪水が起きる頻度が減少し、そういった荒地がなくなってしまった。また、河川の改修などによって広い河原自体がほとんどなくなってしまった。
保護対策： これ以上ダムを作ったり、河川の改修を進めたりしないことであろうが、常に不安定な環境を渡り歩く種であるために、その保全は非常に難しいものと思われる。
特記事項： *Copelatus* 属の同定は非常に難しく、特に古い記録のなかには他種と混同しているものも多いものと思われる。四日市市と津市の2例についての同定については間違いがないことを確認している。
文献： 194. 463.



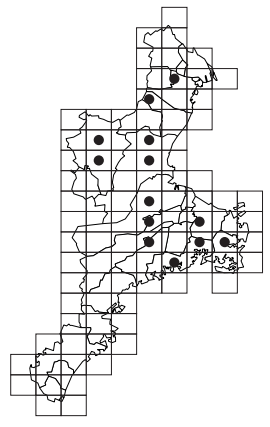
(秋田勝己)

クロゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Cybister brevis Aubé

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：

環境省：NT

選定理由： 既知の生息点数は100地点以下。以前は広く分布していたが、生息環境の悪化により減少している。
種の概要： 体長20~25 mm。成虫はヒルムシロ類やオモダカ類の水草に産卵する。成虫、幼虫ともに肉食である。
分布： 本州、四国、九州。県内では、菰野町、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、志摩市、南伊勢町で記録されている。
現況・減少要因： 圃場整備などによる池沼の減少、水路の3面コンクリート工事などの生息地の圧迫。また肉食魚（オオクチバス、ブルーギルなど）、アメリカザリガニによる捕食圧や水質悪化で激減している。
保護対策： 肉食魚やコイ、アメリカザリガニを侵入させず、汚水の流入しない水質にし、水草豊富な池を復元させる。池の周りには本種の蛹化に適した緩やかな傾斜のある露出した土部の確保も重要である。
文献： 273. 483. 544. 557. 573. 577.



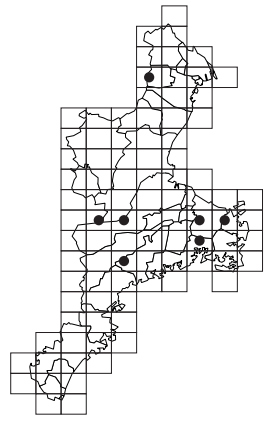
(乙部 宏)

キボシツブゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Japanolaccophilus nipponensis (Kamiya)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点が10以下。生息地が局地的で、一つの水系内でも生息する地点は限定される。環境が良好な溪流の指標種となりえる。
種の概要： 体長3.0~3.2 mm。後翅が退化しており、飛翔することができない。河川上流下部の清流に生息する。岩陰など水流が緩やかになった部分に垂れ下がったナルコスゲやタケ類の根、水面に浮かんだ落葉落枝がたまった中などにいることが多い。晩夏から秋に新成虫が出現し、初夏まで生存する。
分布： 北海道、本州、四国、九州、対馬。県内では菰野町（三滝川）、津市美杉町（雲出川）、大紀町大内山（大内山川）・大宮（藤川）、伊勢市（島路川、五十鈴川、横輪川）、南伊勢町南勢（伊勢路川）で確認されている。
現況・減少要因： ダム建設、河川改修などによる生息地の消失、生息地上流の森林伐採や道路工事などともなう水質汚濁などが減少の要因である。
保護対策： 生息が確認された地点、およびその上流域では河川改修や森林伐採を行わないこと、道路工事などにも配慮が必要である。
文献： 310. 311. 385. 465. 489. 530. 544.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

コウベツブゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Laccophilus kobensis Sharp

旧県：—

選定理由： 現存する生息地点が5未満であり、減少傾向にある。

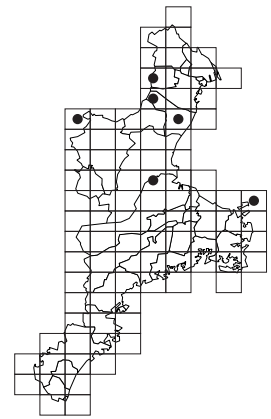
種の概要： 体長3.4~3.8 mm。水深の浅い池沼、湿地、放棄水田などに生息する。

分布： 本州、四国、九州、石垣島、西表島、国外では中国に分布。菰野町、鈴鹿市、津市、鳥羽市で記録されているほか、伊賀市、鳥羽市(答志島)で確認されている。

現況・減少要因： 津市では河川敷の湿地や水たまりにみられたが、近年は周辺環境が大きく変わり、見る事ができない。1990年代には伊賀市の山間にある水田や休耕田で比較的良好に見られる種であったが、休耕田の植物遷移が進んだこと、水田にはアメリカザリガニが侵入したことなどによって、現在ではほとんど見られなくなった。答志島でも、生息地周辺の水田耕作がなされなくなっており、いずれ植物遷移の進行によってその生息地も消失してしまう可能性が高いものと思われる。

保護対策： 生息地の池や水田にザリガニが侵入しないように対策を講じる。また、侵入してしまった場合には、早急に駆除をする。生息地周辺の水田のザリガニを駆除し、無農薬で水田耕作をすることによって個体数の回復は図られるものと思われる。

文献： 443, 451, 544, 579, 581.



(秋田勝己)

ヒメシマチビゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Nebrioporus nipponicus (Takizawa)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地点が10未満。近年減少傾向にある。

種の概要： 体長4.4~5.2 mm。河川中流の水質がよく、緩やかな細流に生息する。灯火にも飛来する。

分布： 本州、四国。三重県では、四日市市(内部川)、亀山市(鈴鹿川)、鈴鹿市(御幣川)で記録される。鈴鹿市の1例を除くと、いずれも鈴鹿山脈を源流にもつ河川で、三重県中部から南部の河川では発見できない。

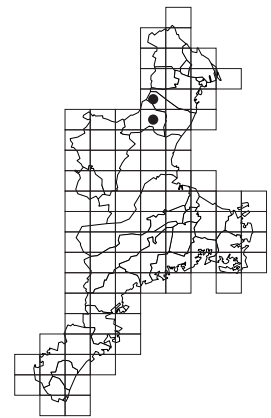
現況・減少要因： 2000年代の記録は鈴鹿市のみである。内部川は1990年代に多産したが、2005年には生息地点のすぐ上流で河川改修工事を行っており、生息地周辺の水がなくなっていた。鈴鹿川の生息地では近年の調査では発見されなかった。河川の改修や汚染は直接本種の絶滅に結びつくものと思われる。

保護対策： 生息地周辺では河川の改修などをおこなわないことである。

特記事項： かつては、コシマチビゲンゴロウ *N. hostilis* (Sharp)と混同されていた。

この種は、九州の固有種である。近年の記録でもコシマチビゲンゴロウとして記録されているものは、本種の誤同定であると思われる。

文献： 194, 254, 443.



(秋田勝己)

ゴマダラチビゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Neonectes natrix (Sharp)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地点が5以下。近年の記録がない。

種の概要： 体長2.9~3.7 mm。水質がよい河川中流に生息する。灯火にも飛来する。

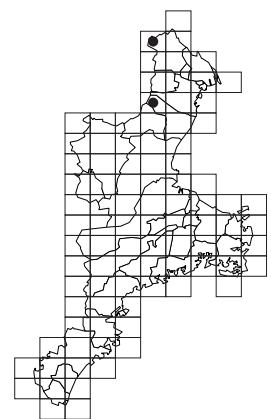
分布： 北海道、本州、四国。三重県では、いなべ市(員弁川)、四日市市(内部川)、鈴鹿市(御幣川)で記録される。いずれも鈴鹿山脈を源流にもつ河川で、三重県中部から南部の河川では発見できない。

現況・減少要因： 2000年代の記録はない。員弁川は1950年代の記録である。内部川は1990年代に多産したが、2005年には生息地点のすぐ上流で河川改修工事を行っており、生息地周辺の水がなくなっていた。河川の改修や汚染は直接本種の絶滅に結びつくものと思われる。

保護対策： 生息地周辺では河川の改修などをおこなわないことである。

特記事項： 内部川ではヒメシマチビゲンゴロウと混生していた。

文献： 194, 460, 573.



(秋田勝己)

キボシケシゲンゴロウ

コウチュウ目ゲンゴロウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：DD

Nipponhydrus flavomaculatus (Kamiya)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点が10以下。生息地が局地的で、一つの水系内でも生息する地点は限定される。環境が良好な溪流の指標種となりえる。

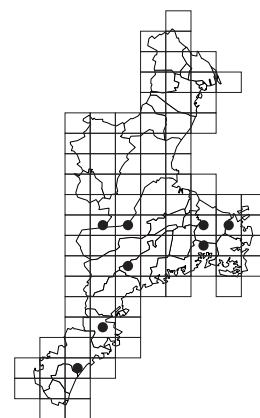
種の概要： 体長2.5 mm。河川上流下部の清流に生息する。岩陰など水流が緩やかになった部分に垂れ下がったナルコスゲやタケ類の根、水面に浮かんだ落葉落枝がたまった中などにいることが多い。

分布： 北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島。県内では菰野町（湯の山）、津市（雲出川）、大紀町（大内山川）、伊勢市（島路川、五十鈴川、横輪川）、南伊勢町（伊勢路川）、尾鷲市（中川）、熊野市（井戸川）で確認されている。

現況・減少要因： ダム建設、河川改修などによる生息地の消失、生息地上流の森林伐採や道路工事などともなう水質汚濁などが本種の生息にとって脅威となるものと思われる。

保護対策： 生息が確認された地点、およびその上流域では河川改修などを行わないこと。森林伐採や道路工事などにも配慮が必要である。

文献： 194. 204. 310. 311. 385. 466. 544.



(秋田勝己)

ヤマトホソガムシ

コウチュウ目ガムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Hydrochus japonicus Sharp

旧県：

選定理由： 既知の生息点数は10地点以下。各種の水生昆虫と同様に近年減少している。

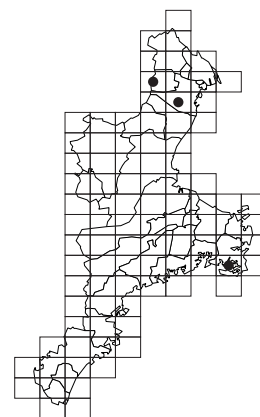
種の概要： 体長2.5~3 mm。水生植物の豊かで浅い池沼、湿地、水田などの水中の泥中に隠れている。また付近の灯火にも集まる習性がある。

分布： 本州、四国、九州。県内では、菰野町、鈴鹿市、志摩市などで確認されている。

現況・減少要因： 圃場整備などによる池沼の減少、農業や生活污水による水質悪化、アメリカザリガニによる水域環境の劣化も見落としてはならない。

保護対策： 生息地の水辺環境を保全し、コイなど放流せず侵略的外来種の根絶を行う。

文献： 204. 443. 451. 579. 581.



(乙部 宏)

ヤマトモンシテムシ

コウチュウ目シテムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

Nicrophorus japonicus Harold

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下。シテムシ類の中ではかつてはよく見られた大型種だが、最近の記録に乏しく、全国的にも同様の傾向である。

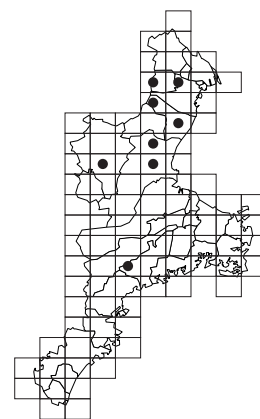
種の概要： 体長14~25 mm。動物屍体の食物連鎖の第一次清掃者であり、成虫、幼虫ともに腐肉や寄食する昆虫類の幼虫などを食す。

分布： 本州、四国、九州。国外ではモンゴル、中国、朝鮮半島、台湾に分布。県内では、菰野町、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、津市、大台町で記録されている。

現況・減少要因： 本来の生息地は低地、市街地周辺と考えられ、それらの生息地のほとんどが宅地などに開発されたため減少し、現在では河川敷でわずかに確認されているにすぎない。

保護対策： 現在生息している環境は大きな川の中流から下流域に点在する氾濫原を含む河川敷であるが、そのような環境は公園やグランドなどに開発されやすい。生息状況の調査と生息地の保全が急務である。

文献： 195. 248. 272. 369. 443. 468. 487. 509. 573. 574.



(乙部 宏)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ホソヒラタシデムシ コウチュウ目シデムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Silpha longicornis Portevin 旧県：—

選定理由： 本州北中部では分布が広いが、県内では分布域が台高山脈の高地帯に局限され、記録も極めて少ない。

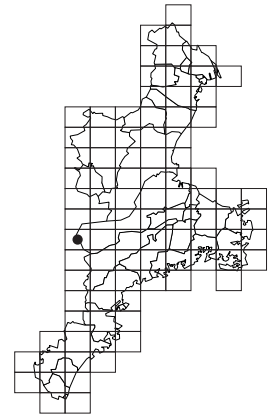
種の概要： 体長 16~18 mm. 主食はミミズ類等の無脊椎動物と推定され、樹林内や林縁に生息する。飛翔できず、移動能力は乏しいと推定される。他地域では夏季に成虫・幼虫がともに観察され、春季に繁殖するものと考えられる。本州北中部の寒冷地域の樹林に広く分布するが、鈴鹿山脈には分布せず、紀伊半島の台高山脈と大峯山脈に著しく隔離された分布域がある。かつて紀伊半島の個体群は独立種とされたこともあったが、詳細な遺伝子解析、形態解析の結果、ホソヒラタシデムシのシノニムとされた。

分布： 県内では台高山地の明神平周辺で記録されるのみである。大台ヶ原山の奈良県側でも記録があるので、潜在的には同地域の三重県側にも生息する可能性は高い。

現況・減少要因： 明神平周辺では個体群は安定しているようであるが、分布域が極めて狭いため局地的な環境の変化でもダメージが懸念される。

保護対策： 分布域内の環境変化をできるだけ避ける必要がある。

文献： 277. 278. 469.



(久保田耕平)

ヘリトゲコブスジコガネ コウチュウ目コブスジコガネムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Trox (Trox) mandli Balthasar 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点は 5 以下である。県内においては生息地は非常に局所的である。

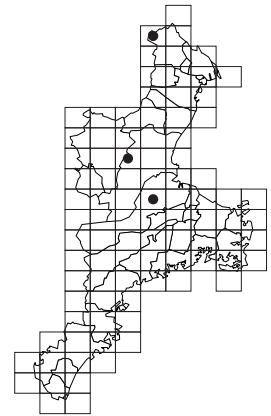
種の概要： 体長 5.1~6.9 mm. 春に出現し、全国的には河川敷や人里近くに残された緑地で、猛禽類のペリットやキツネの糞に含まれている毛や軟骨を食べる。三重県においては分布の状況が少し違う。

分布： 北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、シベリア(東部)に分布する。県内では、鈴鹿山系(北部)、青山高原、松阪市堀阪山で記録されている。その中で青山高原は比較的多く確認されているが、それ以外の記録はわずかである。

現況・減少要因： 最も生息数の多い青山高原では、風力発電施設の増設で減少が危惧される状況である。

保護対策： 生息地の保全。生息地での調査を行い、開発には最大の配慮をすべきである。

文献： 209. 496. 554.



(稲垣政志)

ヒメオオクワガタ コウチュウ目クワガタムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Dorcus montivagus (Lewisi) 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、台高山系の極めて限られた地域に生息するが、分布の限界産地のため、個体数も少ない。特に標高 1,000 m 前後に生息する個体群はブナ帯が植林によって分断されており、小規模な伐採でも絶滅してしまうおそれが大きい。また、紀伊半島に生息する本種は他地域から隔離された遺存個体群として極めて貴重である。

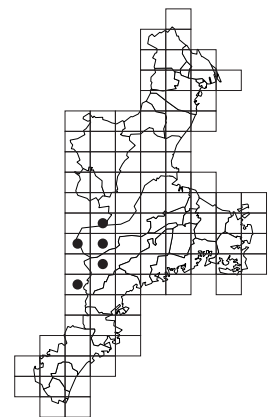
種の概要： 体長 25~38 mm. 自然度の高いブナ帯で見られる。幼虫は主にブナの太い倒木や立ち枯れなどの朽ちた部分を食し、成虫は夏から秋にかけてヤナギ類などの樹液に集まる。

分布： 北海道(南部)、本州、四国、九州(九州産は亜種キウシュウヒメオオクワガタ ssp. adachii とされている)、国外では朝鮮半島、中国(北部)。県内では、津市美杉町三重大学演習林、松阪市国見山、大台町父ヶ谷および狸峠。

現況・減少要因： 本種は湿潤な環境でしか生息できないため、ブナ林の伐採による森林の減少と林内の乾燥化が減少要因として考えられる。

保護対策： 生息地の調査と本種が生息する自然林の保全が急務である。

文献： 188. 209. 454. 495. 574.



(乙部 宏)

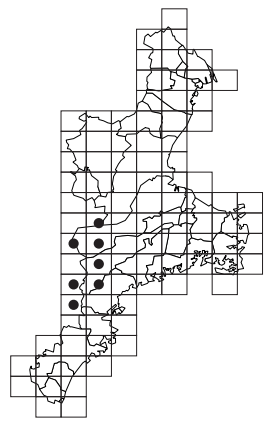
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ルリクワガタ コウチュウ目クワガタムシ科
Platycerus delicatulus Lewis

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は10以下。全国的にも局所的に分布する種であり、県下では台高山系の限られた地域に生息している。また、個体数も少なく、生息環境の軽微な変化で絶滅してしまうおそれがある。
種の概要： 体長9~13 mm。自然度の高いブナ帯で見られる。幼虫は広葉樹の立ち枯れや、倒木の朽ちた部分を食べ。成虫は晩春から初夏にかけて出現する。
分布： 本州、四国、九州（雲仙岳、多良岳周辺に産する個体群は亜種ウンゼンルリクワガタ *ssp.unzendakensis* とされている）、国外では中国。県内では津市美杉町、松阪市、大台町宮川、紀北町海山区で記録されている。
現況・減少要因： 本種は山頂部付近や一部の限られた斜面にしか発生できないことが多く、極めて限られた分布を示す。幼虫は自然度の高いブナ林の多湿の環境でしか成育出来ないため、ブナ林の伐採による森林の減少と林内の乾燥化が減少要因と考えられる。
保護対策： 本種の生息する自然林の保全が急務である。
文献： 187. 209. 454. 504. 524.



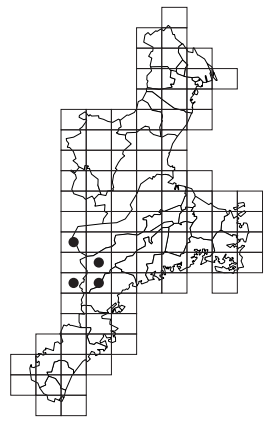
(乙部 宏)

キイニセコルリクワガタ (キイルリクワガタ) コウチュウ目クワガタムシ科
Platycerus akitaorum Imura

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は5以下。本県は分布の北東限にあたり、軽微な生息環境の変化で絶滅してしまうおそれがある。
種の概要： 体長8~11 mm。標高1,000 m以上の落葉広葉樹林に生息する。成虫は5~6月に出現し、日中ブナ、ミズナラ、トネリコ類の新芽に集まる。幼虫は地表に落ちた広葉樹の枯れ枝などの朽ちた部分を食べる。
分布： 日本固有種で本州（三重県、奈良県のみ）に分布。県内では台高山系の標高1,000 m以上の限られた地域（松阪市、大台町宮川、紀北町海山区）に分布。
現況・減少要因： ブナを主体とした良好な落葉広葉林が必要で、そのため伐採による自然林の消失と森林の乾燥化は本種の生息にとって大きな脅威である。安定した生息地と思われがちな大台ヶ原の特別保護区内においてもニホンジカによる食害によって林床の乾燥化が進みつつある。
保護対策： ニホンジカによる食害の防止策を含む自然林の保全が急務である。
文献： 188. 209. 454.



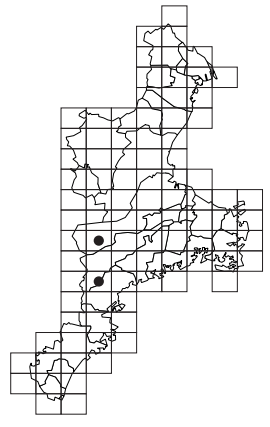
(乙部 宏・秋田勝己)

ヒメスジマグソコガネ コウチュウ目コガネムシ科
Aphodius (Agrilinus) hasegawai Nomura et Nakane

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は5以下。県内ではこれまでに2例の記録があるのみである。
種の概要： 体長3.0~4.3 mm。春季に個体数を増す。山地の林内のサル糞で見つかることが多いが、雑食性もあり動物の遺体や猛禽類のペリットでも見つかることがある。
分布： 本州、四国、九州。県内では多気郡大台町大杉谷と松阪市飯高町蓮の2か所のみで記録されている。
現況・減少要因： 県内での生息数が非常に少ないため詳しい現況は把握できない。さらなる調査が望まれる種である。
保護対策： 生息地の保全。
文献： 294. 470.



(稲垣政志)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

コスジマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Aphodius (Pleuraphodius) lewisii Waterhouse

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息地点数は5地点以下。全国的にも分布が限られており、県内においても局限されている。

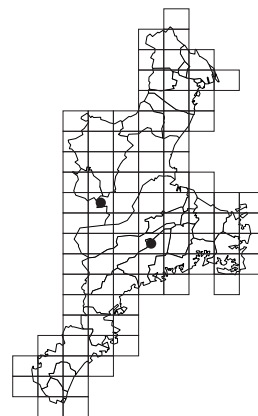
種の概要： 体長3~4 mm。成虫、幼虫ともにシカやウシなどの新鮮な糞を食し、灯火にもよく飛来する。

分布： 本州、九州、種子島、奄美大島など。県内では、津市、多気町で確認されている。

現況・減少要因： 近年確認されているが個体数も少ない。また生息地の一部は処分場等施設計画も含まれており、将来的に懸念されている。

保護対策： 生息地および付近の開発は避けたい。また周辺の灯火には本種が反応しない工夫が必要である。

文献： 302.



(乙部 宏)

ニセマキバマグソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Aphodius (Agoliinus) morii Nakane

旧県：—

選定理由： 県内では大高山系でのみ記録されており、生息地は極めて限局的である。

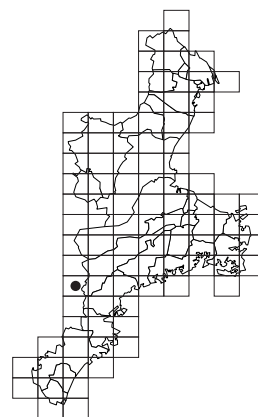
種の概要： 体長4.5~6.8 mm。晩夏から秋にかけて個体数を増す。標高1,000~2,500 m付近での採集例が多い。林内の新鮮な鹿糞から見つかる。

分布： 本州、四国。県内では大台ヶ原でのみ記録されている。

現況・減少要因： 標高の高い大台ヶ原のきわめて限局した地域のみで見つかっている。生息環境の変化、特に鹿による林床植物への食害による林床の乾燥化のための生息条件の悪化が目立つ。

保護対策： 生息地の保全。増えすぎたニホンジカの頭数を適正に調整すること。

文献： 287.



(稲垣政志)

ミヤマダイコクコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Copris (Copris) pecuarius Lewis

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であり、山地の自然林が良好に保たれた環境に生息している。

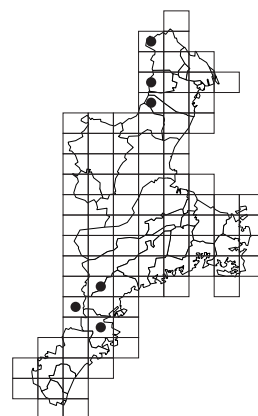
種の概要： 体長17.0~24.2 mm。林内の鹿糞を好むが、放牧地から見つかることも多い。新鮮な鹿・牛の糞に集まる。夜行性で灯火に集まる。8~9月に個体数が増える。

分布： 本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、シベリア北部。県内では鈴鹿山系(いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市)と大台高山系(大台町宮川、紀北町海山区)。

現況・減少要因： 自然林の伐採による減少や林道の開通による森林の乾燥化により減少している。

保護対策： 現在残っている自然林をできるだけ保全すること、増えすぎたニホンジカの頭数調整が必要である。

文献： 203. 232. 234. 330. 358. 412. 574.



(稲垣政志)

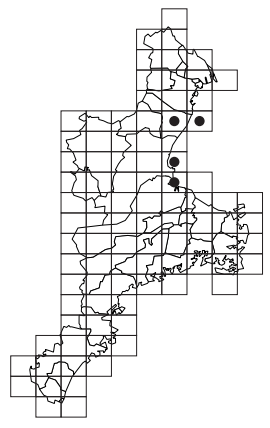
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヤマトケシマグソコガネ コウチュウ目コガネムシ科
Leiopsammodius japonicus (Harold)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (EN)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点 5 以下。生息環境が悪化し、近年の減少が著しい。
種の概要： 体長 3.5~4.7 mm。海岸の砂浜に生息する。海藻や流木、漂着物の下から見つかることが多い。4~5月の暖かい日に群飛することがある。
分布： 北海道、本州、四国、九州、対馬。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市の海岸で確認されている。
現況・減少要因： 護岸工事や浸食による砂浜の狭小化が進行しており、危機的な状況にある生息地が多い。また、砂浜への車両の乗り入れ、必要のない過度な海岸清掃は本種にとっては生息の脅威となっている。
保護対策： 残された自然砂浜海岸に開発行為を行わないこと。
文献： 245, 253, 330, 406.



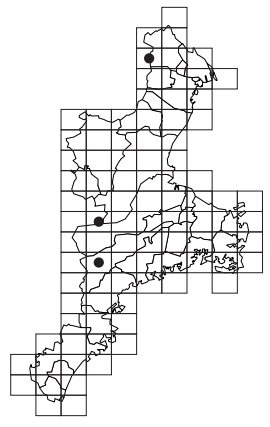
(稲垣政志)

オオチャイロハナムグリ コウチュウ目コガネムシ科
Osmoderma opicum Lewis

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、大木の樹洞でしか生息できないため、自然林の指標となる昆虫である。軽微な環境変化でも絶滅してしまうおそれがある。
種の概要： 体長 22~23 mm。成虫は温帯林のブナ、ミズナラ、コメツガなどの樹洞で 7~8月に見られる。幼虫は樹洞内に堆積した腐植土や腐朽部などを食し、2年ほどかけて成虫になる。成虫は購香(じゃこう)臭がする。
分布： 日本固有種で、本州、四国、九州、屋久島に分布。県内では、いなべ市、津市美杉町、大台町宮川。
現況・減少要因： 鈴鹿山系においては、いなべ市石樽峠の 1 例のみの記録である。台高山系では、北部にあたる津市美杉町で数本発生木を確認している。減少要因として、自然林の伐採や林道の開通などに伴う森林の乾燥化が考えられる。
保護対策： 生息には樹洞のある巨木が必要であるため、大径木の伐採は行わず生息地の自然林は保全すべきである。
文献： 209, 332, 439.



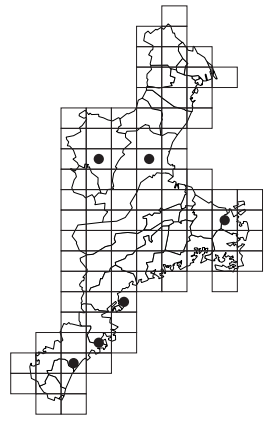
(乙部 宏)

キョウトアオハナムグリ コウチュウ目コガネムシ科
Protaetia lenzi (Harold)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下である。本種はシイ、カシ類の古木が残る森に生息する。全国的にも分布は限られており、県下でのここ 10 年の記録は、今回の調査で 2 個体確認できただけであった。
種の概要： 体長 19~24 mm。幼虫はシイなどの根際の腐植部分を食し、成虫は夏に出現する。樹冠を活発に飛翔し、広葉樹の樹液や果実に集まる。
分布： 日本固有種で、本州、四国、九州および周辺離島に分布。県内では津市、伊賀市、伊勢市、紀北町、熊野市に分布。
現況・減少要因： 湿潤な照葉樹林がないと生息できず、森林の一部が伐採されただけでも、森全体が乾燥してしまうと生息できなくなる。
保護対策： 生息地の調査と生息環境の保全が必要であり、森林内の小規模伐採でも配慮が必要である。
文献： 209, 272, 377, 441, 446, 555.

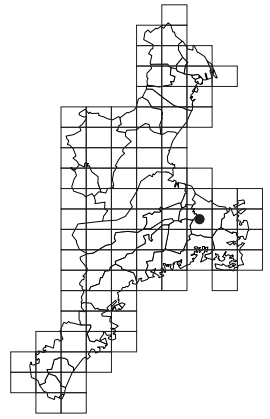


(乙部 宏)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオムツボシタマムシ コウチュウ目タマムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Chrysobothris ohbayashii Y.Kurosawa. 旧県：情報不足 (DD)

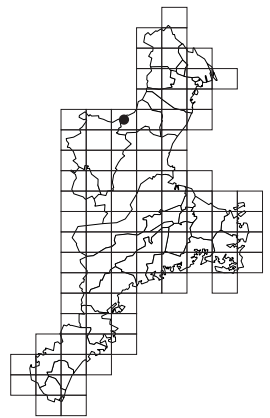
選定理由： 既知の生息点数は5地点以下。全国的に産地も限られている。
種の概要： 体長14~20 mm。上翅には6か所の黄緑色の小さな凹紋があり、日本産同属の中では最大種である。クヌギやカシ類の新しい伐採木などに集まり、幼虫は樹皮下に食入する。
分布： 本州、四国、九州、対馬。県内では伊勢市で記録されており、熊野市でも目撃されている。
現況・減少要因： クヌギやカシ類の大木が多く繁る森林が広範囲に必要であるが、そのような森は開発の対象になりやすい。
保護対策： 生息地の林を伐採しないことである。
文献： 540.



(乙部 宏)

クロコモンタマムシ (ヤノコモンタマムシ) コウチュウ目タマムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Poecilonota variolosa yanoi Y. Kurosawa 旧県：—

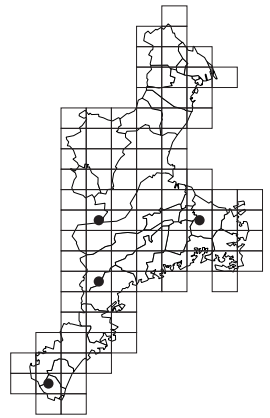
選定理由： 既知生息地点が2。生息基盤が脆弱である。
種の概要： 12~17 mm。成虫は5~7月に出現し、日当たりのよいヤマナラシの生木に集まる。幼虫は肥厚した樹皮に穿孔する。成虫の時期に幼虫がみられることから、成虫になるまで2年かかるものと思われる。全国的に記録が少ない。
分布： 北海道、本州。国外ではヨーロッパから極東ロシア、中国北部、朝鮮半島に分布する。
現況・減少要因： 西日本亜種 *yanoi* は、三重県産と推定される標本をもとに記載されたものであるが、詳細な産地は不明である。近年、伊賀市の比較的近接する2産地が発見された。いずれも道路法面の小規模なヤマナラシ群落であるが、1か所については、そのほとんどが伐採されてしまい生息地が消失した。
保護対策： 残されたヤマナラシ群落の保全を図ることである。陽樹であることから、場合によっては下刈りを実施するなどのより積極的な保全策も求められる。
特記事項： 「三重県」は本亜種のタイプロカリティーである。
文献： 359.



(秋田勝己)

トゲフタオタマムシ コウチュウ目タマムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Dicerca tibialis Lewis 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数5以下である。生息範囲は局所的である。
種の概要： 体長10~15 mm。雄の中脛節内方には鋭く細長い棘がある。成虫は夏から秋にかけて羽脱し、スギなどの樹皮下で越冬する。幼虫はモミなどの枯枝に食入する。
分布： 本州(関東以西)、四国、九州。国外では中国に分布し、県内では津市美杉町、大台町、伊勢市で確認されている。
現況・減少要因： 生息場所はモミの大木の生える自然林である。過去から行われてきた自然林の造林地化が生息基盤に影響を与えていると推察される。
保護対策： 生息地での開発、特にモミ古木などの針葉樹が伐採されないように法制化する。さらに今後も詳細な調査の継続が必要。
文献： 185. 195. 235. 333. 360. 438.



(今村隆一)